



国立大学法人

お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

<https://www.ocha.ac.jp>

発行：2025年6月



お茶の水女子大学

大学案内2026



お茶の水女子大学

OCHANOMIZU
UNIVERSITY

GUIDEBOOK 2026

Admission Policy

お茶の水女子大学の教育と アドミッション・ポリシー

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、総合的な教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため、21世紀型文理融合リベラルアーツ教育、専門教育における複数プログラム選択履修制度、及びキャリア教育を3つの柱とする教育を展開しています。複数プログラム選択履修制度では、将来のキャリア展望や関心に応じて、専門教育プログラムを履修します。第1のプログラムとして、所属する学科の開設する「主プログラム」を履修します(必修、入学した学科のものを選択)。次に第2のプログラムとして、専門領域に深く特化する「強化プログラム」、他の専門領域を横断して学ぶ「副プログラム」、領域融合型・学際型の「学際プログラム」のいずれかを選択し履修します(選択必修)。また文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科では、それぞれの教育目標にそった4年一貫の「専修プログラム」を設けています。各自の目的や関心によって、主体的に学修することができます。

お茶の水女子大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわらず自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。



お茶の水女子大学

OCHANOMIZU UNIVERSITY

GUIDEBOOK 2026

— CONTENTS

- 002 MESSAGE
- 004 道なき道を切り拓き、磨かれてきた歴史と伝統
- 006 あらゆる分野の「知」が集結、恵まれた環境のワンキャンパス
- 008 想いと知を受け継ぎ、新たな未来を創造する卒業生たち

お茶の水女子大学の教育

010	ディプロマ・ポリシー	016	グローバル教育
011	教育プログラム	020	キャリアデザインプログラム
012	教養教育： 21世紀型文理融合リベラルアーツ	021	コンピテンシーベース教育の推進
014	専門教育： 複数プログラム選択履修制度	022	教員免許等資格取得課程
		023	学修支援
		024	就職・進学実績

学部・学科／大学院

026	学部・学科・プログラムインデックス	068	[生活科学部]
028	[文教育学部]	070	食物栄養学科
030	人文学科	072	人間生活学科
036	言語文化学科	076	心理学科
044	人間社会科学科	078	[共創工学部]
050	芸術・表現行動学科	080	人間環境工学科
054	グローバル文化学 (学科共通)	082	文化情報工学科
056	[理学部]	084	学部・学科の枠を越えて学ぶ 全学的学際教育
058	数学科	086	特色ある副プログラム
060	物理学科	087	特色ある学際プログラム
062	化学科	088	大学院人間文化創成科学研究科
064	生物学科	093	大学院生へのサポートシステム
066	情報科学科	094	研究を支援する豊富な研究所

お茶大キャンパスライフ

096	キャンパス環境	104	サークル活動
098	学生生活サポート	106	お茶大生の日
099	学生食堂	110	奨学金制度
100	学生寮	112	私がお茶の水女子大学を 選んだ理由
102	年間行事		

インフォメーション

113	入試関連情報	121	アクセス／キャンパスMAP
-----	--------	-----	---------------

MESSAGE

女性たちの活躍を未来へ！

お茶の水女子大学は、1875年に日本初の女性のための高等教育機関「東京女子師範学校」として創立されました。今年、創立150周年を迎えます。これまで女性として日本初の帝国大学生、理学博士をはじめとして国内外で活躍した多くの卒業生を輩出するなど、日本の女子教育をリードしてきました。現在、本学では、築かれた歴史と伝統を基盤として、広い視野と豊かな感性をもって未来を拓く女性たちの育成に取り組んでいます。

2004年、国立大学の法人化に際して、お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げました。このミッションのもと、日本国内に限らず、また民族、人種、年齢を問わず、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを目指しています。そのために、アフガニスタンの女子教育支援をはじめとして、アジア・アフリカの女性や幼児のための教育支援と研究交流を継続して実施しています。

世界は今、気候変動、資源枯渇、人口動態の激変、紛争など、地球規模で連帯して解決に取り組まなければならない様々な喫緊の課題に直面しています。これらの課題の解決のためには、女性の知性、想像力そして未来へのグローバルな視点からのビジョンが必要とされます。このような時代にあって、お茶の水女子大学で学ぶ学生が自らの道を見出し、人びとの幸せに貢献できるよう、「文理融合リベラルアーツ教育」「複数プログラム選択履修制度」「実践的なグローバル教育」など、特色ある教育システムを構築し、豊かな学びの場を提供しています。こうした教育・実践を通して、学生自身が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、努めています。加えて、学生と教員の距離が近く、一人ひとりの学生としっかり向き合える少人数教育によって、それぞれの個性を大切にしたいきめ細やかな指導が行われています。

近年は今まで以上に、女性の社会的活躍が期待され、豊かな専門知識を持ち、グローバルな場でリーダーシップを発揮する女性が求められています。そのため本学では、高度で先端的な教育・研究を行うとともに、男女共同参画社会の実現、グローバル化する社会で活躍する女性リーダーの育成に努めてきました。たとえば、国内外から優れた教育者・研究者を招いてリーダーシップに関するシンポジウムや講演会を開催しています。他にもリーダーシップを持ち、より良い社会をともに作る力をつけることを目的にしたキャリアデザインプログラムや、豊かな国際性を育むための短期・長期の海外派遣プログラム、本学で開催するサマープログラムも用意しています。

2024年度に設置された共創工学部ではデータサイエンスを活用し、「工学と人文学・社会科学の知を協働し、共に未来の環境、社会、文化を創る工学系女性リーダーの育成」を目指しています。また、めざましい進展の見られるITやAI技術の活用を通して、日本のみならず世界の様々な課題を解決することが求められています。本学ではそのような時代の要請に応じて、文理融合AI・データサイエンスセンターを設置し、数理・データサイエンス、AIの素養を持つ人材の育成にも努めています。

本学は都心にあって四季を感じさせる自然豊かなキャンパスに、保育施設から大学院までを備えています。その特色を活かして、人生100年時代と言われる現代にあって、人々が一生を通じて健康で幸せに暮らし、豊かな夢を育める社会の実現に貢献できるよう教育・研究を推進し、高等教育機関としての役割を果たしてまいります。そして、これからも、本学が刻んできた伝統を礎に、新たな時代の要請にも応じた学びと研究の環境を整備して、寄り集う人びとがリーダーシップを発揮し、新たな社会的価値を創造する女性たちの育成に努めてまいります。

国立大学法人お茶の水女子大学長

佐々木 泰子

Profile

1976年お茶の水女子大学文教育学部文学科国文学国語学卒業、1978年同大学院人文科学研究科日本文学専攻修了、1993年同大学院人文科学研究科日本語文化専攻修了。専門は社会言語学、日本語教育。お茶の水女子大学助手、助教、教授、国際教育センター長、附属小学校長、理事・副学長を経て2021年4月より現職。

道なき道を切り拓き、 磨かれてきた歴史と伝統

時代の先駆者たちを輩出し続けてきた 国立の女子最高学府

日本初の官立女子高等教育機関

お茶の水女子大学は、1875年に御茶ノ水（現文京区湯島）の地に、東京女子師範学校が設立されたことに始まります。本学が設立された目的は、女子の教育を普及させるための女性教員の養成でした。

1879年、第1回卒業生は総勢15名。1890年に女子高等師範学校となってからは、我が国唯一の官立の女性のための高等教育機関として、全国の学びを求める女性たちの憧れの的となりました。また、本学を巣立った女性たちは、次世代の女子教育を担い、日本各地の学校に赴任して教壇に立ちました。

研究・教育の拠点を担う女子総合大学

現在の文京区大塚に移転したのは1932年、関東大震災（1923年）で全校舎を焼失した後のことでした。現在使用している講堂（福音堂）や大学本館、附属高等学校校舎、附属幼稚園園舎、大学正門は、その当時に建てられたものです。

1949年の戦後の学制改革によりお茶の水女子大学が発足、翌年文教育学部、理学部、家政学部（現在の生活科学部）の3学部を持つ女子総合大学となりました。1963年には修士課程を、1976年には博士課程を設置するなど、教育・研究環境を整えながら、たゆみない発展と進歩を遂げてきました。2024年には新たに共創工学部を開設し、これまでの3学部の教育・研究の伝統を礎に工学と人文学・社会科学の知を協働させ、共に未来の環境、社会、文化を創る工学系女性リーダーの育成を目指します。

あらゆる人々が
活躍する社会の
実現の道を切り拓いた
お茶の水女子大学の
先駆者たち



安井 てつ 1870-1945
東京女子大学
第2代学長



黒田 チカ 1884-1968
日本初の女子帝大生
日本初の女性化学者



小泉 郁子 1892-1964
男女共学論を唱える
教育専門家



保井 コノ 1880-1971
日本初の女性理学博士



辻村 みちよ 1888-1969
日本初の農学博士



湯浅 年子 1909-1980
国際的に活躍した
女性物理学者



「御茶ノ水」の地に開校
（現東京都文京区湯島1丁目）



開校50年記念式典を挙行
（貞明皇后陛下行啓）



現在地の新校舎で
開校記念式を実施
（東京都文京区大塚2丁目）



大学院家政学研究科
（修士課程）を設置

共創工学部を新設

1874 1875 1885 1890 1923 1925 1932 1936 1949 1963 2004 2024 2025

お茶の水女子大学の前身
東京女子師範学校の
設立を布達



東京女子師範学校は、
東京師範学校と合併し、
東京師範学校女子部となる

関東大震災により、
校舎焼失



現在地の
新校舎に移転
（本校と附属幼稚園）



お茶の水女子大学
（文学部・家政学部）設置



国立大学法人法により、
国立大学法人
お茶の水女子大学に移行



創立150周年

あらゆる分野の「知」が集結、 恵まれた環境のワンキャンパス



ENVIRONMENT

アクセス良好、歴史と伝統に培われた充実の学習環境



お茶の水女子大学は、山手線の内側に位置し、池袋や東京などへのアクセス良好な場所にあります。周辺には他の国立・私立の大学、教育研究施設や文化施設が点在しており、学修や研究に取り組むことができます。他大学や各種研究機関との行き来もしやすく、共同研究からサークル活動まで外部との交流も活発に行われています。

緑豊かなキャンパスには、全学部・大学院のほか、附属幼稚園、小・中・高等学校、ナースリー、文京区立こども園が併設されています。70万冊の蔵書を誇る附属図書館には、お洒落でリラックスできる学習空間があり、学生たちの学びを支援します。また、2022年にオープンした音羽館や、お茶大SCC、小石川寮の学生寮は、キャンパスライフと豊かな学びを後押ししています。



LEARNING

文理融合と少人数制によるきめ細やかな教育

学部と大学院、研究施設までも含む文理双方の学部が一つの敷地内に集結した環境はまさに文理融合を具現化しています。学際的研究も盛んです。その独創的な発想と先進的な研究開発の成果は、教育の現場に積極的に反映されてきました。

お茶の水女子大学の教育における最大の特長が、少人数制による高度な教育課程です。学生と教員の距離が近く、一人ひとりの学生としっかり向き合える徹底した少人数制教育が、それぞれの個性を大切にしながらきめ細かな指導を実現しています。特に専門教育課程では、少人数のゼミや実験・実習を通して、それぞれの目指す目標に合致した教養知と専門知、学術知と実践知を、そして自然科学のみならず、人文・社会科学も含めた総合知を育成します。



PROGRAM

独自の教育プログラムとコンピテンシーの育成



教養教育と専門教育には、独自の教育プログラムを導入しています。教養教育の軸となる「21世紀型文理融合リベラルアーツ」は、文系理系の枠を越えた領域横断型の教育プログラムです。多角的なプログラムにより、領域横断的視野、課題解決能力、論理的思考力を養います。専門教育では「複数プログラム選択履修制度」を軸に設けています。専門領域をさらに深化して学ぶことや、広範な領域に触れて知識の幅を広げるなど、知識と技能を体系的に学ぶことができます。

また、知識やスキルを組み合わせるなどして、社会の場で成果を上げる能力である、コンピテンシーの育成にも力を入れています。取組やサポートにより、大学での学びがより豊かで能動的なものとなるのが期待されます。



GLOBAL

充実した留学支援体制と実践的なプログラムでグローバル女性リーダーを育成



国際性を備えた女性リーダーの育成を目指してグローバル教育を推進しています。高い留学比率も本学の特色です。豊富な海外協定大学があり、交換留学制度・海外短期研修プログラムの拡充や、提携大学との単位互換制度などの整備を図っています。留学説明会やカウンセリングを行っており、留学手続き、渡航前から留学中の異文化適応、危機管理指導など留学前後のサポート体制を整え、海外留学を支援しています。また、交換留学生を含む多くの留学生が学んでおり、学生同士の交流も盛んです。

「ACT(Advanced Communication Training)プログラム」は英語の運用能力、特に「話す」「書く」といった自分の考えを発信する能力を身につけるため、プレゼンテーション、ライティング、ビジネス英語、資格英語など実践的な英語科目群で構成されています。



SUPPORT

キャリア選択とその実現を後押しする取組、さまざまなサポート体制

卒業後に力を発揮し活躍するためには、身につけた知識や技能を社会での活動に結びつけることも重要です。「キャリアデザインプログラム」では、実社会から提起される具体的な課題を通して、広い視野を持ち蓄えた知識や力を活用し、多様な人々と協働して課題解決できる力を育成します。アントレプレナー教育にも力を入れており、起業を目指す人材の育成やビジネスの創発を図っています。

また、各種サポート体制も充実しています。授業や学生生活、留学や就職まで、キャンパスライフの悩みや相談に専門スタッフが応えます。女性の心と体への深い理解に基づいて、心身両面からのサポートにも注力しています。経済的支援では、大学独自の奨学金のほか、各種奨学金も用意しています。学生が快適なキャンパスライフを送れるよう細部にわたって配慮しています。



RESEARCH

総合大学の利点を活かした高度な研究力と未来を切り拓く研究組織



自然科学・人文科学・社会科学の分野を揃えた総合大学として、従来の学問領域にとどまらない視点に立ち、現代社会の求める研究分野を開拓してきました。科学研究費助成事業の新規採択率や、採択件数に占める女性研究者の割合は、高い値を示し、高度な研究活動と女性研究者の活躍に、社会から高い期待が寄せられています。

また、目指すべき社会を見据えた研究により創出される価値を、積極的に発信しています。2022年度には、「コンピテンシー育成開発研究所」「ジェンダー・イノベーション研究所」「SDGs推進研究所」の3つの研究組織が発足しました。これらの研究所をはじめ、斬新な諸分野を開拓する本学研究組織での取組は、企業との連携を通して、より良い社会の実現に寄与しています。



MISSION

世界中すべての女性たちの夢の実現

2004年の国立大学法人化に際して、「お茶の水女子大学は学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションのもと、学びたくても学ぶことのできない開発途上国の女性たちも含め、世界中すべての女性たちの夢の実現を目標に掲げました。

これは「地球上の誰一人取り残さない」というSDGsの目指す理念と合致しています。持続可能な社会の創成には、社会全体でSDGsの達成を推し進めることが必要であり、本学においてもさまざまなセクター、ステークホルダーと連携した活動を行っています。

例えば、アフガニスタンの女子教育支援をはじめとした、アジア・アフリカの女性や幼児のための教育支援など、JICA等諸機関と連携した活動が挙げられます。



想いと知を受け継ぎ、 新たな未来を創造する卒業生たち



森下 瑠里花さん

文教育学部

日本マイクロソフト株式会社

モビリティサービス事業本部

2022年文教育学部 人間社会科学科 社会学コース卒業、東京大学大学院 学際情報学府 社会情報学コース在学中

社会学の視点×デジタルで課題解決の一助に

鉄道や海運業界を担当する法人営業として、お客様がデジタル技術を活用して自身のビジネスや社会の課題を解決できるよう支援しています。最近では、生成AIを活用し、業務の効率化を図るだけでなく、より創造的な活動に注力できる仕組みづくりに取り組んでいます。お茶大では、変わりゆく社会の課題に向き合う多角的な視点を培うため、社会学を専攻しました。教授や学生同士の距離が近いアットホームな環境の中で、のびのびと学びました。また、アメリカでの交換留学を通じて異文化への柔軟な適応力を身につけ、グローバルな環境で英語を使って働く自信を育むことができました。デジタル技術はあくまでもツールであり、それを活用するには人間や社会への深い理解が求められます。さまざまな立場の考え方や調査分析の手法といった、大学生活で学んだ社会的な視点を糧に、今後もデジタル社会の発展に貢献していきたいと考えています。

外務省

在コートジボワール日本国大使館 二等書記官

2019年文教育学部 グローバル文化学環卒業

好奇心を育み世界を広げる

入省後、開発協力を担当する部署でウクライナ支援やアフリカ開発会議(TICAD)、アフガニスタン支援等に携わった後、在外研修制度で2年間フランスに留学し、現在はコートジボワールで外交官として勤務しています。在学中は、留学制度や実習等の機会を活用し、バングラデシュ・韓国での実習、陸前高田やラオスでのフィールドスタディ、イギリス留学、セルビアでのインターン等国内外で多くのことに挑戦し、多様な価値観や環境にふれる中で、視野が大きく広がりました。そして、こうした経験を通じて得られた柔軟さや行動力は、文化の異なる人々とともに協力して働く上で大きな財産となっています。外交は所掌分野が広く、さまざまなテーマに興味を持つことが大切であり、これから好奇心を絶やさず研鑽を積み、日本と国際社会に貢献していけたらと思います。



文教育学部

伊藤 詩織さん



安田 紹子さん

理学部

Meiji Seika ファルマ株式会社

製薬研究所 品質研究室

2018年理学部 化学科卒業、2020年大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻化学・生物化学コース修了

学生時代の学びが将来の力になる

主に医薬品の品質分析及び試験法開発をしています。直接患者さんに服用していただくものですので、万が一のことがないよう、細心の注意を払いながら試験を行っています。患者さんと直接お話しする機会はあまりありませんが、自分が開発に携わったものが発売され、症状が良くなったなどのお声を聞けると、とても嬉しいです。研究室ではタンパク質の糖結合活性をテーマに研究に取り組み、未知の事象を明らかにすることの難しさと楽しさを知りました。学生時代に培った基本的な実験手技や、協力して課題に取り組む姿勢などは、現在の仕事にも大きく活かしている部分だと感じています。特に、実際の試験データに基づいた結論及びその根拠を誤解なく伝える力は、在学中に幾度となく行ってきたプレゼンテーションを通じて得られたものでした。今後は、病気で苦しんでいる患者さんにより良い治療法が提供できるよう、高品質な医薬品を創り出していきたいと考えています。



野澤 恵理花さん

理学部

山形大学 大学院

有機材料システム研究科 助教

2016年理学部 物理学科卒業、2018年大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻物理学コース修了、2021年大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻物理学領域修了

磨き上げた鏡に映ったものは

勉学や研究に打ち込んだ学生時代は、心の鏡を磨き上げるための日々であったと感じています。お茶大には、学びたい者ととことんお付き合いくださる先生方がいらして、学びを仲間同志で楽しむ風土があります。私は、専攻とする物理学を深く掘り下げながら、興味に従い、研究対象を生物、宇宙、食品分野へと広げられていく中で、対象を良く映し取るよう、懸命に磨き上げた心の鏡越しに、時折、驚くような光景を垣間見るようになりました。食べる行為が豊かな共生系を育むこと、不安定な星が多様な宇宙の秩序を導くこと、そして、就職の志望動機となった、ホイップクリームの泡立ちがバターの美味しさを決めること。大学教員となった今は、食品を始めとする、高分子・有機材料の研究開発に挑戦しながら、学生の皆さんが自身の鏡を上手く磨き続けられるように日々支援しています。磨き上げられた鏡にしか映らない、あなた本来の姿を見つけてほしいと願いながら。

株式会社デンソー

セーフティシステム事業部 セーフティシステム技術2部

2018年生活科学部 人間・環境科学科卒業(現共創工学部 人間環境工学科)、2020年大学院人間文化創成科学研究科 生活工学共同専攻修了

建築設計から先進運転支援システム設計へ

浪人中にテレビである大聖堂の特集を見て大きく心動かされ、建築やものづくりを学べるお茶大に入学しました。在学中は自分の興味を軸に幅広く分野の講義を受講しました。特に建築設計の研究室では、意匠設計や美術館でのシークエンス研究、路地研究に没頭しました。常に個人が尊重される学びの場で、広い視野と深い考えを持った恩師や友人たちと熱い議論を交わし、虫の眼から鳥の眼を行き来しながら存分に自分の興味関心を深めていくことができました。建物や街の中にいる人々のことを考えているうちにモビリティに興味を持ち、現在、自動車の先進運転支援システムのシステム設計の仕事をしています。虫の眼から鳥の眼を行き来しながら大きなシステムを大勢の仲間たちと一緒に一つにまとめていくこの仕事にやりがいを感じています。今取り組んでいるシステムが搭載された車が無事に世の中に出て、多くの場所で多くの人々の移動をサポートできている光景を見るのが今の夢です。



生活科学部

野崎 真見さん



飯塚 みすずさん

生活科学部

オリックス株式会社

グループ監査部 国内監査第三チーム

2020年生活科学部 人間生活学科 生活社会科学講座卒業

自由な学びの場から生まれる多様なキャリア

大学在学中に公認会計士試験に合格し、監査法人での勤務を経て、現在はオリックス株式会社の監査部門に所属しています。組織におけるリスクを識別・評価し、業務がより効果的に運営されるための保証・助言業務を行っています。直接現場を訪問し、様々な立場の方へのインタビューや資料の閲覧などを通じて、社内の幅広い業務を多角的に見ることができる面白さは、監査業務の魅力です。偶然の出会いをきっかけに、入学当初には思いもよらなかった進路を選ぶことになりましたが、これは、各自が興味・関心に沿って伸び伸びと学ぶことのできる、お茶大の自由な学びの環境のおかげだと感じています。また、大学では社会科学を学びましたが、課題解決のための領域横断的な視点は、現在の業務にも大いに活かされています。一つひとつの業務に真摯に向き合い、組織のガバナンス強化に貢献できるプロフェッショナルとして成長していきたいと考えています。

ディプロマ・ポリシー

1. 教育目標

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場である」という使命のもとに、世界の人々と協働し、生涯にわたり良い未来の創造に向けた変革を起こすグローバル女性リーダー、すなわち「教養知」と「専門知」に「実践知」を結びつけるコンピテンシーを育み、それらを実装する「総合知」によって社会を革新する人材を養成する。この教育目標のもと、各学部 に 所定の年限在学し、全学ならびに学部の教育理念と教育目的に沿って設定された教育課程を学修し、下記の学習目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に、それぞれの学部が定める学位を授与する。

2. 教育課程

- ① 各学部各学科が設置する専門教育プログラムを、各学部各学科が定めるプログラム選択の規定に従って、2つ以上履修する。
- ② 文教育学部芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科においては、それぞれの教育目標にそった専門教育のカリキュラムとして4年一貫の「専修プログラム」を設け、その規定に従って履修する。

3. 学習目標

- A 総合的な教養（教養知）
人文・社会・自然に関する知識を備え、領域横断的な視野をもち、独創的な問題意識をもって、多様な人々とコミュニケーションできる総合的な基礎力
- B 高度な専門性（専門知）
確かな専門知識にもとづき、情報を収集・処理し、論理的に思考し、科学的に分析する力
- C 実践力（実践知）
自身で問題を発見し、知識を応用し、議論し、倫理性や公共性に関心を持ちつつ、解決する力
- D グローバル・リーダーシップ
多様な文化を理解し、グローバル社会の諸問題を理解することができる外国語力をもち、国際的視野をもって発信・交渉・行動する力

「リベラルアーツ」と「複数プログラム選択履修制度」を軸に グローバル教育やキャリアデザインプログラムを展開

1・2年次は、自らの将来を切り拓くために必要な広い視野と考える力を身につける「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を軸に、情報や外国語など、学修・研究を進めていくために必要な基礎を学びます。専門教育課程では「複数プログラム選択履修制度」を導入し、自身の関心・進路に合わせた多様で主体的な学びの場を用意しています。

教育プログラムカリキュラム表

※単位互換大学についてはP026学部学生交流協定校一覧をご覧ください。

1年次	2年次	3年次	4年次
<h2>01 21世紀型文理融合リベラルアーツ</h2> <p>自然科学、人文科学、社会科学を融合した多角的なプログラム。領域横断的視野、課題解決能力、論理的思考力を養います。学修・研究をしていくための「コア(core)=芯」となる科目で、現代世界を理解するために重要な問題領域を捉える視点を養います。</p> <p>〔その他のコア科目〕</p> <p>基礎講義……社会生活で必要となる基本を学びます。 情報……教育・研究活動で必要となるスキルと知識を学びます。 外国語……英、独、仏、中、露、朝鮮語等の授業を用意しています。 スポーツ健康…健康・体力の維持増進と身体への理解を深めます。</p>		<h2>02 複数プログラム選択履修制度</h2> <p>高度な専門性ととともに、その能力を発揮できる知識と技能を体系的に学ぶことができる専門教育課程です。お茶の水女子大学では、学生一人ひとりが自分の目的に合わせ、より主体的な学修プログラムを構築できる「複数プログラム選択履修制度」を導入しています。2～3種類のプログラムを組み合わせて履修するこの制度では、専門を深めるだけでなく、異なる部門へ発展させることも、学際領域へ踏み込むこともできます。</p>	
<p>主プログラム 専門的な知識や技能の基礎を学びます。</p>		<p>副プログラム 主プログラムと異なる分野の学修をします。</p>	<p>強化プログラム 専門領域に特化した深い専門性を培います。</p>
		<p>学際プログラム さまざまな分野を融合する最先端の学際型の知識や技能を学びます。</p>	
<p>専修プログラム(4年間一貫制)</p>			
<h2>03 グローバル教育</h2> <p>グローバルに活躍できる人材を育成するプログラムです。外国語教育で1年次から語学、プレゼンテーションなどの情報発信力を強化するほか、専攻分野を英語で学ぶ授業を設けました。また、英語で行う集中講義や交換留学生との交流などを通して文化リテラシーを育みます。留学や語学研修、海外でのボランティア活動や調査研究活動などのプログラムを充実させ、多くの学生が海外体験を積めるよう、経済的支援など各種サポートを整備しています。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● ACT (Advanced Communication Training) プログラム あらゆる活動の基盤となる語学力を1年次の教養課程から強化する、実践的な上級英語プログラムです。「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」ことを取り入れ、会話力・作文力に力点を置いた授業で、グローバル人材に必要な英語力を養います。 ● サマープログラム ● 交換留学 ● 海外短期研修 ● EDIプログラム 	
<h2>04 キャリアデザインプログラム</h2> <p>社会で活躍できる力を涵養するため1～3年次を中心に展開されるプログラムです。意識的・計画的に学修を進められるよう、自分の将来を考えながら学業に向き合う基礎を作ります。同時に、実社会の課題について学び考えながら、専門教育で培っていき力を社会で活かす視点を得ることを目指します。</p>		<h2>コンピテンシー育成支援</h2> <p>「社会で成果をあげる力」とされる創造的思考力や協働力、他者理解力など、さまざまな能力育成をサポートする取り組みです。大学が提供するさまざまな授業に含まれる能力育成の経験を可視化し、授業履修を能力ベースで考えられる環境(システム)を提供することで、計画的な能力育成を支援します。</p>	
<h2>05 教員免許等資格取得課程</h2>		<p>各種資格取得には、それぞれ履修の必要な科目があります。</p>	

21世紀型文理融合リベラルアーツ

自然科学・人文科学・社会科学の領域を横断し 知の基盤を学び、広い視野を身につける

お茶の水女子大学の教養教育の中核をなすのが、文系・理系を融合した「21世紀型文理融合リベラルアーツ」です。1・2年次を中心に履修するプログラムで、現代世界を読み解く「鍵」となる5つのテーマにそった系列科目群と演習からなっています。高度な専門教育を支え、使いこなすためには、発信・交渉能力と領域横断的な広い視野、変化に対応する判断力が必要です。これらの能力は、どんな専門分野に進んでも重要な基礎となるもので、生涯を通して、自在（リベラル）に使える技（アーツ）となります。1年次のうちからリベラルアーツの系列科目群を体系的に学ぶことで、文系、理系の領域を横断した視野を獲得するとともに、教養教育と専門教育を結びつける能力を養うことができます。

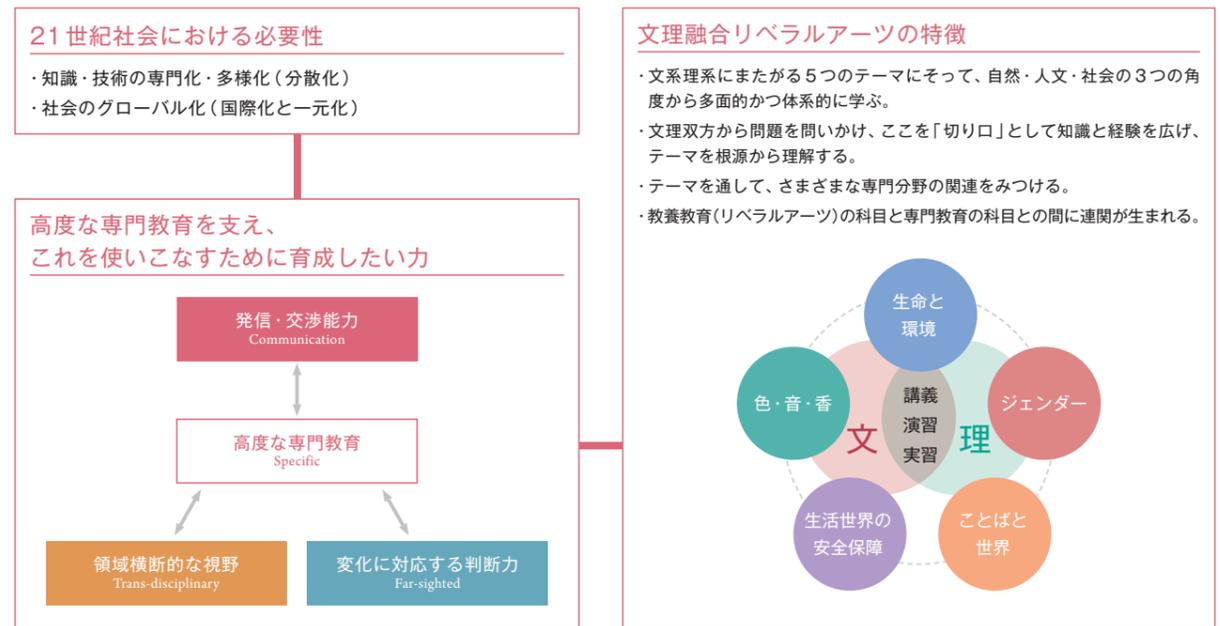
プログラムの特徴

リベラルアーツは文系・理系にまたがる5つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群からなっています。各人がそれぞれの目的や興味によって学科を問わずに自由に選択することができ、1年次から専門性の高いテーマを自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多角的かつ体系的に学ぶことができます。目標はテーマを根源から理解することです。一つのテーマに文理双方から問題を問いかけることで、そこを「切り口」として深く掘り下げていくなかで、学術的にも価値ある領域横断的な知識と経験を身につけ、さまざまなシーンで応用可能な実践力を高めていきます。なお、必要単位数を履修すると、申請に基づき成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

テーマと系列科目群

各系列にはそれぞれ2年間を1クールとする「講義」科目群と、少人数形式で行われる「リベラルアーツ演習」の2種類の授業科目が用意されています。講義では、テーマに立脚した課題学習を通じて、学問分野の基礎を修得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的とします。演習には、4つの学部の教員が自由に対象やテーマを設定して行う科目と系列に関連した科目があります。テーマに関連するテキスト（書物や論文）を読み、発表・討論し、レポートを書くといった読み・聞き・書き・語り・作る作業を通じて、思考力やコミュニケーション力を養成します。採取や観察などを含む実験や、実習、インターンシップなどを通して具体的な体感を得て、知識を経験に裏付けられた実践力へと高めていく科目もあります。

一人ひとりが生涯にわたって生き生きと生きていくための学際的かつ実践的な力を身につけ、
専門力を活かした進路を開拓するための教育プログラム



リベラルアーツの5つのテーマ

生命と環境

近年、生存の場としての環境の重要性はますます強く認識されるようになってきました。環境との関わりを深く理解し、新たなる共生の方法を創成することは、21世紀を生きる私たちに課せられた重大な使命です。生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。生命とは何か、現代科学における生命像、生命倫理から生命を取り巻く自然環境、文化環境、地域と風土などの問題を扱います。

- 講義：生命の科学、生命倫理と法、多様性生物学、生物人類学、生命と環境の化学、惑星地球の科学
- 実習：海洋環境学ダイビング、海洋環境と生物多様性

色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、自然の原理と私たちの文化や社会について学びます。色・音・香を通じて自然現象の基礎を理解するとともに、人間（生物）が自然界や社会・文化的情報をいかに認識し、受容して利用していくのか、さらにそれをどのようにして社会的、文化的情報として蓄積していくかを探求し、広く人間と自然、人間と社会の相互作用についての理解の視点を養います。

- 講義：分子から見た色と香り、生命と色・音・香、色・音・香の物理学、コンピュータが創る色と音、心の健康とジェンダー、色・音・香と生活文化、舞踊における色・音・香、宗教と色・音・香、おいしさの色・音・香、知覚認知と環境デザイン
- 演習：おいしさのサイエンス

生活世界の安全保障

人間は安全を確保するため、さまざまな社会的・技術的・文化的な装置を作りだしてきました。しかし時代の進展につれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、それが逆に新たな危険や抑圧・不平等などの脅威を発生させています。身近な安全を守るために何が必要かを考えることを通じ、技術と制度と文化の相互関係や生命としての人間のあり方を捉え直します。

- 講義：生活世界と法、情報社会の安全保障、リスクの社会史、平和と暴力、現代物質文明の履歴、ゲノム時代の健康管理、水の安全保障、社会的弱者の存在論、教育と社会
- 実習：NPOインターンシップ
- 演習：トランス・サイエンス論入門

ことばと世界

ことばは世界とどのような関わりを持つのでしょうか。ことばは何を表し、私たちはそれによって何を表現しているのでしょうか。人間を取り巻く世界（人間社会や自然界）を、人間はどのようにして記述し、どのように伝えてきたのでしょうか。自然言語、数学言語、コンピュータ言語など科学の「知」を記述することばの仕組みと働き、文学作品や新聞・雑誌などに記述された言語による表現世界など、ことばについて多面的に考えます。

- 講義：日本語論、コミュニケーションと心理学、論理学、日本文学、海外の文学、数理のことば、自然のことば、グローバル化社会を生きる、文法と意味、思考カトレーニング、統計と社会
- 演習：手話学入門

ジェンダー

ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別であり、グローバル化が進む現代では実に巧妙に私たちの生活に入り込んでいます。性別に関係なく充実した幸福な生活を営める社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学び、ジェンダー視点の導入を行います。政治、経済、地域文化、国際、歴史、文学、アート、テクノロジーなどさまざまな学問領域を通して、今を生きるジェンダー学を学ぶことで視界を拓き、新しい知の担い手として活躍できる国際人を目指します。

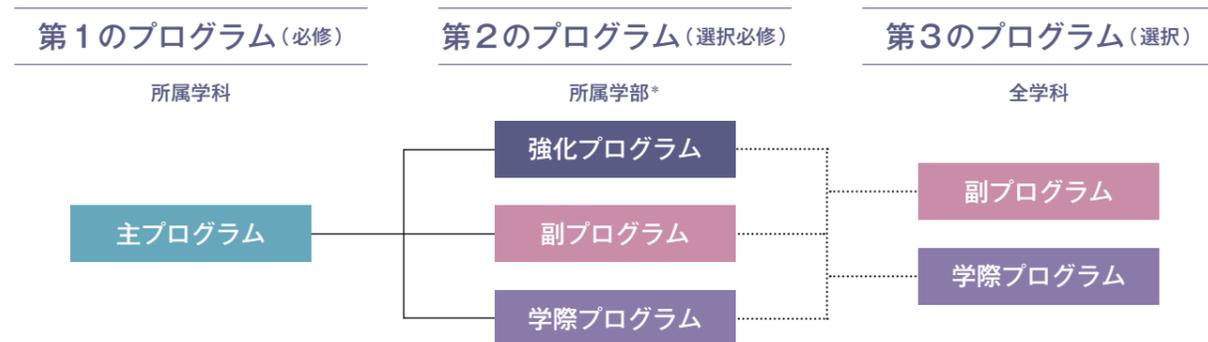
- 講義：女性史・男性史とジェンダー、グローバル経済とジェンダー、文化メディアとジェンダー、アートとジェンダー、宗教文化とジェンダー、グローバル化/ローカル性とジェンダー、政治・政策とジェンダー、開発とジェンダー、テクノロジーとジェンダー

複数プログラム選択履修制度

学生一人ひとりが選択する一多様で主体的な学び

専門教育課程では、学生一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるシステムを提供しています。主プログラム・強化プログラム・副プログラム・学際プログラムの4つから、学生自身がプログラムを選択し組み合わせることで、自らの学びを主体的にデザインすることができます。

* 文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科は、上記とは異なる4年一貫の専修プログラムにしたがって学修します。



■ 主プログラム

各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラムです。所属学科の開設するプログラムから選択します。文教育学部と生活科学部人間生活学科の学生は、主プログラムを1年次修了時に選択します。理学部と生活科学部心理学科及び共創工学部の学生は入学時点で決定しています。なお、第2・第3のプログラムは全学部とも2年次修了時またはそれ以降に選択します。主プログラムまたは専修プログラムを選択した学生が所属し、専門教育を学んでいく足場となる教育組織が学科、またはコース・講座です。

■ 強化プログラム

各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラムです。主プログラムと同一名のプログラムを履修します。

■ 副プログラム

学生の多様な能力・適性及び学修意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学修機会を提供するためのプログラムです。所属学部及び他学部のプログラムから、主プログラムと異なる分野のプログラムを履修します。

■ 学際プログラム

新たな領域融合型または学際的専門領域に即応し、先端研究分野で要請される新しい専門人材養成に対応するプログラムです。所属学部及び他学部の開設するプログラムから履修します。

他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択できるため、学問領域を横断して学びたい場合に有効です。第2のプログラムで選択したもの以外に、もう一つの副プログラム・学際プログラムを学ぶことができます。

■ 副プログラム

他学部のプログラムも選択できます。

■ 学際プログラム

他学部のプログラムも選択できます。ただし、理学部提供のプログラムを、文系学科所属の学生が履修することはできません(心理学科を除く)。

* グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとしてグローバル文化学主プログラムを選択し、第2のプログラムとして所属学科のいずれかの提供する副プログラム又は教育科学・子ども学学際プログラムを履修します。
* 共創工学部の第2プログラムとして、他学部の一部の副・学際プログラムを選択することが可能です。文教育学部・理学部・生活科学部の一部の学科・コース・環・講座の第2プログラムとして、他学部の副・学際プログラムを選択することが可能です。

開設プログラム一覧

	主プログラム	強化プログラム	副プログラム	学際プログラム
文教育学部	【人文科学科】哲学・倫理学・美術史・比較歴史学・地理環境学 【言語文化学科】日本語・日本文学・中国語圏言語文化・英語圏言語文化・仏語圏言語文化 【人間社会科学科】教育科学、社会学、子ども学 【人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科】グローバル文化学(主プログラムのみ)		哲学・倫理学・美術史/比較歴史学/地理環境学/日本語・日本文学/中国語圏言語文化/英語圏言語文化/仏語圏言語文化/日本語教育/社会学/舞踊教育学/音楽表現	教育科学・子ども学 グローバル文化学
理学部	【数学科】数学 【物理学科】物理学 【化学科】化学 【生物学科】生物学 【情報科学科】情報科学		数学/物理学/化学/生物学/情報科学	応用数理(数学科、物理学科、情報科学科)/物理・化学(物理学科、化学科)/ケミカルバイオロジー(化学科、生物学科)/生命情報学(生物学科、化学科、情報科学科)
生活科学部	【人間生活学科】生活社会科学、生活文化学 【心理学科】心理学		生活社会科学/生活文化学/心理学	消費者学
共創工学部	【人間環境工学科】人間環境工学 【文化情報工学科】文化情報工学			人間環境工学/文化情報工学

文教育学部

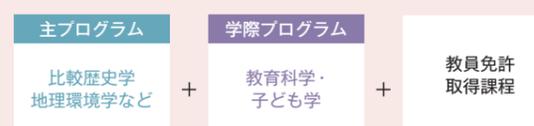
「NGOや国連など国際的な場で活動したい」

国際情勢など幅広い視野を身につけて、世界の国や地域について造詣を深め、国際協力に従事することを目標にプログラムを選択



「中学校・高校の先生になりたい」

中学校・高校の教員(社会・地理歴史)を目指して、教科の専門分野とともに、教育科学の知識を学べるようにプログラムを選択



理学部

「高校の生物の教師になりたい」

高校の生物教師になることを目標に、生物学を重点的に学べるプログラムを選択



「ICT(情報通信技術)関連のグローバル企業で活躍したい」

希望進路に必要な情報通信の専門的知識に加え、自身の知識の幅を広げるためにゲノム研究について学べる学際プログラムを選択



生活科学部

「行政や企業で消費者に関するエキスパートとして働きたい」

社会科学の基礎的な考え方を学ぶとともに、消費生活アドバイザーの資格取得も目指してプログラムを選択



「子どもの発達に詳しい心理専門職を目指す」

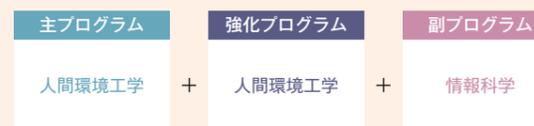
公認心理師の受験資格に必要な単位を取りながら、子ども学についても学べるプログラムを選択



共創工学部

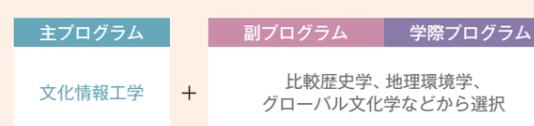
「身のまわりの課題を理工学的に考えてみたい」

研究や進路の幅を広げられるように、人間と環境とともに情報技術についても学べるプログラムを選択



「情報技術やAIで新しい文化を生み出したい」

文化のイノベーションに貢献できる人材になるために、文化情報工学のプログラムにおいて、人文学とデータサイエンス、情報工学の基礎から応用までを学ぶとともに、人文学の専門性を強化できる副プログラムを選択



グローバル教育

留学などの海外経験と語学力強化プログラムにより 世界にはばたくグローバル人材を育成する

お茶の水女子大学は高度な国際性を備えた女性リーダー育成を目指してグローバル教育を推進しています。世界33の国・地域に97大学(2025年4月1日現在)の協定校を有し、長期、短期の留学の場を提供するとともに、国際協力や海外実習、語学研修等を通じ、英語力はもちろん、多言語・多文化に対応できる能力を強化しています。サマープログラムや各種留学生の受入れなどにより多くの留学生が本学で学び、活発な国際交流が行われています。本学学生に対しては、短期留学、海外でのサマープログラムやインターンシップ、日本語教育実習、ボランティア活動、国際調査などの場を提供しています。さらに、2022年度に大学の世界展開強化事業「グローバルリーダー育成のための『女子大学発』実学型EDIプログラム」が採択されたことで、英語による授業や留学生と日本人の交流型授業、オンライン上で海外の学生とともに学ぶ国際協働学習(COIL)、各種国際フォーラム、セミナーなどをさらに活性化させ、キャンパスのグローバル化を推進しています。

グローバル女性リーダー育成のための各種プログラム

お茶の水女子大学では留学などの海外経験をより有意義なものにできる基盤として、外国語のカリキュラムや留学前後のプログラムの充実を図っています。

その強化策の一つが、発信型の外国語教育です。「ACT(Advanced Communication Training)プログラム」では、会話力、記述力に加えてプレゼンテーション能力を育成します。さらに、分野毎の専門英語のカリキュラム「アカデミック・ライティング」も拡充し、実践力のある語学力修得を目指します。

また、海外でのフィールド調査や英語によるインターンシップ、産業界との連携による各研究機関でのインターンシップなどの機会の拡充も進められています。類型にとらわれない独自の視点から構築した国際教育の実践で、真に国際社会で活躍できるグローバルな女性リーダーを育成しています。

国際交流留学生プラザ

国際交流留学生プラザ(英語名: Hisao & Hiroko TAKI PLAZA)は、国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的を持つ集いの場として2019年に建設されました。館内には留学・交流の拠点となる国際教育センターがあり、ラウンジやカフェで気軽に交流することが可能です。また、多目的ホールやセミナー室、日本文化教室などを開催できる和室の研修室、キッチン・ダイニングエリアも配置され、多様な交流が促進できる施設です。



THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

多彩なプログラムで育むグローバル人材

本学では、国際社会で活躍するグローバル人材を育成するための、多様なプログラムが用意されています。全学的には、英語をはじめとした語学学習のプログラム、実践的に英語を使うサマープログラムなどがあり、海外経験を積める留学プログラムも複数あります。それ以外にも、さまざまな国際交流イベントが、学内およびオンラインで多数開催されています。それぞれの分野でも、グローバル力を強化するための、さまざまな学びの機会が提供されています。また、キャンパスのグローバル化を見据えた環境整備も推進しています。

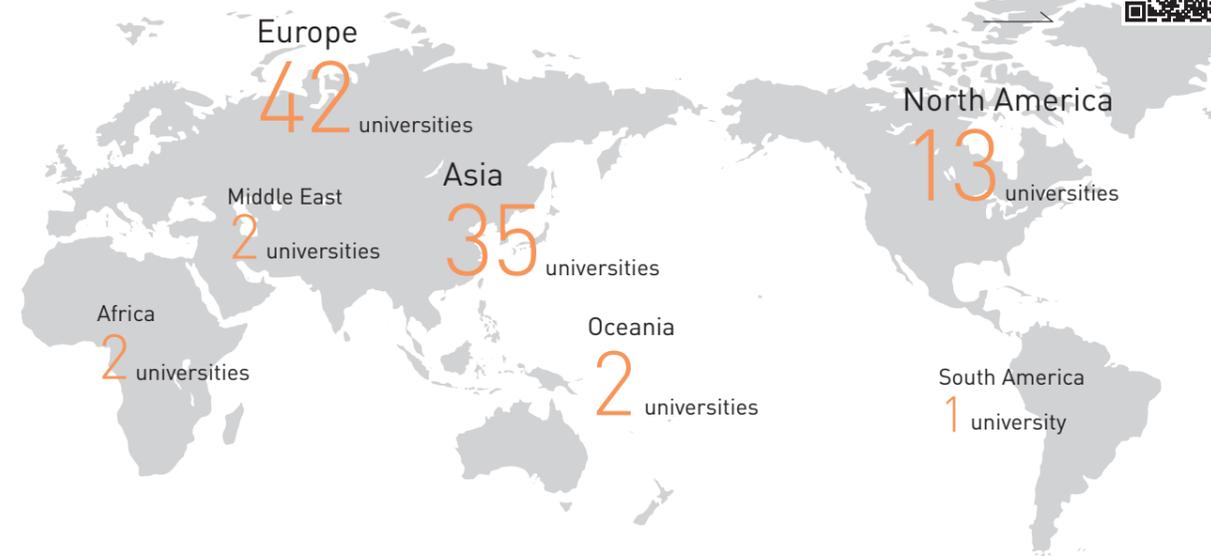
国際教育センター長
工藤 和恵 教授



大学間交流 協定大学 (33の国・地域、97大学)

協定大学所在地

協定大学
一覧はこちら



TOPICS グローバル協力センター

グローバル協力センターは、国際協力・平和構築に関する教育、研究、国際貢献を推進することをめざして設立されました。「平和と共生演習」「国際協力特論」などの講義科目や、カンボジアやブータンなど途上国で現地調査(スタディツアー)を行う海外実習科目、そして「持続可能な開発目標(SDGs)セミナー」「ブータン連続セミナー」等の実施を通して、地球規模の課題について学ぶ機会を広く提供しています。学生の自主活動や研究調査の支援、関連する図書の出借、セミナーやイベントの情報提供も行っています。また、開発途上国の女子教育支援の連携枠組みである「五女子大学コンソーシアム」(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)の活動の一環として、合同国内スタディツアーや単位互換を通じた人材育成に取り組んでいます。さらに、JICA(独立行政法人国際協力機構)の委託を受け実施している研修「乳幼児ケアと就学前教育」により、途上国の乳幼児教育者の育成を支援しています。



THE VOICE OF A STUDENT

異文化に学び、「ふつう」を問い直す

昨夏、「国際共生社会論実習」でブータンを訪れ、関心のある幼児教育をテーマにフィールドワークを行いました。現地の人々との交流を通じ、文献では知り得ない暮らしや価値観に触れ、「生きる日常」を肌で実感しました。そこで生まれた気づきと向き合い、問いを重ねたことは、自分の考えを見つめ直す貴重な経験となりました。大学では「子ども」を軸に世界を見ていますが、この実習を通じて、その視点がより鮮明になりました。「ふつう」だと思っていたことに「不思議だな」「面白いな」と思う瞬間が増え、問題意識の幅も広がっています。

文教育学部 人間社会科学科 4年
白川 乃倫子 さん

第1のプログラム: 子ども学主プログラム
第2のプログラム: 教育学・子ども学学際プログラム



学内で学ぶ

学問やビジネスの急速なグローバル化に対応するため、語学カリキュラムを読解力・聴解力中心から会話力・作文力中心へ改編し、実践的な外国語の運用力を高めることを目指しています。「ACT (Advanced Communication Training) プログラム」の開講の他、専門教育にも英語で学ぶ講義を取り入れています。さらに講義からレポート提出まですべてを英語で行う集中講義「英語によるサマープログラム」も開講しています。また、英語以外の言語でも発信力強化に向けた取り組みを多々推進しています。



海外で学ぶ

できるだけ多くの学生が海外経験を積めるように、海外との交換留学制度や海外短期研修プログラムの拡充、留学奨学金制度や提携大学との単位互換制度の整備、短期留学に対応しやすい4学期制の導入などの整備を進めています。国際教育センターでは、留学に関する個別相談を随時受け付けているほか、留学手続きのサポート、渡航前から留学中の異文化適応、危機管理指導など、万全な支援体制を敷いています。

ACTプログラム

1年次から履修できる英語力を強化する教養科目(コア科目)として設けられたのが、「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」ことにより英語の運用能力を向上させる実践的な上級英語プログラムです。プレゼンテーション、ライティング、ビジネス英語、資格英語などの実践的な英語科目群から構成されています。12単位以上履修することにより、プログラム修了証を取得できます。

サマープログラム

生きた英語を身につけることを目的にした夏期集中講義が「英語によるサマープログラム」です。2025年度は「Exploring and Creating Fulfilling and Healthy Human Life in Modern Society」、「Diverse Fields and Key Ideas of Natural Science」、「Current Issues in Japanese Culture and Society under Globalization」の3つの専門コースや「プロジェクトワーク」に加え、日本文化を深く知るためのカルチャーイベントも開催します。本学在学生のほか、国内外の協定校の学生約70名が参加する約4週間のプログラム期間中には英語によるディスカッションや交流会も催され、学生間に新たな交流の輪を生み出す格好の機会になっています。

語学学習のサポート体制

外国語教育センターが外国語学習相談と語学カフェ、教材の利用を通じて学生の語学学習の支援をしています。外国語学習相談では大学院進学、留学や就職に向けた語学検定対策や、会話や作文指導を受けることができます。語学カフェでは留学生を中心に有志が集まりその国の言葉や文化についての交流をしています。教材コーナーは語学検定対策本や海外の映画DVDなど5,000点以上の語学教材を所蔵しています。このほか語学学習向けの自習室を2部屋配備しており、自由に使用することができます。

交換留学

海外の協定校に1年以内で留学するプログラムです。現在、33の国・地域、97大学と交流協定を締結しており、留学希望者は、学内選考を経て、協定校の求める要件(志望動機、語学能力試験、学業成績など)を満たせば、留学することができます。在学したまま留学ができ、派遣先大学での授業料は原則として免除され、留学先で修得した単位は互換制度により卒業単位として認定されます。一方、学内ではアジア、中東、ヨーロッパなどの協定校からの交換留学生を含む多くの留学生が学んでいます。

EDIプログラム

2022年度に、文部科学省が進める大学の世界展開力強化事業の一つとして「グローバルリーダー育成のための『女子大学発』実学型EDIプログラム」が採択されました。これは、英語による授業やインターンシップに加え、イギリス、オーストラリア、カナダ、アメリカ、インドの協定校でEDI(公平性、多様性、包摂性)について実学的に学ぶことで、グローバル時代に求められるグローバルリーダーを育成せんとするものです。指定の単位を履修することでサーティフィケートも得られます。

海外短期研修

大学の休暇期間を活用し、2~6週間の海外短期研修プログラムを実施しています。海外協定校での授業や、世界各国から集まる研修生との交流、インターンシップ、ホームステイや学生寮での生活など、短期間ながらも充実した学びの機会を提供します。現地での実践的な語学研修に加え、多言語・多文化に触れる貴重な体験ができるプログラムです。派遣先は、韓国、台湾、タイ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、フランスなど、多様な地域に広がっています。



留学スケジュール (2年次に交換留学の場合)

	4月~7月	夏季休暇	9月~10月	11月~1月	2月~3月
1年次	<ul style="list-style-type: none"> 留学説明会参加 国際イベント参加 国際教育センターへの個別留学相談 	<ul style="list-style-type: none"> 留学に関する情報収集 留学目的の明確化・具体化 語学能力試験受験 	<ul style="list-style-type: none"> 第1次選考(書類選考) 	<ul style="list-style-type: none"> 第2次選考(面接選考) 推薦候補者として決定 	<ul style="list-style-type: none"> 留学先大学への応募書類の提出→受入許可
2年次	<ul style="list-style-type: none"> 事前研修出席 パスポート・ビザ取得、渡航準備 	留学開始		留学	
3年次	留学		<ul style="list-style-type: none"> 留学先での単位認定 帰国報告書の提出 帰国報告会で発表 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流活動など 	
4年次					

THE VOICE OF A STUDENT

自分を少しでも成長させる夏にする

1年生の時に運営としてサマープログラムに参加し、留学生と交流する楽しさを知りました。同時にどうしたらより良い留学の思い出を作る機会を提供できるか考えるようになり、短期留学に挑戦するきっかけにもなりました。2年次にはさらに自分を成長させるために、運営と授業どちらにも参加しました。いろいろな国の学生と授業を受ける経験は自分の視野と交友関係を広げることに繋がりました。サマープログラムは留学よりも手軽に参加でき、様々なことに挑戦できます。元々英語が苦手な私ですが、サマープログラムを通して自分を大きく成長させられました。

文教育学部 人文科学科 3年
柳田 和音さん

第1のプログラム: 比較歴史学主プログラム
第2のプログラム: 比較歴史学強化プログラム



THE VOICE OF A STUDENT

お茶大で、自分の学びをデザインする

私は、社会保障制度や移民問題について学ぶために、一年間のイタリア交換留学に挑戦しました。留学中は、大学の勉強や現地のフィールドワークに英語で取り組んだことに加え、イタリア語で日常生活を送ったことで、現地の言語や文化にも親しむことができました。留学にあたり、国際教育センターや留学経験のある先輩方からもサポートいただき、自分なりの素敵な留学をデザインすることができました。現在は、私が留学に興味のある学生のサポートを行なっています。皆さんが、ご自身の興味関心に向けた挑戦ができるよう応援しています。

文教育学部 人間社会科学科 4年
澁谷 萌々子さん

第1のプログラム: 社会学主プログラム
第2のプログラム: 教育学科・子ども学学際プログラム



キャリアデザインプログラム

自分を見つめて未来を描き 目的をもった学修で、生涯にわたる礎を築く

卒業後を見据えたうえで専門教育を受けたり、身につけた専門的な知識や技術を社会に還元する視点を得たりすることは、より充実したキャリア選択につながります。本学の「キャリアデザインプログラム」は、以前から取り組んできた「女性リーダー育成」に関わる知見を踏まえ、社会的・職業的自立を促進する知識やスキルを涵養することを目指しています。自分を冷静に見極めて将来を展望する力、何事にも主体的に取り組む姿勢、さらにリーダーに必要とされる問題解決力を養い、社会課題に関する洞察力など未来の社会を牽引するための基盤を育成します。

キャリアデザインプログラム科目群

キャリアデザインプログラム科目群は、基幹科目群と関連科目群で構成されています。基幹科目群は、職業選択に関わる知識だけでなく、仕事、仕事以外の生活、その両立、関連する社会の現状、組織の仕組みについて講義や講演から考えることを目的としています。また、企業などの課題解決や製品開発などをテーマとした課題解決型学習(PBL)を行う科目、インターンシップなどの実践科目もあります。

キャリアデザインプログラムの基幹科目群

お茶の水女子大学論、ハイカラさん講座、キャリアプラン、ICTとコミュニケーションスキル、キャリアプランと進路選択、コンピテンシー基礎論、女性のキャリアと経済、未来開拓入門、グローバル・リーダーシップ実習 など

お茶の水女子大学論

自らの未来を描くための授業です。お茶の水女子大学の特色を知り、自らの将来をイメージしながら、在学期間を有意義に過ごすための基礎をつくります。学長による講演会、本学の歴史と社会的役割、卒業生やロールモデルの講演会などが組み込まれた、あらゆる学修の基盤となる講義です。



ハイカラさん講座

時は大正デモクラシー。「ハイカラさん」は自然体で颯爽と、時代の先端を闊歩していました。そのモデルがお茶大生。女子教育の最高峰、希望の星でした。そんな気概を胸に、みんなでワクワクしながら、様々なテーマについてディスカッションします。文系・理系、さらには学年をも越えた楽しい授業の輪に、あなたも一緒に参加してみませんか？

キャリアプラン

キャリアという仕事を思い浮かべることが多いですが、仕事・働くことだけでなく、それ以外の生活部分について見通すことは、長期的に「よい状態」でいるために役立ちます。授業では今後起こりうるライフイベントに関する現状と課題を踏まえ、自分の望む卒業後を描きます。その上で、大学生活をどのように過ごすのかを考え、実行できるようにすることを目指します。

関連活動と環境づくり

インターンシップと自主活動

企業や官公庁、NPO、各種研究機関などでの30時間以上のインターンシップ(体験就労)で、社会に出て働くことの意味を考えます。学内でも図書館でのインターンシップ、各センターが募集する自主活動などの多様な体験学修の機会により、キャリアデザインに関連した学修課題が発見できます。



キャリア支援

学生・キャリア支援センターでは、ガイダンス、セミナー、OG懇談会、学内合同企業セミナー、ワークショップなどの就職や進路選択を支援するためのイベントを企画し、実施しています。また、キャリアアドバイザーが、学生の皆さんの進路やキャリアに関するさまざまな相談に応じています。



コンピテンシーベース教育の推進

「社会で成果を上げる能力」の可視化と、学生の主体的なコンピテンシー育成を支援するWEBシステムを提供

教育機関におけるコンピテンシー(社会で成果を上げる能力)育成の試みは、国内外で拡大しつつあります。本学ではこれまで、キャリア教育の枠組みにおいてそうした能力の育成を意図した授業を行ってききましたが、2024年度より規模を拡大し、全学的に授業におけるコンピテンシーの育成支援を開始しました。また、学生の皆さんがコンピテンシーの育成を計画的に行えるよう、専用システムCACICA(カシカ)の提供により、定期的な能力チェックや目標設定・振り返りを可能にしています。これまでの授業に「能力育成」という視点が加わることで、皆さんの大学での学びがより豊かに、また能動的なものになることを期待しています。

CACICAで伸ばす未来への力 お茶大コンピテンシー 10

コンピテンシーとは、場面に応じて、知識やスキルを組み合わせることで適切に使いこなし、社会で成果を上げる資質や能力のことです。本学では、学中を通じて、学生に磨いてほしい10の力を「お茶大コンピテンシー 10」として定めています。

区分	コンピテンシー	定義
新たな価値を創造する力	批判的思考力	自分の意見や考えを、意識的に見直す力
	創造的思考力	新たな価値や優れた考えを生み出す力
	協働力	個人では得がたい成果をグループ全体で得るために、役割分担したり、助け合ったりする力
対立やジレンマに対処する力	問題解決力	実際に起きた問題で、解決の道筋が明らかでないものを改善・解決できる力
	他者理解力	様々な他者の立場や考え方を推測したり、理解する力
	対人葛藤解決力	他者との意見や価値観の対立を解決する力
責任ある行動をとる力	省察的思考力	自らの活動を振り返って気づきを得る力
	内的統制感	自分自身の行動がある成果や結果をもたらすという期待
	自己制御力	望ましい目標を追求し、望ましくない目標追求を抑制する力
	エージェンシー	社会に望ましい変化をおこすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する力

CACICA(カシカ)とは？

学生が主体的に「大学での学び」をデザインし、「お茶大コンピテンシー 10」の育成を継続的に進めていくことをサポートするWEBシステムです。コンピテンシーチェックで自分の現在の状態を可視化して把握できたり、コンピテンシーを伸ばしうる授業を可視化して確認することで履修計画に役立てることができます。注力した活動の振り返りの登録も可能で、これは就職活動時に問われる「学生時代力を入れたこと」の貴重な材料にもなります。

CACICAでできること

- ☑ 自分の強み・弱みを「可視化」する
- ☑ 授業で伸ばせる能力を「可視化」する
- ☑ 成長の軌跡を「可視化」する



ChaShika

「CACICA」に搭載された4つの機能



コンピ天使

教員免許等資格取得課程

教職や各種資格の取得は、卒業後の活躍の場をより確かなものにするためにも重要です。お茶の水女子大学では各種教育職員免許状、学芸員、社会調査士、栄養士、食品衛生管理者及び食品衛生監視員などの資格を取得することができます。所属学部（科）によって取得できる免許状や資格が異なります。また、取得のためには、卒業に必要な専門科目のほかに、それぞれ指定された科目の履修が必要です。

※この情報は2025年5月現在のものです。変更等の可能性もありますので、最新の情報は本学Webサイトでご確認ください。

資格取得

学部	学科	学芸員	社会調査士	GIS学術士 地域調査士	受験資格		
					栄養士 食品衛生管理者 ※1 食品衛生監視員 ※1	管理栄養士	一級建築士
文教育学部	人文科学科	●	●	●			
	言語文化学科	●	●				
	人間社会科学科	●	●				
	芸術・表現行動学科	●	●				
理学部	数学科	●	●				
	物理学科	●	●				
	化学科	●	●				
	生物学科	●	●				
生活科学部	情報科学科	●	●				
	食物栄養学科	●	●		●	●	
	人間生活学科	●	●				
共創工学部	心理学科	●	●				●
	人間環境工学科	●	●			●	
	文化情報工学科	●	●	●			

※●印のある学科で資格を取得できます。
 ※人文科学科のGIS学術士は、地理環境学主プログラムに限り、地域調査士資格取得、一級建築士受験資格の詳細に関してはお問い合わせください。
 ※公認心理師については、心理学科のページ(P077)をご覧ください。
 ※1 必要な職種に就いた時、その任に就くことができる任用資格です。

各種教育職員免許状

学部	学科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	その他の免許状
文教育学部	人文科学科	社会	地理歴史・公民	*
	言語文化学科	国語	国語	
		中国語	中国語	
	英語	英語		*
人間社会科学科	社会	公民	幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状 (教育学・子ども学コース入学者のみ) *	
理学部	芸術・表現行動学科	保健体育	保健体育	*
		音楽	音楽	*
	数学科	数学	数学	*
	物理学科	理科	理科	*
理学部	化学科	理科	理科	*
	生物学科	理科	理科	*
	情報科学科	数学	数学	*
生活科学部			情報	
	食物栄養学科			栄養教諭一種免許状
	人間生活学科	家庭	家庭	*
共創工学部	心理学科			
	人間環境工学科			
	文化情報工学科			

※ 文教育学部言語文化学科及び芸術・表現行動学科の学生は、選択するプログラムによって、取得可能な免許状の教科が異なります。
 ※ 文教育学部人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生で、グローバル文化プログラムを主プログラムとして選択する学生は教員免許状を取得できません。
 ※ *のある学科では一定の要件のもとに小学校教諭一種免許状を取得することができます(入学後要確認)。

学修支援 ~主体的な学びを支えるシステム~

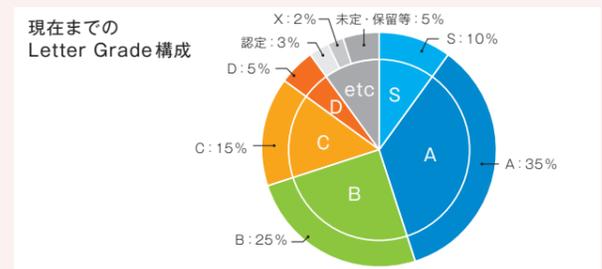
01 お茶の水女子大学の教育を支える学修支援システム

学生の主体的な学びを実施していくためには、大学・教員・学生のそれぞれが成果を確認し、改善を続けながら学修の充実に努めていくことが重要となります。それを担うのが学修支援システムiPPuKUです。

学修状況チェック



自身の成績や取得単位数を一人ひとりが把握・可視化することで、主体的に学修の計画が立てられるように支援する機能です。成績一覧表だけでなく単位取得状況や成績分布、GPAの変動についてグラフから自分の状況をモニタリングすることができます。これをもとにして、どのような履修登録をし、どのような目標を持って学修を進めるのかなど、卒業までの学修の計画を立てやすく、より質の高い学修に向けて学修改善のサイクルを回すことができます。



授業アンケートの実施

お茶の水女子大学では、学生に提供する教育の質を確認するために、授業アンケートを行っています。回答率は98%です。任意回答にもかかわらずこの高い回答率は、他大学と比較しても群を抜いています。学期末に今期の学修を振り返り自分の学びを見つめなおすとともに、積極的に大学へ自分の意見や感想を伝えることができる機会でもあります。学生の貴重な意見をもとに、大学運営や担当教員の学修改善としても機能しています。

02 学習相談窓口

大学での学びは、必ず履修する科目の他に、自分で選択して履修する科目もあります。いつ、どのような科目を履修するのか、履修計画を自分で作成していくことになります。

高校までの学習と比較すると、科目選択の自由度が高くなるため、興味や関心によって、学生一人ひとりの履修する時間割は異なることが一般的です。自分自身の責任で科目を履修していくため、不安になることがあるかもしれません。

学生一人ひとりの履修計画・時間割の作成をはじめ、外国語科目や資格取得に係る科目の履修等、さまざまな相談に対応するため、学修相談の窓口を設置しています。

各学部学科の教員、学務課職員、そして学修相談窓口のスタッフが連携して、学生の主体的な学びをサポートします。



就職・進学実績

就職・進学 (2021年～2024年)	文教育学部	理学部	生活科学部	計
2024年度	卒業生数 215 進学者数(率) 50(23%) 就職希望者数(内定率) 153(97%) 就職者数(率) 148(69%) その他(率) 17(8%)	134 98(73%) 28(100%) 28(21%) 8(6%)	130 53(41%) 68(97%) 66(51%) 11(8%)	479 201(42%) 249(97%) 242(51%) 36(7%)
2023年度	卒業生数 225 進学者数(率) 43(19%) 就職希望者数(内定率) 162(100%) 就職者数(率) 162(72%) その他(率) 20(9%)	133 106(80%) 23(100%) 23(17%) 4(3%)	129 59(45%) 63(98%) 62(48%) 8(7%)	487 208(43%) 248(99%) 247(51%) 32(6%)
2022年度	卒業生数 213 進学者数(率) 36(17%) 就職希望者数(内定率) 160(98%) 就職者数(率) 156(73%) その他(率) 21(10%)	129 87(67%) 37(100%) 37(29%) 5(4%)	146 55(38%) 77(99%) 76(52%) 15(10%)	488 178(36%) 274(98%) 269(55%) 41(9%)
2021年度	卒業生数 233 進学者数(率) 26(11%) 就職希望者数(内定率) 177(96%) 就職者数(率) 170(73%) その他(率) 37(16%)	131 96(73%) 29(93%) 27(21%) 8(6%)	147 43(29%) 91(99%) 90(61%) 14(10%)	511 165(32%) 297(97%) 287(56%) 59(12%)

学科別就職先一覧 (2024年度) ※就職者が5人未満の所属に関しては個人が特定されないよう2年分記載しています。

文教育学部

人文科学科 (哲学・倫理学・美術史)
日本電気株式会社
株式会社日立製作所
全国経済産業協同組合連合会 (JA共済)
株式会社アプレ
株式会社リコー
株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション
ソニー生命保険株式会社
国立研究開発法人産業技術総合研究所
東京都庁
株式会社リードビジョン
公益財団法人 福武財団
株式会社友和
デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社
株式会社三井住友銀行

人文科学科 (比較歴史学)
電源開発株式会社
株式会社栄光
Levareges株式会社
株式会社日本マクドナルド
東京SR経営労務センター
NRI ネットコム株式会社
株式会社新日本二一
株式会社成城石井
株式会社ケアリッツ・テクノロジーズ
日本ビジネスシステムズ株式会社
株式会社臨海
株式会社ベイブル
ビジョン株式会社
株式会社 Schoo
横浜市役所
埼玉県教育委員会
埼玉県教育委員会
学校法人開智学園

人文科学科 (地理環境学)
株式会社ナビタイムジャパン
株式会社三井住友銀行
東京地下鉄株式会社
独立行政法人国立高等専門学校機構
朝日航洋株式会社
京浜急行株式会社

言語文化学科 (日本語・日本文学)
タキイ種苗株式会社
株式会社新通
三菱食品株式会社
ユニシーシーフードサービスシステムズ株式会社
中央法規出版株式会社
株式会社学研メディアカルサポート
静岡県庁
本田技研工業株式会社
株式会社 KADOKAWA
株式会社時事通信社
株式会社すずまる
ちふれホールディングス株式会社
港区役所
NSホールディングス株式会社
TOPPAN株式会社

株式会社タイトー
有限責任あずさ監査法人
株式会社リソー教育
プライエッジ株式会社
株式会社日本政策金融公庫
株式会社 Dirbato
セコム株式会社
株式会社ベネッセコーポレーション
株式会社ハイ・アペイラビリティ・システムズ
株式会社ハンズ
神奈川県庁
シミック株式会社
株式会社丸井グループ

言語文化学科 (中国語圏言語文化) ※
栃木県公立高校
株式会社セレブリックス
日本郵便株式会社
エヌシーアイ総合システム株式会社
アクセンチュア株式会社
旭化成株式会社
株式会社 Faber Company
静岡県庁
特許庁

言語文化学科 (英語圏言語文化)
澤久工業株式会社
秋田テレビ株式会社
株式会社日本総合研究所
株式会社ケン・ホテル&リゾートホールディングス
特許庁
株式会社サンリオ
株式会社 NTT ドコモ
株式会社花王
トヨタ自動車株式会社
東京都庁
東京都教育庁
ソフバンク株式会社
株式会社博多座

言語文化学科 (仏語圏言語文化)
日本放送協会
東京ガス株式会社
株式会社商船三井
三菱UFJ信託銀行株式会社
株式会社エイチ・アイ・エス
YIEA 東京アカデミー

人間社会科学科 (教育科学)
日本食研ホールディングス株式会社
浜松市役所
株式会社講談社
日鉄興和不動産株式会社
デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同会社
日鉄日立システムソリューションズ株式会社
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
パーソルキャリア株式会社
株式会社北海道新聞社

人間社会科学科 (社会学)
JETRO
株式会社 ADK
PwC アドバイザリー合同会社
内閣府
株式会社日本貿易保険
三菱UFJ トラストシステム株式会社
NTT コムウェア株式会社
日本生命保険相互会社
西日本鉄道株式会社
株式会社ベクトル
エイベックス株式会社

人間社会科学科 (子ども学)
株式会社ニールズヤードレメディーズ
株式会社 Works Human Intelligence
株式会社 JSOL
オイシックス・ラ・大地株式会社
株式会社ナビタイムジャパン
東京都庁
株式会社ボーネルンド
ベース株式会社
日本赤十字社

芸術・表現行動学科 (舞踊教育学)
株式会社テレビ朝日クリエイティブ
有限責任監査法人 トーマツ
株式会社 アルファテック・ソリューションズ
株式会社講談社
株式会社セキエア
株式会社 NHK エンタープライズ
アチーブメント株式会社

芸術・表現行動学科 (音楽表現)
株式会社河合塾 マナビス
創英国際特許法律事務所
株式会社三井住友銀行
株式会社ごだわり
SBCメディアカルグループ
国立大学法人 東京大学

グローバル文化学環
株式会社三井 E&S
九州朝日放送株式会社
株式会社商工組合中央金庫
株式会社テレビ東京
明治安田生命保険相互会社
株式会社三井住友銀行
株式会社 NSD
株式会社 Colorkrew
サークレイス株式会社
住友商事株式会社
ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社
経済産業省
株式会社テレビ朝日サービス
学校法人芝浦工業大学
株式会社三井物産
ディーベック株式会社

理学部

数学科
税理士事務所
日本電気株式会社
株式会社テレビ新潟放送網
株式会社日本総合研究所
ランドマーク税理士法人
日鉄ソリューションズ株式会社
日本航空株式会社
香川県教育委員会
東京都教育委員会

物理学科
SOMPO ひまわり生命保険株式会社
北日本放送株式会社
科学技術館
株式会社ゆうちょ銀行
電源開発株式会社

生活科学部

食物栄養学科
シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社
雪印メグミルク株式会社
江崎グリコ株式会社
農林水産省
ネスレ日本株式会社
東洋製菓グループホールディングス株式会社
明星食品株式会社
株式会社オータマーチーズ
日本銀行

人間・環境科学科
株式会社 Visional
積水ハウス株式会社
株式会社日立製作所
株式会社オープンハウス・ディベロップメント
株式会社 NTT データ
日本銀行
ソフトバンク株式会社

人間生活学科 (生活社会科学)
三井物産株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
Sansan 株式会社
個人情報保護委員会

パナソニック株式会社
株式会社 NTT データ
防衛省

化学科 ※
株式会社きらぼし銀行
株式会社 MTG
株式会社 インターサーフ
株式会社 ライトワークス
気象庁
株式会社 日立国際電気
日鉄ソリューションズ株式会社

生物学科 ※
株式会社 K & G
群馬テレビ株式会社
栃木県国民健康保険団体連合会

埼玉県庁
キャノン株式会社
特許庁
コムテュア株式会社
有限会社春華堂
株式会社 NTT ドコモ

情報科学科 ※
株式会社 プロシップ
株式会社 NTT データ グループ
マッキンゼー・アンド・カンパニー・ジャパン
住友林業情報システム株式会社
株式会社 福岡銀行
日立製作所株式会社
株式会社 数理計画

大学院修了者の就職先情報

比較社会文化学専攻
公益社団法人 せたがや文化財団
株式会社 静岡銀行
東急電鉄株式会社
株式会社 こうゆう
株式会社 CLIS
独立行政法人 日本学術振興会
株式会社 和光
秋田市役所
独立行政法人 日本芸術文化振興会
株式会社 日本
リリス スポーツクリニック
光村印刷株式会社
国立大学法人 東京大学
株式会社 コンピュータマネジメント
株式会社 日立社会情報サービス
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会
アクセンチュア株式会社
人事院
株式会社 モバルファクトリー
東京都立浅草高等学校

人間発達科学専攻
アビームコンサルティング株式会社
PwC コンサルティング合同会社
東そのぎ子どもの村小学校
株式会社 マネジメントソリューションズ
練馬区教育センター
文京区役所
東京都福祉局
川崎市役所
株式会社 ソムラ
株式会社 LITALICO LITALICO ジュニア
パーソルホールディングス株式会社
特定非営利活動法人 あなたのいばしょ
法務省保護局
法務省矯正局
株式会社 ベネッセスタイルケア
豊田通商株式会社
お茶の水女子大学 いずみナースリー
株式会社 ポジンスエデュケーション
株式会社 ベネッセコーポレーション

ジェンダー社会科学専攻
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
ユニバーサル・ビジネス・ソリューションズ株式会社
株式会社 ファンキャリア
独立行政法人 国立女性教育会館
町田市役所
日本電気株式会社
グンゼ株式会社
アクセンチュア株式会社
学校法人 東洋英和女学院 中学部・高等部

Amazon Japan 合同会社
経済産業省
AGS 株式会社

ライフサイエンス専攻
株式会社 日本総合研究所
株式会社 東京大学 TLO
株式会社 野村総合研究所
日鉄ソリューションズ株式会社
日本製紙株式会社
独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
日本電気株式会社
第一共株式会社
農林水産省
株式会社 ニッスイ
株式会社 ニコン
昭和産業株式会社
アサヒビール株式会社
シミック株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社 インタージェ
株式会社 J-オイルミルズ
三菱商事 ライフサイエンス株式会社
株式会社 メディサイエンス プランニング
株式会社 良品計画
味の素株式会社
株式会社 日清製粉グループ本社
豊島区役所
キュービー株式会社
全日本空輸株式会社
ハウス食品株式会社
市立砺波総合病院
株式会社 富士通
高砂香料工業株式会社
物産フードサイエンス株式会社
三栄エフ・エフ・アイ株式会社
公益財団法人 榊原記念財団 榊原記念病院
埼玉県立小児医療センター
横浜市立大学病院

理学専攻
群馬県教育委員会
日興アセットマネジメント株式会社
株式会社 Cozies
PwC Japan 有限責任監査法人
NSSLC サービス株式会社
学校法人 東洋英和女学院 中学部・高等部
日本生命保険相互会社
東芝デバイス&ストレージ株式会社
三菱UFJ トラストシステム株式会社
株式会社 日本取引所グループ
三菱ガス化学株式会社
富士通 ディフェンス & ナショナルセキュリティ株式会社

株式会社 バンダイナムコフィルムワークス
SMBC 日興証券株式会社
日本電信電話株式会社
PwC コンサルティング 合同会社
SCSK 株式会社
パナソニック アドバンス テクノロジー株式会社
日本電気株式会社
株式会社 朝日新聞社
株式会社 日立製作所
フルデンシャル生命保険株式会社
株式会社 キヤノン
DIC 株式会社
大日本印刷株式会社
エスター株式会社
株式会社 レゾナック
株式会社 ニコン
昭和産業株式会社
アサヒビール株式会社
シミック株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社 インタージェ
株式会社 J-オイルミルズ
三菱商事 ライフサイエンス株式会社
株式会社 メディサイエンス プランニング
株式会社 良品計画
味の素株式会社
株式会社 日清製粉グループ本社
豊島区役所
キュービー株式会社
全日本空輸株式会社
ハウス食品株式会社
市立砺波総合病院
株式会社 富士通
高砂香料工業株式会社
物産フードサイエンス株式会社
三栄エフ・エフ・アイ株式会社
公益財団法人 榊原記念財団 榊原記念病院
埼玉県立小児医療センター
横浜市立大学病院

生活工学共同専攻
住友林業株式会社
TDK 株式会社
株式会社 GOOD PLACE
ENEOS 株式会社
日本電信電話株式会社
株式会社 クワタ
第一生命保険株式会社
福岡地所株式会社
株式会社 大気社
YKK AP 株式会社

学部・学科・プログラムインデックス

文教育学部

人間をとりまくマクロな社会や環境から、ミクロな個人の人々の思想や言語、あるいは文学・美術や音楽・舞踊といった芸術まで、多彩な研究分野があり、そこでは「生きている」人間とその文化や社会への関心が核となっています。教育や研究の対象は、古代から現代へ、日本から世界へと広がり、誕生から死まで人間の一生を追いかけます。

人文学科	哲学・倫理学・美術史プログラム	人間の叡智が息づく知的遺産の森 深遠な世界の奥底に潜む新しい価値に出会う	P.30
	比較歴史学プログラム	時空を超え、タイムマシンが始動する 過去を見つめて未来へつなぐ、心躍る知の世界	P.32
	地理環境学プログラム	知的に地球を生きるために 「場所」から文系と理系の知識を結びつける	P.34
言語文化学科	日本語・日本文学プログラム	言葉がきらめく文学の森で 日本文化の「本質」と今を見極める	P.36
	中国語圏言語文化プログラム	「子曰」から「你好」まで 中国三千年の歴史が織りなす豊かな言語世界	P.38
	英語圏言語文化プログラム	未来の世界を担う共通語 言語としての英語、文化としての英語を学ぶ	P.40
	仏語圏言語文化プログラム	フランスから見た欧州、欧州から論じるフランス 移民問題から現代思想まで、仏語圏を食べ尽くす	P.42
人間社会科学科	教育科学プログラム	教育と発達を「科学」する わたしたちはどのように「育つ」のか 根源的なテーマに迫る総合的人間科学	P.44
	社会学プログラム	疑う、観る、分析して問題解決の糸口をつかむ 社会と人間の行動をトータルに捉えて研究する	P.46
	子ども学プログラム	「子ども」という人間存在の原点から、理論・実践・対話を通して、人間・社会・文化の生成過程を根本から探究する	P.48
芸術・表現行動学科	舞踊教育学専修プログラム	「芸術の母」と称される身体表現—舞踊— 人間の根源的な表現行動を実技と理論で探求する	P.50
	音楽表現専修プログラム	その旋律の背後にはいつも人間の営みがあった 音楽から世界を知り、音楽で世界を考える	P.52
人文学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学プログラム	Comprehension (理解)、Communication (交流)、 Collaboration (協働)、知と実践が世界を結ぶ	P.54

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件					履修可能学部
	対象学年	文教育学部	理学部	生活科学部	共創工学部	
東京科学大学	—	○	○	○	○	
東京芸術大学	—	○	○	○	×	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	×	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	○	言語文化学部／国際社会学部／国際日本学部
東京海洋大学	—	×	○	×	×	海洋生命科学部／海洋資源環境学部
一橋大学	2年生以上	○	○	○	○	商学部／経済学部／法学部／社会学部
早稲田大学	4年生	×	○	×	×	先進理工学部
中央大学	—	○	○	○	○	理工学部
奈良女子大学	—	○	○	○	○	
津田塾大学	—	○	○	○	○	

本学では、上記の大学と交流協定を結び、単位互換制度を実施しています。
協定先大学が開講する授業科目を「特別聴講学生」として履修することができ、修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができます。

理学部

理学の基礎をなす5分野の専門教育を行っています。学部卒業後は半数以上が大学院に進学し専門性を深めています。卒業生は非常に高い割合で希望する職業に就いており、大学やシンクタンクのほか、民間企業では化学、製薬、化粧品、電気、食品、情報通信関連、金融関連などの分野で研究者として活躍しています。教育者として理系教育に携わる人も多数います。

数学科	数学プログラム	数学とは科学の世界の言葉です 発展し続ける数学の美に触れましょう	P.58
物理学科	物理学プログラム	理論と実験、仮説と実証を積み重ねる その先にある、永遠の真理を見つけるために	P.60
化学科	化学プログラム	生命現象からコンピュータケミストリーまで 森羅万象も先端科学も、すべては分子・原子の世界から	P.62
生物学科	生物学プログラム	神秘的なまでに美しい原理がそこにある 先端の研究環境で、生命のしくみを解き明かす	P.64
情報科学科	情報科学プログラム	21世紀の基盤技術、「情報」を科学する	P.66

生活科学部

理系・文系の枠を横断し、人間と生活を探求する学部です。卒業後の進路として、食物栄養学科は管理栄養士の免許を取得して官公庁や食品関連メーカー、病院、学校関係などに、人間生活学科は教員や博物館学芸員のほか、各自専門性を活かして民間企業に、心理学科は心理職をはじめとする公務員や民間企業などでの活躍が期待されます。各学科とも大学院への進学者も相当数います。

食物栄養学科	食物栄養学専修プログラム	食物とヒトを見つめるサイエンス	P.70
人間生活学科	生活社会科学プログラム	子育て、家族、消費者、福祉、ジェンダー論 生活者の視点で社会経済問題を解明し、政策を提案する	P.72
	生活文化学プログラム	暮らしを見つめ、今日を捉えたその先に 未来の文化と、世界の明日が見えてくる	P.74
心理学科	心理学プログラム	人を見つめ、人の不思議を理解し、人を支えるところを 科学し、こころと向き合う力は人と社会を成長へ導く	P.76

共創工学部

SDGsや多様性を包摂する社会を実現するには、女性の参画は不可欠です。共創工学部は、幅広い自然科学・人文・社会科学の教養と、工学とデータサイエンスの専門性を協働させることで、新たな価値を創出し社会でその成果を実践することを学ぶ学部です。人間中心の社会、あらたな文化創造に向けたイノベーションを推進できる女性人材の育成を目指します。

人間環境工学科	人間環境工学プログラム	人と環境のための新たな技術・社会の創造 持続可能で、多様性を包摂する社会の実現のために	P.80
文化情報工学科	文化情報工学プログラム	情報・工学から「文化」の問題解決をはかり 社会と共に彩り豊かな未来を創る	P.82

文 教 育 学 部

人文科学科
言語文化学科
人間社会科学科
芸術・表現行動学科

Faculty of Letters and Education

文化は、生き方です、社会です、情報です
世界をミクロに、マクロに、学問してみませんか

[アドミッション・ポリシー]

文教育学部は、人間と文化と社会に迫る、人文・社会系の総合的な学部です。人間は、過去から現在に至るまで地球上のさまざまな地域で、言語をはじめとする文化や科学技術を創造し、政治、経済、教育などの諸社会組織を発展させてきました。人間と文化と社会を理解するためには、時間軸と空間軸の上に現代社会を位置づけ、マクロからミクロに至る多次元的なアプローチが必要です。

高校での学習は、その後の人生を「よく生きる」ためのものです。本学部志望者には、高校において文科系の科目はもちろん理数系の科目まで幅広く、同時にどん欲に深く学習することを望みます。

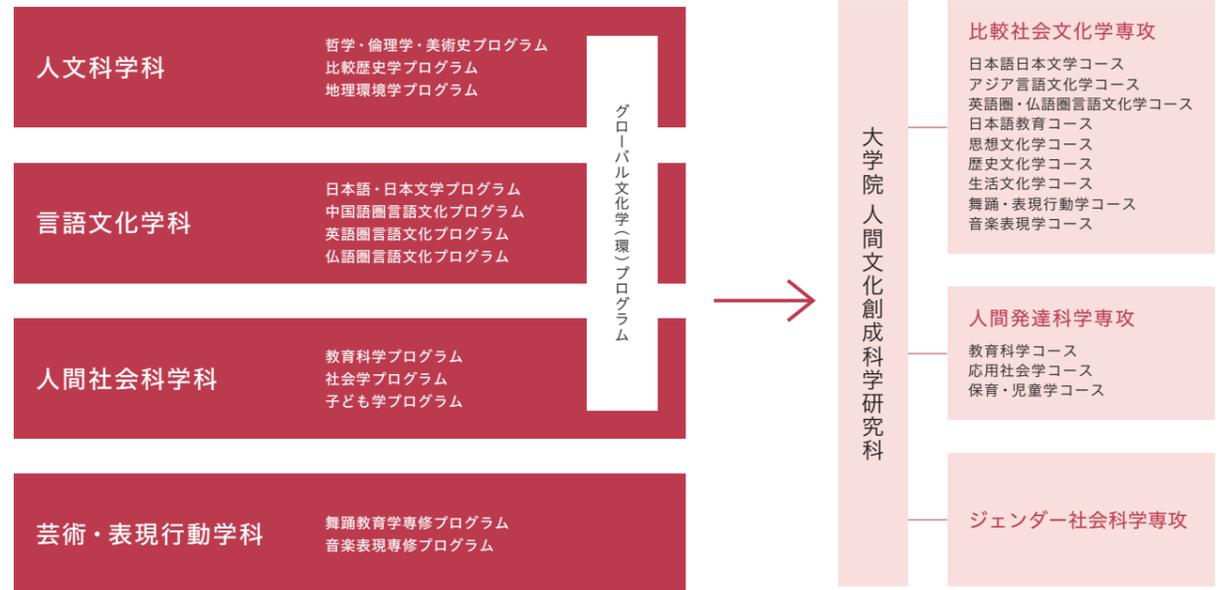
さまざまな領域や場で、リーダーが求められています。人間の思考や行動、表現に強い関心を持ち、意欲と能力と個性に富んだ皆さんが志望することを期待します。

文教育学部には、人間をとりまくマクロな社会や環境から、ミクロな個々人の思想や言語、文学・美術や音楽・舞踊といった芸術まで、多彩な研究分野があり、そこでは「生きている」人間とその文化や社会への関心が核となっています。人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科の4つの学科で13の専門教育のためのプログラムを提供しており、学生の関心にそって広く学修ができるように、自由度の高いカリキュラムを組んでいます。一つの専門を深めることも、複数の専門分野を広く学ぶこともできます。専門という自分の鏡を磨き、さらに他の鏡と合わせることで、虚と実が交錯する複雑な人間社会の全体像を映し出すことができます。人間と自然とが複雑にからみあう現代では、一つの現象を多方面から分析し、多くの人々と理解しあい行動することがますます重要になっています。文教育学部では、人生のさまざまな場面で生きる、多面的な「物事の捉え方」(文化)を学ぶことができます。



学部 Web サイト
<https://www.li.ocha.ac.jp/index.html>

文教育学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※文教育学部を卒業する際に学士(人文科学)が授与されます。
※人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生は、2年次よりグローバル文化学プログラムを選択することもできます。
(人間社会科学科の場合、入試出願時に「人間社会科学科」を選択した学生のみが対象です。詳しくは本学Webサイトに掲載している「人間社会科学科出願時の注意事項」を確認してください。)

文教育学部の特徴

人間の歴史と知恵、世界の文化と社会

文教育学部は、人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科という4つの学科からなります。各学科は複数のプログラムを提供しており、また学科の枠を越えた学際的なグローバル文化学プログラムもあります。人間が長い歴史のなかでつくりあげてきた文化や社会のあり方を研究するとともに、グローバル化する世界のなかで、生きる力を身につけるための教育を提供します。企業、官庁、学校、そして大学・研究機関など、社会のさまざまな場で、卒業生たちが活躍しています。

多様な研究ときめ細やかな少人数教育

本学部の最大の特徴は多様性です。教育や研究の対象は、古代から現代へ、日本から世界へと広がり、誕生から死まで人間の一生を追いかけます。三千年前の中国古典文学から現代世界の社会問題まで、多様な研究分野と研究方法の教員がいます。他学科の副プログラムを選んだり個々の授業に参加したりしやすいのも特色の一つです。もう一つの特徴がきめ細やかな少人数教育です。一人の教員あたりの学生数が少なく、時には一つの授業に学生が数人という贅沢な環境が提供されます。その分、ただ受動的に講義に出ればよいという姿勢では学生はやっていけません。講義でも演習でも、十分な準備をして主体的に参加することが求められます。教室の授業だけでなく、実習や学外での研修が組み込まれているプログラムもあります。

主プログラムを自分で選ぶ

入学試験は学科を単位として行い、学科に入学します。人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生は、2年次に進む時に主プログラムを選ぶ制度になっています。主プログラムは、自学科のいずれか、またはグローバル文化学を選びます。芸術・表現行動学科の学生の場合は、その学びの専門性を活かすために1年次より4年一貫の専修プログラムを履修します。

1年生向けに専門の基礎科目や入門科目が置かれており、主プログラムの選択の参考にすることができます。そして、1年生の時には、それらの科目や文理融合リベラルアーツ・基礎講義などで広い視野から多角的に問題を見ることを学びます。

主プログラムを選択できる上限人数はゆるやかに設定されていますので、ほとんどの場合は希望するプログラムを履修することができます。上限を大幅に超えた場合や各プログラムで定められた条件を満たしていない場合は、一定の方法で選考を行います。

プログラムの組み合わせを自分で選ぶ

自分で選んだ主プログラムが、専門の学修の主軸となります。この主プログラムにどのプログラムを結合させるか、第2のプログラムを選びます。主プログラムでの学修を徹底するなら関連する強化プログラム、学際研究を目指すなら、異なる学問分野の副プログラムが学際プログラムを選びます。さらに第3のプログラムとして、文教育学部あるいは他学部のプログラムを履修することもできます。なお、芸術・表現行動学科の学生も第3のプログラムを選択して履修することができます。

グローバル文化学プログラムと日本語教育副プログラム

グローバル文化学主プログラムを履修する場合は自分が在籍する学科のいずれかの副・学際プログラムを組み合わせず学修します。人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科の学生は、第2のプログラムとして、グローバル文化学学際プログラムを選ぶことができます。また、言語文化学科では日本語教育副プログラムが提供され、日本語を母語としない人の日本語教育やコミュニケーションのあり方を学ぶことができます。このような多彩なプログラムにより、学生一人ひとりの関心と目的にあった学びを構築し、将来のキャリアに活かすことができます。

哲学・倫理学・美術史プログラム

人間の叡智が息づく知的遺産の森 深遠な世界の奥底に潜む新しい価値に出会う

哲学、倫理学、美術史は、真・善・美という価値を軸にしなが、すべての学問や知のあり方を問い直すことで、私たちが生きる現在のさまざまな問題を根本的に考えます。哲学は考え方の多様性を知り、考える可能性を拡大することを学びます。倫理学は、人間はどうあるべきかという普遍的な問いと、自分はどうあるべきかという特殊的・個別的な問いにより、人間のあり方について考えていきます。美術史は、人間が創造した美術作品など視覚表象の機能や意味を巡る考察力や実証的な探求力を養い、人間の考え方や時代を捉えていきます。社会で生きるために必要な「考える力」「行う力」「感じる力」を養い、人生をより幸福に生きる応用力を育みます。

詳細はこちら▶
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/philart/index.html>



目的 感じ、考え、行う

それぞれの学問を深く学ぶことで、体系的知識と実践的応用力を身につけることを目指します。ものごとを感じ、考え、適切に判断し、柔軟にコミュニケーションする力や、日常を取り巻く視覚情報を的確に受け取る力を養います。哲学では、他の文化や時代の人がどのようなことを問題に議論や解答を重ねてきているか体得することで、物事を多角的で自由に考える力を養います。倫理学では、人間のあり方についての古今東西の先哲の説をよりどころに、人間はどうあるべきかを探り、社会や人生の現実的な諸問題について考え、主体的に実践する力を養います。美術史では作品と歴史的・社会的な文脈を踏まえて向き合うため、実証的検討や理論的分析を行う力を養います。民間企業への就職者や公務員・教員のほか、美術館・博物館の学芸員や専門研究者も多数輩出しています。

特徴 普遍的、批判的視点の養成

本プログラムを選択すると同時に研究分野を選びます。哲学では、西洋の伝統的な哲学的議論を現代の文脈のなかで受け止め、実地に解釈して展開させ、現代に通じる論理性や明快さを基本に議論や解答の多様性を学びます。倫理学では、西洋と日本の倫理思想を手がかりに、人間はどうあるべきかという普遍的な問題と自分はどうあるべきかという特殊的・個別的な問題をとともに見据えながら、「よく生きる」ことの内実を探っていきます。美術史では絵画、彫刻、写真、装飾から広告まで、多様なイメージと向き合い、対話を重ねることで意味を的確に引き出し、自らの視点で捉える力を磨きます。それぞれの分野を専門的に探究することも、文教育学部の他の副・学際プログラムと組み合わせることで固有のアプローチで他領域を探索することも可能です。

THE VOICE OF A STUDENT

いま、哲学・倫理学を学ぶということ

人間にとって「幸福」や「死」とは何か。日々の小さな信仰心と、それに伴う幸福観や死生観を追求するために倫理学を専攻しました。現代社会が抱える困難も、先人たちの教を踏まえて省察することで解決できるかもしれません。それが、いま哲学・倫理学を学ぶ意義だと思えます。

山本 沙都子さん 4年
第1のプログラム：哲学・倫理学・美術史主プログラム
第2のプログラム：舞踊教育学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

思想のワンダーランドへの旅

人はふだん、世界を限られた視野のもとで捉えています。そうした狭い世界観を抜け出て、古今東西のくすくすあやしい思想世界へ旅に出ましょう。異質な世界に触れた驚きから、哲学や倫理学の思索は始まります。旅を終えて帰って来たら、世界の景色がきっと変わっているでしょう。

長野 邦彦 助教
研究分野：日本倫理思想史



カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	哲学	倫理学	美術史
基礎	哲学基礎論(1年)→1 哲学概論Ⅰ・Ⅱ(1～3年)→2	倫理学基礎論(1年)→4 倫理学概論Ⅰ・Ⅱ(1～3年)→5	美術史基礎論(1年)→7 美術史概論(1～3年)
発展	理論分析論Ⅰ・Ⅱ(2～4年) 概念分析論Ⅰ・Ⅱ(2～4年) 問題分析論Ⅰ・Ⅱ(2～4年)	西洋倫理思想史資料講読(2～4年) 日本倫理思想史資料講読(2～4年)	西洋美術史AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・BⅢ(2～4年) 東洋美術史AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・BⅢ(2～4年)
	哲学研究指導A・B・C(2～4年) 哲学演習AⅠ～AⅥ(2～4年)→3 哲学演習BⅠ～BⅥ(2～4年)→3 哲学A～H(2～4年) 他	倫理学研究指導A・B・C(2～4年) 倫理学演習A・B(2～4年)→6 倫理思想史演習A・B(2～4年) 倫理学特殊講義A～F(2～4年) 倫理思想史特殊講義A～F(2～4年) 他	美術史学研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2～4年) 形象分析学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2～4年)→8 形象分析学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2～4年) 美術史学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2～4年) 美術史学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2～4年)→9 他
	卒業論文(4年)	卒業論文(4年)	卒業論文(4年)

科目紹介

1 哲学基礎論：人間、自然、社会、存在、真理、価値、心、行為などこれまで多くの側面から研究されている哲学のさまざまなテーマを紹介する。

2 哲学概論：哲学研究の現代的・世界的潮流、ターゲットとなる主要問題およびその歴史的背景、哲学が伝統的に育んできたスキルである論証などについて解説と演習を行う。

3 哲学演習：既存のテキストから考えるべき問題や解決のための議論を理解し、さらに自分なりの問題点や解決法の探求を目指す。哲学のテキストを読み解釈する。

4 倫理学基礎論：倫理とは何かといった基礎的な事柄と、倫理思想の古典テキストを読む基本的な方法について講義する。

5 倫理学概論：幸福、苦しみ、死、悪、性格、愛、社会という生きることと密接に関わるテーマについて倫理的に考察する。

6 倫理学演習：倫理学の基本文献の講読を通して、人間のあり方について考え、自分自身のあり方についても振り返る。

7 美術史基礎論：美術史とは何かについて、西洋・日本の美術史とその研究方法を概観し、美術を学術的に検討する上での関心を広げることを目指す。

8 形象分析学演習：日本・東洋美術に関する知識を深め、美術史を研究するための実践的なスキルを磨くことを目指す。文献講読を通じて美術史研究の理論と方法を知り、その実践へとつなげる。

9 美術史学特殊講義：西洋を中心に近・現代の視覚表象を巡る諸問題を取り上げ、ジェンダーやポストコロナリズムなどの多様な視点から具体的な事例を通じて考察する。

教員の研究分野

教授 宮下 聡子 倫理学(主に西洋)
准教授 土谷 真紀 日本美術史
講師 内山 尚子 西洋近現代美術史
助教(兼任) 佐藤 有理 現代英米哲学と認知科学・AIの学際研究
助教 長野 邦彦 日本倫理思想史
※2025年10月に哲学の新任教員が着任予定。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員
中学校教諭一種免許状(社会)
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 授業の一環として各地の現地調査も 深まる理解と広がる交流の輪



哲学、倫理学、美術史は、それぞれに主題や方法論を異にする学問分野ですが、この三つの分野が調和して一つの場をつくっているところがお茶大の特色です。その相乗効果は、本プログラムが不定期に実施している研修旅行にはっきりと表われています。そこでは、日本の倫理思想史や美術史において重要な聖地、寺社、美術作品などにじかに触れるようにしています。たとえば仏教の聖地を訪れる場合、西洋哲学と仏教との比較を行ったり、その地で目にする美術作品や建築とその地にゆかりのある仏教思想の内容のつながりを考察したり、日本と西洋の美術傾向の違いを議論したりする必要が出てきます。本プログラムの研修旅行では、事前準備の段階から、一つの学問分野だけでは手に負えない多面的なアプローチをとっています。専門分野を異にする複数の教員と、学部2年生から大学院生までの学生が一緒になって、一つの対象に多様な観点から考察を加えることで、実り多い学びが得られています。教員と学生、学生相互の親睦も深まり、とても楽しいプログラムになっています。

比較歴史学プログラム

時空を超え、タイムマシンが始動する
過去を見つめて未来へつなぐ、心躍る知の世界

詳細はこちら▶
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/history/index.html>



比較歴史学の対象は、この広い地球上に展開された人間の営みすべてです。人は自己のルーツの解明をしたいという強い本能に導かれながら歴史を探索してきました。そして、歴史のなかに時代が直面する困難への対処法を見出しながら歩んできました。グローバル化時代を迎えた今、人類の多様な文化を掘り起こし、世界のなかの日本人の軌跡を見据えることは、より強く求められるようになってきました。比較歴史学では、日本史、アジア史、西洋史の3つの領域を柱にしています。地域や時代によるさまざまな比較を行い、歴史をタテ・ヨコ・ナナメに歩きながら新しい世界史像を追求します。

目的 領域のクロスオーバー

比較の視点から歴史を見ることを目指します。それには二つの方法があります。一つは、民族や文化の相互交流を明らかにすること。日本と中国・朝鮮、ヨーロッパとイスラム世界など、さまざまな交流によって「世界」が形づくられました。もう一つはテーマによる比較。祭り、家族など世界には時代を超えて共通する事象があります。これらの比較から、人類共通の問題と個々の地域や時代の特性が浮かび上がります。比較の視点を身につけるためには、さまざまな地域の人々と交流することも大事で、留学生と交友関係を持つことはもちろん、自分から海外に出ることもよい経験になります。

広く民間の企業、たとえば金融・マスコミ・IT関係、公務員、教職への就職、大学院への進学が主な進路です。

特徴 文字と言葉とモノに挑む

歴史学で用いられる主な史料は文字ですが、決してそれだけではなく、遺跡、建築物、絵画・写真、生活用具など、さまざまなものが使われます。多種多様な史料を集めて整理・分析し、明らかになった事実を組み立てて、筋道が立つかどうか、何度も考えます。

また使われる言語も多種多様です。漢文、くずし字、中国語、アラビア語、英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語……。自分で史料が読めてこそ楽しいのです。

20～30人の学生に8つの演習(ゼミ)。徹底した寺子屋方式です。1年経つと、難解な史料が怖くなくなるから不思議です。読み解いた史料をもとに当時の社会の姿を再現し、教室にいながらにして世界各地の歴史へトリップします。

THE VOICE OF A STUDENT

過去から「いま」を考える場所

私が思う歴史学の面白さは、「なんでも史料になる」「なんでも研究対象になる」こと。様々な切り口で遠い地域や時代を身近に捉え、過去から「いま」を考えられるのが本コースの魅力です。今までの暗記学習を飛び越えて、仲間とともに多様な観点から歴史に向き合ってみませんか？

山本 明季さん 4年

第1のプログラム：比較歴史学主プログラム
第2のプログラム：比較歴史学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

「真実」を追い求める旅の切符の贈り物

歴史学では、過去の人が遺した様々な史料を読み解くことにより「真実」に迫っていきます。一朝一夕には成し得ませんが、謎解きのように楽しい作業です。またこのような営みは、虚実入り交じる現代社会でこそ必要とされます。「真実」を追い求める旅に、一緒に出かけましょう。

大藪 海 准教授

研究分野：日本史、特に中世の政治史や寺院社会史

カリキュラム(主+強化プログラム)

分野	日本史	比較・領域横断型	外国史			
主プログラム (必修科目)	初級 (必修科目)	日本史概説 日本文化史概論-1 日本史入門講読	比較文化史 比較社会史	アジア史概説 西洋史概説 外国史入門講読Ⅰ・Ⅱ-3		
	中級 (必修科目)	日本史研究法 日本史講読 日本史論文講読	古文書学 歴史史料学	歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ・Ⅱ グローバル・ヒストリー	アジア史研究法-4 アジア史講読 西洋史研究法 西洋史講読-5 外国史論文講読	
	上級 (必修科目)	日本古代史演習Ⅰ・Ⅱ 日本中世史演習Ⅰ・Ⅱ 日本近世史演習Ⅰ・Ⅱ 日本近代史演習Ⅰ・Ⅱ	日本古代史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本中世史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本近世史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本近代史料演習Ⅰ・Ⅱ	卒業論文	東アジア史演習Ⅰ・Ⅱ-6 東アジア史料演習Ⅰ・Ⅱ 西アジア史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋政治史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋社会史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋社会経済史演習Ⅰ・Ⅱ	
強化プログラム (必修科目)	日本古代中世政治史-2 日本古代中世文化史 日本古代中世社会経済史 日本古代中世史特殊講義	日本近世近代政治史 日本近世近代文化史 日本近世近代社会経済史 日本近世近代史特殊講義	都市社会史 比較ジェンダー史 歴史情報論 歴史学文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	考古学通論Ⅰ・Ⅱ 歴史史料調査Ⅰ・Ⅱ 歴史現地調査Ⅰ・Ⅱ	東アジア政治史 西アジア政治史 東アジアの歴史と文化 西アジアの歴史と文化 比較アジア社会史論Ⅰ・Ⅱ 比較アジア文化史論Ⅰ・Ⅱ	西洋政治史 西洋文化史 西洋社会史 西洋近現代史 フランス史 西洋史学の探求

科目紹介

1 日本文化史概論：16世紀までの日本の歴史(古代史・中世史)を、「都市」をゆるやかなテーマとしながら概観する。都市の歴史を通じて日本通史における時代の特徴を掴むことが目的。

2 日本古代中世政治史：10～12世紀の平安時代史について論じる。摂関政治を中心に、天皇制、政治システム、宮廷文化、都市性、地方政治、国際関係などについて多面的に考察する。

3 外国史入門講読：外国史の基礎的な文献(日本語)を出席者全員で輪読しながら、現在外国史の学問世界でどのようなテーマの研究が行われているのかについて具体的に学ぶゼミ形式の入門型授業。

4 アジア史研究法：中東・イスラム世界の仕組みについて、地理・環境・宗教・家族・教育・政治・経済・法・社会秩序などのテーマを取り上げ、史料を基に考察し、その研究方法を学ぶ。

5 西洋史講読：西洋近現代史に関する英語文献を講読する。研究文献の読み方やレファランスの使用方法に慣れ、基礎的な読解力を身につけることを目的とする。

6 東アジア史演習：中国史の漢文史料を自力で読解する能力を養う。清代の学者、趙翼の史論『廿二史劄記』を題材に輪読、語彙や人名の検索方法を学び、問題を掴みだす能力を養う。

教員の研究分野

教授	安成 英樹	西洋史、フランス近世国制史
教授	神田 由築	日本史、特に近世の文化史や社会史
准教授	戸川 貴行	アジア史、中国古代史
准教授	大藪 海	日本史、特に中世の政治史や寺院社会史
准教授	湯川 文彦	日本史、特に近代国家形成史
准教授(兼任)	阿部 尚史	アジア史、イラン近代史
准教授(兼任)	遠藤 みどり	日本史、特に古代の政治史
助教	松本 祐生子	西洋史、ロシア近現代史

取得できる主な教員免許・資格

学芸員、中学校教諭一種免許状(社会)
高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 書を捨て、街に出よ!「歴史の現場に立つ」多彩な授業群



大学付近の博物館・史跡などをまわるフィールドワーク中心の授業である「歩いて学ぶ比較歴史」、さらに範囲を広げて関東近郊の博物館・史跡をめぐるつつ、新2年生を迎えオリエンテーションを兼ねて行われるコース旅行、世界遺産などを訪ねる「歴史現地調査」、貴重な生の史料に触れる「歴史史料調査」など、実際の歴史の舞台に立ったり、歴史を今に伝える「証人」たちと対話したりするための授業が用意されています。どの「現場」も多くのドラマを秘めて待っています。

地理環境学プログラム

知的に地球を生きるために 「場所」から文系と理系の知識を結びつける

今、自分は地球上のどこにいるのか。自分のいる位置がわかれば、次はどのような場所にいるのか知りたくなります。どのような社会と自然がそこにあるのか、どのような原理で形成されているのか等々、疑問は次々と新しい関心と呼び覚ましていきます。地球と人類に関する興味・関心は、知的に世界を生き抜くために不可欠です。それを、世界の誰もが共有できるように、それぞれの知る場所を通じて明らかにしていくのが地理学です。空間、環境、景観、地域などをキーワードに、各人が特定の場所に強い関心を持って、自然・社会・人間を捉え考察する地理学には、文系・理系の枠を超えた広大なフィールドが広がります。人々を外部世界に誘い出し、歩きながら考えさせる学問です。

詳細はこちら▶
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/chiriog/index.html>



目的 ローカルな知識と実践力の育成

地理学は、大学の教育・研究において文系と理系の知をローカルな場所で考え、結びつける総合科学であり、さらに社会生活においては現実的な諸問題に解決策を与える応用科学・政策科学としての特徴を持ちます。地理環境学プログラムでは、現実的な諸問題（経済振興、地域計画、都市問題、少子高齢化・福祉問題、防災、環境問題など）の解決のために、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスと知識を育みます。卒業生の多くは専門を活かした分野へ進みます。公務員では地域計画・交通計画の部署、民間企業ではマスコミ、鉄道、百貨店、建設・不動産、情報システム、地図作製、シンクタンクなどです。地理学の実践的、応用的なスキルが力となります。

特徴 幅広いテーマとスキルの尊重

地理環境学プログラムでは、経済、社会、都市、環境などの地理学の知識を講義や演習を通じて広く学びます。さらに、地理学独自の分析視点や方法を学ぶため、フィールドワーク（東京近郊と日本各地）、地図・GIS、地域統計分析、アンケート調査、自然観測などの授業を履修します。これによって、地理学の基礎的なスキルを学ぶとともに、地球と人類に関して人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの分野が問題とする諸現象の場所性・地域性について考えるための地理的センスを身につけます。卒業論文では、授業を通じて学んだ知識・スキル・センスを活かして、学生の一人ひとりが任意の地域で設定したテーマに基づき研究に取り組みます。地理学の卒業論文では、多様なテーマ設定が可能です。

THE VOICE OF A STUDENT

文理問わない広い学びを

理科と社会が両方好きで、進路に悩んでいた時に出会ったのが地理学でした。都市、福祉、防災など、興味の方向は人それぞれ。文理問わず知識を吸収し、幅広い現象や場所を扱えるのが魅力です。地図やデータから考えるだけでなく、フィールドへ出て現地を体感できるのも楽しいです。

平賀 千巴夜さん 4年
第1のプログラム：地理環境学主プログラム
第2のプログラム：地理環境学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

街を歩き、世界を考える

人やモノ、情報などが「なぜここに存在するのか？」という問いを出発点に、世界を見る解像度を高め、地域の問題を認識し、社会を変えていく実践的な力を育むことが、地理学の醍醐味であると思います。地理好きの仲間と街を歩き、地域を観察し、質問をぶつけてみませんか。

申 知燕 准教授
研究分野：都市地理学、移民研究

カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	地理学共通	人文地理学分野	自然地理学分野
基礎 (1～2年)	地理学フィールドワーク ¹ 地誌学 ² 地図学 地理学分析基礎演習Ⅰ・Ⅱ ³	人間と空間 経済地理学 社会地理学 都市地理学 ⁵ 福祉の地理学	自然と人間 ⁶ 自然地理学
発展 (2～4年)	測量学 地理情報学 ⁴ 地理情報学演習	人文地理学フィールドワーク 地域分析学演習Ⅰ 社会地理学演習Ⅰ 都市地理学演習Ⅰ	自然地理学フィールドワーク 自然地理学演習Ⅰ ⁷ 環境地理学演習Ⅰ
	地理環境学演習Ⅰ～Ⅳ 地理学研究法演習 地理学卒業演習 卒業論文	地域分析学演習Ⅱ 社会地理学Ⅱ 都市地理学演習Ⅱ	環境地理学演習Ⅱ

科目紹介

1 地理学フィールドワーク：理論やスキルを学んだら、教室を出て現実を眺め、考える。自然環境・歴史・経済・文化など多様な側面から地域を考察するフィールドワーク。

2 地誌学：特定の地域を総体的に記述するのが地誌である。古今東西の地誌書や各種文献による地域の描写を検討し、地域の個性とその記述スタイルについて考える。

3 地理学分析基礎演習Ⅰ・Ⅱ：地理学の調査・分析に必要な、文献・資料収集の方法、地域統計に関する知識と扱い方、統計分析の基礎、主題図作成の技法について学ぶ。

4 地理情報学：地理情報システム (Geographic Information System) を用いた地理情報解析について学ぶ。また、代表的なGISについて基本的な使用方法を修得する。

5 都市地理学：グローバル化の進展とともに変貌する都市空間を理解し、都市住民のライフコースと生活を考察するための地理学的な視点を学ぶ。

6 自然と人間：自然環境内で人間が活動することによって起こる環境問題を取り上げ、それを理解するためのアプローチを実践的に学ぶ。さらに、自らの環境観の構築を目指す。

7 自然地理学演習Ⅰ：自然環境を自ら測ることを通して自然の摂理を理解する。さらに、さまざまなデータ（自ら観測したデータや全球規模の膨大なデータなど）を図化し分析できる能力を身につける。

教員の研究分野

教授	長谷川 直子	自然地理学、地理教育
准教授	申 知燕	都市地理学、移民研究
准教授	倉光 ミナ子	地誌学、文化地理学、オセアニア地域研究
教授（兼任）	宮澤 仁	福祉地理学、地理情報学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）
学芸員、GIS学術士、地域調査士
社会調査士

※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 実践的なフィールドワークで学んだ地域情報を生きた知識に



一人の人間が見聞できる範囲は限られますが、地図・GISはそれを補います。他方、地図・GISを使って表現された情報は、現場で確かめることによって、はじめて生きた知識になります。場所・地域の状態をそこに住む人々のあり方を通して知ることにより、人間の活動と社会をよりリアルに捉えることが可能になります。地理環境学のプログラムでは、現場で情報を収集・理解するフィールドワークを重視しています。フィールドワークの学習過程を経ることで「地域調査士」資格取得への道も開けます。

日本語・日本文学プログラム

言葉がきらめく文学の森で 日本文化の「本質」と今を見極める

私たちはいつの間にか「日本語」をしゃべっていますが、それはいつ、なぜ、このような言葉になったのでしょうか。自分たちが知っているようで知らない、言葉のしくみや動きを理解したいと思いませんか。遙か昔の、万葉びとたちの歌が、いま生きている私たちにも「わかる」と思えるのは、なぜでしょうか。それぞれの時代の日本人が、自分の思いを託し、洗練し続けてきた言葉。文学作品はその宝庫です。遠い古代から現代に至る、広大な文学の森に分け入ってみましょう。学問的的確なコンパスとなって、あなたを導いてくれるはずですよ。

詳細はこちら▶
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/jpn/index.html>



目的 作品に迫る！

日本語・日本文学を学ぶために十分な基礎力を身につけ、言葉というものに対する洞察を深めるとともに、文学作品に対する分析手法を学びます。

研究の方法はさまざまです。和紙に墨で書かれた古写本を読んだり、平安時代の人物の生涯を細部まで復元したりするほか、最新の文学理論を応用して作品に迫ったり、大量の言語データをパソコンで統計処理するようなこともします。しかし、結局のところ、文章をじっくり、深く読むこと、自分で突き詰めて考えることがいちばん大事だとわかってくるでしょう。

卒業後は専門を活かして教職やマスコミ関係に進む人、一般企業に就職する人、公務員になる人のほか、大学院に進む人も少なくありません。

特徴 幅広く学ぶ！

文学関係では、奈良時代以前から現代まで、各時代の文学史を中心に広く学ぶようになっています。語学関係では、文法論や語彙論といった基礎理論から、実際に話されている日常会話の分析まで、幅広く学びます。他の大学では、自分の興味のある所だけを勉強しても卒業できてしまう場合がありますが、本プログラムではオーソドックスな体系的な学修が重要であると考えています。幅広く学んでみて、初めて自分の好きなものの位置がはっきりしてくるのです。

授業は文学史や概説・通論のような科目から、作品を深く読む講読科目、自分で調べ、考えて発表する演習科目などからできていて、これらを組み合わせて学修していきます。最後は、自分の力で大きな卒業論文をまとめることになります。

THE VOICE OF A STUDENT

国語の「なぜ？」が出発点

夜空に浮かぶ「星」や「月」は今日の私たちにとって身近な美の対象です。しかし和歌において「星」を詠んだ歌は「月」の歌と比べて圧倒的に少ないとされています。本コースでは語学・文学を横断的に学ぶことができます。国語が好きな仲間と共に「なぜ？」に対する答えを探しませんか？

小森 さやかさん 4年

第1のプログラム：日本語日本語主プログラム
第2のプログラム：日本語日本語強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

文学に惹かれてしまう人たち

小説が好きだと言うと、どこか高尚で格好つけたイメージを持つかもしれませんが、基本的に近代文学の担い手というのは、成熟した市民として清く正しく生きられない“ダメ人間”たちの集まりです。文学研究とは、そういう営みに堪らなく惹かれてしまう人びとを惹きよむことから始まるのだと思います。

加藤 夢三 准教授

研究分野：現代日本文学

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	主プログラム		強化プログラム
	日本文学	日本語学	日本文学・日本語学
1年次	日本文学概説 日本古典文学史論(上代、中古)→1 日本文学論講読Ⅰ～Ⅳ→8 日本語文化論Ⅰ・Ⅱ	日本語学通論 日本語彙論→2	書道Ⅰ
2年次	日本古典文学史論(中世、近世)→1 日本古典文学論基礎演習Ⅰ 日本古典文学論特殊研究(上代～近世)→6 日本近代文学論特殊研究(近代、現代)	日本語文法総論 日本語音声表現論→3 日本語文章表現論 日本語学特殊研究 日本語史特殊研究	書道Ⅱ 日本語学基礎演習 日本古典文学論基礎演習Ⅱ
3年次	日本近代文学史論(近代、現代) 日本古典文学論演習A～C・Ⅰ・Ⅱ→4 日本近代文学論演習A・B・Ⅰ・Ⅱ→5 日本古典文学論特殊講義Ⅰ～Ⅲ 日本近代文学論特殊講義Ⅰ・Ⅱ→7	日本語学演習(日本語史、近・現代語)Ⅰ・Ⅱ 日本語学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	※注 本カリキュラムの強化プログラムは、主プログラムに設置された科目群をより多く履修することを基本とする。ここでは主プログラムに含まれない科目のみを掲げた。
4年次	卒業論文	日本文学研究指導・日本語学研究指導	

※科目の年次配置は標準的な履修年次により掲げるものであり、必ずしもこの年次以外に履修できないわけではない。

科目紹介

1 日本古典文学史論(上代)：『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』など、上代(奈良時代まで)の文学作品について、基礎知識や読み所、研究方法の歴史と現在について講義する。

2 日本語彙論：古典語から近代語、そして、新語や流行語を含む現代語に至る日本語を通時的・共時的に見て、その起源や構成、意味などについて、語の(くまとまり)という観点から捉える方法を講義する。

3 日本語音声表現論：古代語から現代語までの日本語の発音について学ぶ。口の動きを観察して発声の仕組みを考えるだけでなく、方言や過去の文献を手がかりにして発音の歴史の変遷についても考える。

4 日本古典文学論演習B：中世の作品の一つを取り上げ、学生が諸種の参考文献を精査して作品に注釈を加え、本文の理解を深めると同時に、テーマ設定やその方法を考察する。

5 日本近代文学論演習A・B：近現代文学の代表的作家とその作品について資料を参考に調査・分析し、レジュメを作成する。口頭発表と討議を経験することで、近現代文学の研究方法を修得する。

6 日本古典文学論特殊研究(近世)：西鶴作品などの近世小説を取り上げて読解し、素材・趣向や作者の関連に焦点を当てて講ずる。また、近世の出版文化のなかで文学作品が形成され、流布した様相も跡付ける。

7 日本近代文学論特殊講義Ⅰ：モダニズムと呼ばれた戦前日本の文化現象について、当時の社会状況や歴史的な文脈、あるいは言葉と物の関係をめぐる哲学的議論などを踏まえつつ、その可能性を総合的に考察する。

8 日本文学論講読Ⅰ：平安時代の『伊勢物語』『源氏物語』『大鏡』などから作品を選んで読み解く。表現の特徴や歴史・思想・文化等の背景に注意して精読し、物語とは何かを考える。

教員の研究分野

准教授	松岡 智之	中古日本文学
教授	浅田 徹	中世日本文学
教授	藤川 玲満	近世日本文学
教授	谷口 幸代	近代日本文学
准教授	加藤 夢三	現代日本文学
准教授	竹村 明日香	日本語史
准教授	石井 久美子	現代日本語

取得できる主な教員免許・資格

学芸員、中学校教諭一種免許状(国語)
高等学校教諭一種免許状(国語)
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | いざ、言の葉の森へ



1000年以上前に書かれた詩歌や物語を辞書なしで10代の若者が読める。これは世界中の言語をみても稀なことで、日本語が連続と受け継がれてきたことの証です。本コースでは古代から現代に至るまでの数多くの文学・語学作品を紐解き、言の葉の森に分け入ります。書物だけでなく文学関係の史蹟を訪れることも重視しています。思考と五感を使ってこの森をともに探索しませんか。

中国語圏言語文化プログラム

「子曰」から「你好」まで 中国三千年の歴史が織りなす豊かな言語世界

中国語は現代世界でもっとも重要な言語の一つです。中国は、国内にさまざまな矛盾を抱えながらも、政治的・経済的に急速に世界におけるプレゼンスを増しています。一方で、三千年の昔から文学の歴史を持ち、世界に広がる強固なネットワークを有する国でもあります。彼らが使う中国語は、深い思索の言葉として遥かな時空間を超え、今、この瞬間に使われているリアルな言葉でもあります。中国語圏言語文化プログラムでは、さまざまな意味において豊かな中国文化に言葉を通じて切りこみます。人々の考えや感情に言葉を通じて触れていく学びの旅は、社会で生きていく時に大きな力となってくれます。

詳細はこちら▶
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/chn/index.html>



目的 全球的に活躍するアジア人

国際社会で活躍するための言語として中国語はとて大きなスキルとなります。欧米の国々では義務教育段階から中国語の教育をする学校も出現しているほど、重要視されています。中国語圏言語文化プログラムでは、専任教員が現代語学、現代文学、古典語学・文献学、古典文学の4つの領域をカバーし、さらに中国語を母語とする外国人講師が中国語の運用能力を養成する授業を担当し、言語から文化論まで幅広い知識と認識を提供しています。授業外でも、中国に直に触れる中国語学研修、最新の研究成果に出会えるお茶の水女子大学中国文学会など、さまざまな学びのチャンスを提供しています。

卒業後の就職先は官庁、地方自治体、放送出版、商社、金融、メーカーなどさまざま、専門研究者も多数輩出しています。

特徴 少人数の多彩なゼミ

中国語圏言語文化プログラムは1学年6〜7人です。お茶の水女子大学のなかでも、もっとも小規模な所帯です。授業も少人数のゼミ形式が大半で、授業の準備は大変ですが、それだけに力もつきます。カリキュラムは中国語の実践的運用能力を修得するための科目群を基礎とし、その土台の上に、中国現代文化、中国現代語学、中国古典文献、中国古典文学という4つの研究領域を設けています。またそれぞれの領域に、基礎的知識を修得するための概論、研究方法を学ぶための講義、さらにそれを向上させるための演習という、3つのレベルの授業を用意しています。

行事の合宿やコンパには2年生から大学院の博士課程の学生までが一緒に勉強したり楽しんだりします。

THE VOICE OF A STUDENT

多くの分野の学びが活きる

中国語圏言語文化コースでは、中国語はもちろんのこと、中国文学や中国文化など幅広く中国について学ぶことができます。また、他の学科の授業を受けることで得た知見を中文の授業で生かすことで、より深みのある学習をすることができます。中文コースでお待ちしております！

細川 瑠杏さん 4年
第1のプログラム：中国語圏言語文化主プログラム
第2のプログラム：中国語圏言語文化強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

灯を囲んで怪談を語りましょう

孔子ですら恐れ、「怪力乱神を語らず」と言ったほど、中国には怪談が伝わっています。旅館で出会った美しきお嬢様は、狐だった？ 眠る娘と帰郷した娘、本物はどちら？ 闇に消えた少女が戻ると、悪人の首は切り落とされた。誰が？ さあ、灯を囲み、怪談を語りましょう。

富 嘉吟 准教授
研究分野：中国古典文学

カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	専門中国語 中国語学	現代文学 現代文化	古典文学 文献学
基礎 (1~2年)	中国語ヒアリング基礎 ⁸ 中国語ヒアリング演習 中国語作文基礎演習 中国語学概論 日中対照言語学	中国現代文学史 中国語講読 ¹ 中国文化論 ⁷	中国古典文学史(先秦-唐) 中国古典文学史(宋~清) ⁴ 中国古典文献講読入門 中国古典文献講読基礎
発展 (2~4年)	中国語会話演習 中国語コミュニケーション・スキル ⁹ 中国語作文応用演習 中国語統語論 ⁵ 中国語文法論	中国現代作家論 ³ 中国現代作品論 中国事情 ⁶	中国文学古典講読 中国文学古典演習 中国古典詩講義演習 中国語学文献講読 ²
	中国現代文化特別演習 中国現代語学特別演習 中国古典文献特別演習 中国古典文学特別演習 卒業論文		

科目紹介

1 中国語講読：同じ漢字を用いながらも、中国語と日本語には微妙な差異がある類義語がたくさん存在している。その違いを学びながら中国語への理解を深める。

2 中国語学文献講読：古代東アジアのベストセラー、白居易の詩を読む。『白居易集』の講読を通じて中国古典研究の基礎能力を身につけ、漢詩さらに中国文化への認識を深める。

3 中国現代作家論：主として中華民国から中華人民共和国の時代の文学を扱う。それを通じて中国を巡る現代的問題を考える際の手がかりを得て、各人が自らの中国像の構築を目指す。

4 中国古典文学史(宋~清)：唐代以前とは異なる独特の中国近世文学。そのあり方を時代背景を踏まえつつ考察するとともに、漢詩文に親しんでいた当時の日本人の文学環境についても概観する。

5 中国語統語論：中国語の文法構造をいろいろな観点から考える。中国語を学ぶ、というよりは、中国語という宝の山から面白い現象を見つけ出すと言えるかもしれない。他の言語との比較なども考えていく。

6 中国事情：現代中国の社会と文化を学ぶ。文字テキストだけでなく、映像資料を用いたり、時には中国人から話を聞いたりして、多面的に今の中国を知り、考える。

7 中国文化論：中国文化について学ぶと同時に、中国に関する情報の収集・取り扱いの方法について学ぶ。

8 中国語ヒアリング基礎：中国語の聞く力を鍛える授業。発音された音を正確にキャッチし、正確な発音で会話することを目指す。

9 中国語コミュニケーション・スキル：中国語運用能力向上を目指す。

教員の研究分野

教授	和田 英信	中国古典文学
※2025年度末で定年退職。		
教授(兼任)	伊藤 さとみ	中国現代語学・言語学
准教授	橋本 陽介	中国現代文学
准教授	富 嘉吟	中国古典文学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状(中国語)
高等学校教諭一種免許状(中国語)
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 北京の語学研修で言葉を学ぶ、中国を体験する



毎年夏、中国語短期海外研修を実施しています(研修先是北京外国語大学)。期間は2週間と本当に「短期」で、効果が上がるはずないと思うかもしれませんが、中国語力が格段に向上することが検定試験の結果等から確かめられています。同時に、あるいはそれ以上に、中国の人々や社会の生の姿に触れる貴重な機会になります。図書館ホームページのTeaPotに掲載の報告書で、過去の参加者の感想を読んでみてください。研修の成果は単位として認定されます。また、学生支援機構や本学独自の奨学金を受けることができます。

英語圏言語文化プログラム

未来の世界を担う共通語

言語としての英語、文化としての英語を学ぶ

古くは中世・ルネサンスの時代から、多くの世界的文学作品を生み出してきた英語は、現在世界でもっとも広く通用する言語として、国際化が進む世界の未来そのものを担う言語となっています。本プログラムでは、英語の言語としての特質やその運用・修得のあり方を学ぶと同時に、英語を母語とする人々が、その思考や感情や想像力の表現として生み出してきた文学や文化表象を、分析の方法論と併せて学びます。高度な英語運用能力と専門知識を身につけ、思考力・発信力・表現力を同時に磨くことで、深く思考し、自信を持って世界に発信できる人材となることを目指します。

詳細はこちら▶
<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/eng/index.html>



目的 世界に発信できる力をつける

本プログラムでは、英語と英語圏の文学・文化をグローバルな視野で総合的に理解することを目指します。教養レベル以上の英語運用能力を確実に修得すると同時に、学術的成果や深い思想を英語で正確に表現し、自信を持って世界に発信できる能力の修得を目標に、専門知識と技能の両面から広く深く学びます。

また、英語学や英語圏文学を専門に学ぶための高度な英会話・英作文の専攻科目、卒業論文を英語で作成するための科目も組み合わせています。さらに英語圏の社会や文化を学ぶ科目により、英語圏言語文化のトータルな理解を目指します。卒業後は、英語力を活かし、教員、翻訳、商社、公務員、出版社などさまざまな分野で活躍する一方で、大学院に進学して専門分野の研究を続ける人もいます。

特徴 思考力・発信力・表現力を磨く

英語と英語圏の文学・文化について効果的に学ぶため、1年次には文法に関する基礎的な講義を履修し、2年次には英文法演習、英語音声学演習、英語学概論などを基礎から積み上げ、じっくり高度な実力を身につけていきます。2～3年次には、英語圏文学・文化、英語学・英語教育学のなかから自分の専攻する領域を選んで演習や講義を受け、さらに専門知識を深めることができます。英語学では、特別演習（言語研究方法論）と各種の英語学特殊講義を、英語圏文学では、英文学史、特別演習（英米文学研究方法論）、英文学特殊講義などを履修します。いずれの場合も4年次には、語学・文学別に組まれている特別演習と各種の特殊講義を引き続き履修して専門知識を深め、英語による卒業論文を作成します。

THE VOICE OF A STUDENT

「出会い」が私を変える

幼少期から英語圏の児童文学に親しんでいたことがきっかけで、本コースを希望しました。熱心に指導してくださる先生方と向上心のある仲間と刺激を受けながら、学びを深めています。多様な文学作品との出会いが私の世界を広げてくれるところに魅力を感じています。

夏川 結衣さん 3年
 第1のプログラム：英語圏言語文化主プログラム
 第2のプログラム：英語圏言語文化強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

国際的なコミュニティに参加する

国際語である英語は、仕事、旅行、友情、文化交流の機会を私たちに与えてくれます。英語を学ぶこと、英語を教える方法を学ぶことで、私たちはこの機会を若い世代に伝え、言語を自分のものにするのを可能にし、国際的なコミュニティを育成することができます。

ロバート・ロウ 准教授
 研究分野：英語教育学・応用言語学

カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	主プログラム			強化プログラム	
	英語運用能力	英語学・英語教育学	英語圏文学・文化	英語力・英語学・英語圏文学	
基礎	1年次	英文法Ⅰ(1)(2)・Ⅱ	言語学入門Ⅰ(1)(2)・Ⅱ	英語圏言語文化入門(1)(2) 英語圏言語文化研究Ⅰ	
	2年次	英作文演習(初級)→ 1 英会話演習(初級) 英作文演習(中級) 英会話演習(中級) 英語圏事情(1)(2)→ 2	英語学入門(1)(2) 英語学概論→ 5 英語音声学演習 英文法演習→ 4	英米文学演習(初級) 英語圏テキスト研究入門(1)(2) 英文学史Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 英文学特殊講義Ⅰ～Ⅷ 英語圏言語文化研究Ⅱ・Ⅲ	英米文学演習(中級) 英米文学演習(上級)(1)(2)
発展	3年次	対照表現学演習Ⅰ(1)(2)・Ⅱ→ 3	特別演習(言語研究方法論)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 英語学特殊講義Ⅰ～Ⅷ 第二言語教授法研究Ⅰ・Ⅱ	特別演習(英米文学研究方法論)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 米文学史Ⅰ(1)(2)・Ⅱ→ 7	英作文演習(上級) 英会話演習(上級)
	4年次	卒業論文	特別演習(言語資料分析)	特別演習(作品分析)→ 6	

科目の年次配置は標準的に履修を開始できる年次により掲げている。
 本カリキュラムの強化プログラムは、主プログラムに設置された科目群をより多く履修することを基本とする。ここでは主プログラムに含まれない科目のみを掲げた。

科目紹介

1 英作文演習(初級)：In this class students will improve their ability to plan, organize, write, and revise their English essays. Students will also expand their vocabulary knowledge through reading academic texts.

2 英語圏事情(1)(2)：The aim of this class is familiarize students with the cultural similarities and differences between the U.S.A., the U.K. and other English speaking countries.

3 対照表現学演習Ⅱ：卒業論文の書き方を学ぶ。テーマの選定・文献調査方法・先行文献の引用方法・英文30ページ以上に及ぶ卒論の構成を扱い、授業内議論による吟味を踏まえて各自の卒業論文の基となる英文レポートを作成する。

4 英文法演習：最近の理論言語学の知見に基づき、特に文構造の問題に焦点を当てて、英文法の知識を深め、統語論の基礎知識を身につける。

5 英語学概論：言語の規則性・普遍性を意味の面から考察し、意味論の基礎知識を身につける。

6 特別演習(作品分析)：作品選択、テーマ設定、方法、資料収集等、卒業論文執筆に至る実践的研究方法を学ぶ。

7 米文学史Ⅰ(1)(2)：植民地時代から現代に至るアメリカ合衆国の文学を今日的視点から概観する。

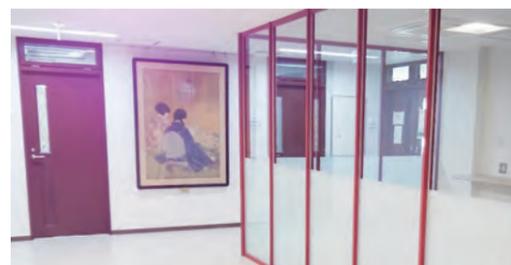
教員の研究分野

教授 野口 徹	英語学・言語学(文法理論、統語論・意味論のインターフェイス)
教授 山腰 京子	英語学・言語学(第一言語習得)
教授 高桑 晴子	英文学(主に19世紀のイギリス・アイルランド小説)
准教授 デイビット・アレン	心理言語学・応用言語学・第二言語習得
准教授 ロバート・ロウ	英語教育学・応用言語学
助教 丸谷 徳嗣	米文学(アメリカ南部文学、20世紀アメリカ文学)
助教 水野 輝之	英語学・言語学(形式意味論・語用論)
助教 新居 達也	英文学(中英語詩・近代初期の詩)

取得できる主な教員免許・資格

学芸員、社会調査士
 中学校教諭一種免許状(英語)
 高等学校教諭一種免許状(英語)
 ※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | Et rebus et verbis (By both deeds and words)



2024年秋に文教育学部1号館の改修工事が完了し、故・竹村和子教授寄贈の日本画が4階エレベーターホールに戻ってきました。ジュディス・パトラーの著作をはじめとする英米系批評理論を日本に紹介した竹村先生は、フェミニズム/ジェンダー研究、文学批評の第一人者として母校で後進の指導にあたられました。竹村先生が実践された、ことばを通してジェンダーをはじめとする私たちを取り巻く問題に目を向け、真摯に取り組む姿勢は、今日の英語圏言語文化コースにも知的風土として引き継がれています。ことばに心を開き、自己更新を恐れないことは人文学の醍醐味です。

仏語圏言語文化プログラム

フランスから見た欧州、欧州から論じるフランス 移民問題から現代思想まで、仏語圏を食べ尽くす

フランスは、17世紀以来、ヨーロッパの政治と文化の中心でした。20世紀の後半になって、フランスはドイツとともに欧州連合(EU)の創設に深く関わり、現在でもヨーロッパ全体に大きな影響力を發揮しています。したがって、フランスの文化と社会を考える時にはヨーロッパ全体を視野に入れること、逆にヨーロッパ全体の問題を考える時にはフランスを一つの中心核とすることは大きな意義があります。また世界各地のフランス語圏の国々の文化や社会にも視野を広げ、狭い意味での言語文化だけではなく、映画から思想まで、ファッションから移民問題まで、幅広く学んでいきます。

詳細はこちら▶
<https://www.liocha.ac.jp/ug/lc/fra/index.html>



目的 グローバルな視野を持つ人材の育成

フランス語の実践的運用能力を身につけること、フランス語で営まれているさまざまな言語文化やフランス語圏の社会事情に深い理解を持つこと、さらにはドイツ語圏文化などヨーロッパの他の言語文化や世界の仏語圏の文化にも視野を広げて異文化交流にも関心を抱くこと。そのような能力と知的好奇心を備えた人材の育成が目的です。

卒業生はグローバル化した現代社会の要請に応え得る人材として、商社・金融などの民間企業や、官庁、マスコミ界などさまざまな分野で活躍しています。

特徴 フランス語圏の言語、文化や社会を学ぶ

1・2年次には可能な限りたくさんのコア科目のフランス語に関する授業を履修して、フランス語の基本的な知識や能力を身につけます。2年次以降はコースの専門科目において、作文や会話の力を伸ばすとともに、時事フランス語やビジネスフランス語から文学や思想のテキストまで、多様なフランス語を学びます。また、文学・思想から映画・美術まで、食文化から移民問題まで、幅広く仏語圏の文化と社会に関する専門的な知識を深めていき、視野の広い柔軟な思考を養います。

4年次に必修として課されている卒業論文は4年間の勉学の総決算となるべきものです。自らの関心に応じてテーマを選び、さまざまな文献・資料をもとに思索を重ねて論文を書き上げるという経験は、将来の大きな財産になることでしょう。

THE VOICE OF A STUDENT

フランス語で拓く、グローバルな視点

本プログラムでは、フランス語を軸にフランス語圏の文化や社会を深く学びます。少人数制のため教師と学生の距離が近く、学びやすい環境が整っています。語学力を高めることはもちろん、文学や歴史、社会問題など多角的なアプローチで理解を深め、国際的な視野を広げてみませんか？

小間 美咲さん 3年
第1のプログラム：仏語圏言語文化主プログラム
第2のプログラム：比較歴史学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

「比較文化論」へようこそ

パリ出身で、専門は歴史学なのですが、フランス語教員として「比較文化論」についても研究をしています。フランス語を学ぶだけではなく、フランス人の思想やフランスの文化・社会も理解することで視野が広がりますので、皆さんに分かりやすく教えたいと思います。

ジェホム・ル・ポワ 准教授
研究分野：比較文化論、フランス語教育、歴史学

カリキュラム(主+強化プログラム)

分野	仏語圏の文化と社会	フランス文学	フランス語
基礎 (1年)	仏語圏言語文化基礎演習-1	ヨーロッパ言語文化論Ⅰ・Ⅱ-11	基礎フランス語Ⅰ~Ⅳ 基礎フランス語(応用)Ⅰ~Ⅳ 基礎フランス語会話Ⅰ・Ⅱ
発展 (2~4年)	欧州文化論Ⅰ~Ⅳ 西欧社会文化論Ⅰ~Ⅳ-4 仏語圏社会言語論Ⅰ・Ⅱ 仏語圏言語文化論Ⅰ~Ⅳ-3 フランス社会文化論Ⅰ~Ⅳ-2 ドイツ語圏文化論Ⅰ~Ⅲ	近代仏文学演習Ⅰ~Ⅲ 近代仏文学特殊講義Ⅰ~Ⅱ-5 現代仏文学演習Ⅰ・Ⅱ 現代仏文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ-6 仏文学特殊研究 独語圏文化講義演習Ⅰ~Ⅳ ドイツ語圏文学史Ⅰ~Ⅲ-7	発展フランス語Ⅰ~Ⅳ 基礎仏作文演習Ⅰ・Ⅱ 中級仏作文演習Ⅰ・Ⅱ-8 基礎仏語学演習Ⅰ・Ⅱ 中級仏語学演習Ⅰ・Ⅱ
	仏語圏言語文化研究指導-10 卒業論文		上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ~Ⅳ-9 上級仏語学演習Ⅰ・Ⅱ 仏語圏文化資料研究Ⅰ~Ⅳ

科目紹介

1 仏語圏言語文化基礎演習：フランス語圏言語文化研究の基本となる知識を身につける。フランス語圏諸地域の歴史と現状、言語文化に関わる諸問題を理解し、自らの関心に照らして論じる能力を養う。

2 フランス社会文化論Ⅱ：フランスではフランス生まれの移民の子どものテロ事件やスカーフ問題などが起こっているが、この「移民の子どもたち」はどのような存在なのか。彼らが直面している問題、とくに学校適応について社会的・教育的に理解を深めていく。

3 仏語圏言語文化論Ⅳ：カナダにおけるフランス語教育(主に第二言語としてのフランス語教育)について学ぶ。カナダで生まれたイマージョン教育や神経言語学的アプローチ(ANL)について、その背景、意義、方法、現状、課題などを確認する。

4 西欧社会文化論Ⅳ：近代的な産業システムが確立される19世紀から現代に至るまでのパリ・モードの変遷と、それを取り巻く社会的・文化的背景を理解し、今日に続く「モードの都パリ」という都市イメージがどのように作られたかを考える。

5 近代仏文学特殊講義Ⅰ：近現代フランス文学を代表する作家や詩人の作品の抜粋を講読する。文学作品の読解能力を高めながら、フランス文学史に関する知識を深めることを目標とする。

6 現代仏文学特殊講義Ⅱ：『シンデレラ』などフランス起源のおとぎ話の謎に踏み込むとともに、サン=テグジュペリの『星の王子さま』を取り上げ、おとぎ話の現代メディアにおける変奏の問題を考える。

7 ドイツ語圏文学史Ⅰ：近現代のドイツ語圏の文学について、各作品の解釈に踏み込みながら講義していく。

8 中級仏作文演習Ⅰ・Ⅱ：2年生をおもな対象として、フランス語の作文の指導を行う。毎回、文法問題、翻訳問題を解くとともに、作文を書いて文章力を向上させていく。

9 上級仏語コミュニケーション演習Ⅰ~Ⅳ：3・4年生をおもな対象として、フランス語での意見の発表や議論などの指導を行う。DELF B1の口頭試験の対策も行う。

10 仏語圏言語文化研究指導：卒業論文作成のための事前指導。各自の関心にしたがいフランス語圏言語文化に関する研究テーマを設定し、参考文献や資料を集約し、構想発表を行う。

11 ヨーロッパ言語文化論Ⅰ：中世から近代までのフランス文学の歴史を概観する。美術や音楽など他ジャンルの芸術との関係にも注目しながら、文学史の基礎的な知識を身につける。

※授業内容は年度により変更がある場合がありますのでご了承ください。

教員の研究分野

教授 小松 祐子 仏語圏文化、フランコフォニー研究、仏語教育学
教授 田中 琢三 フランス文学、比較文学

准教授 前田 佳一 ドイツ語圏文学・文化、ドイツ語教育
准教授 ジェホム・ル・ポワ 比較文化論、フランス語教育、歴史学

TOPICS | 「仏語検定試験」を受けよう フランス語圏に留学しよう



「実用フランス語技能検定試験(仏検)」は、自分のフランス語力を客観的に証明してくれる手段です。在学中にできるだけ高い級の合格を目指しましょう。なお、本コースは、そのフランス語教育への貢献が認められて、仏検を主宰する「フランス語教育振興協会」より2015年度の「文部科学大臣賞団体賞」を授与されました。仏検と並行して、フランス国民教育省が認定する国際資格 DELF・DALF の試験にも積極的に挑戦することをお勧めします。

本コースでは、フランス政府留学局が提供する夏季・春季の4週間のフランス短期語学研修プログラムへの学生派遣を行っています。さらに本学と協定を結んでいるフランス語圏の大学に留学すれば、卒業年度を遅らせることなく大学を卒業することも可能です。留学は語学力を向上させるためだけでなく、その国の人々の生活や習慣を直接の体験で知ることができることから重要です。

教育学プログラム

教育と発達を「科学」する わたしたちはどのように「育つ」のか 根源的なテーマに迫る総合的人間科学

ヒトはいかにして人間になるのか。この命題に教育学は迫ります。人間発達は、狭い学問領域にとどまらず、およそあらゆる科学の成果と方法を結合してはじめて理解することができるものです。教育学は、人類の究極の謎である私たち自身の人間形成や発達の過程に、多彩な研究方法を駆使して理論的・実践的にアプローチする総合的な人間科学です。単に知識を得て蓄えていくのみの既存の知識の受容者から、自らの視点と理論によって創造的知識の生産者へ。高等教育人材にふさわしく変身し、教育現場で社会諸領域でその能力をいかんなく発揮できるための基礎力と応用力を獲得できることを目指します。

詳細はこちら▶
<https://www.liocha.ac.jp/ug/hss/educsci/index.html>



目的 7領域で実践的知性を磨く

問題を発見する洞察力、事象を的確に観察・分析する方法論と能力、それらを実践的処方箋へと深める実践的知性の育成を目標としています。

教育学プログラムは、人間発達に関する基礎科学と、人間発達に関わる諸問題の解決を志向する実践科学の7領域で構成され、それぞれに専任教員を配しています。

基礎科学：教育思想、教育史、教育社会学、教育・発達心理学
実践科学：教育方法学、教育開発論、特別支援教育
発達に関する多様な学問領域に触れることで、卒業後には研究者の世界が、そして幅広い職業世界が広がります。卒業生の約5分の1が大学院へ進学、およそ5分の1が教職につき、5分の3が公務員、マスコミ、一般企業へと就職します。

特徴 現場で学び、個性を拓く

学科共通科目(1年次に履修)は、教育研究への招待状です。人間の発達に関する関心とセンスを磨いてください。専門講義は1年次から概論を中心に開設され、教育学の基礎を学んで各自の関心にあったアプローチを発見し、2年次から始まるゼミでそれを深めます。自主的に取り組む少人数ゼミは自分の個性を発見するチャンスでもあります。

2年次には、学校や教育施設など、教育に関する多様な場を实地に観察することによって、人間発達に対する視野を広げます。学生生活の集大成としての「卒業論文」は、自己の関心にもとづき教育学の多様な領域・多様な方法で執筆されています。

THE VOICE OF A STUDENT

教育を学ぶ、私が変わる

「私を形づくったあの教育は、本当に良いものだったのだろうか——教育学を学ぶ今、学校生活を思い起こして価値観が揺らぐ瞬間があります。そんなとき、私はまさしく「学んで」いるのだと感じます。「私」を変容させながら「教育」に向き合う、真剣な仲間との学びに夢中です。

得永 華和さん 4年
第1のプログラム：教育学主プログラム
第2のプログラム：地理環境学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

教育と人間形成の 未発の可能性の探究へ

過去の教師の実践や教育運動における未発の可能性に目を向けることで、現代の教育と人間形成を批判的に問い直し、より豊かな学びと育ちのありようへの方途を探っています。教育の現実には学び理論を不断に更新させていく—理論と実践の交差こそが、教育研究の醍醐味です。

渡邊 真之 助教
研究分野：教育史

カリキュラム(主+強化プログラム)

分野	基礎的 教育科学	実践的 教育科学	教職科目	
(1,2年次) 基礎	人間と発達 教職概論 社会学総論	人間科学論 子ども学概論		
	教育思想概論-1 教育史概論-2 教育社会学領域	教育・発達心理学概論	教育方法学概論 教育課程概論 教育開発概論-5 特別支援教育概論-7	
(2,4年次) 応用	教育人間学特殊講義 教育史特殊講義 学校社会学特殊講義 発達心理学特別講義	教育方法学特殊講義 教育課程特殊講義 比較教育特殊講義 教育制度特殊講義	障害児教育特殊講義 学校インターンシップ	総合的な学習の時間の理論と方法 道徳教育の理論と方法 特別活動の理論と方法 生徒指導と進路指導の理論と方法 学校カウンセリング
	教育思想演習 教育史演習 教育社会学演習-3	教育心理学演習-8	教育方法学演習-6 教育課程演習 教育開発演習	比較教育演習 教育制度演習-4 特別支援教育演習
				卒業論文

科目紹介

1 教育思想概論：さまざまな教育思想を通覧し、教育を多角的に検討するための基礎の獲得を目指す。本講義の目標は、代表的な教育思想のあらましを説明できることと自身の教育観を論理的に説明できることである。

2 教育史概論：江戸時代から現代までの教育の変遷を概説する。近代化と教育、学校制度の構築、新教育実践、戦争と教育、政治・経済と教育の関係、学歴主義の形成、教育の荒廃現象、などがテーマとなる。

3 教育社会学演習：教育社会学の諸理論と先行研究を学ぶ。教育現象を「社会的に」捉えることのできる知識と視角を身につけることを目指す。適宜、社会学で用いられる理論などを参照する。

4 教育制度演習：教育委員会の戦後史と現状をテーマとし、文献や資料の読み合わせを行う。教育委員会が設置する公立学校も視野に入れる。

5 教育開発概論：教育開発の理論、国際機関の役割、発展途上国の教育の現状と課題、国際協力、教育開発の今日的課題、国際理解・平和のための教育、ESD、日本の教育開発経験等について学ぶ。

6 教育方法学演習：国内外の教育方法に関する理論や実践記録の検討を通して、「学校」や「授業」を規定している諸要因を学ぶ。自身の経験によって形成された「教師像」「授業」などの柔軟な捉え直しを目指す。

7 特別支援教育概論：特別支援教育の理念や仕組みを学び、発達障害や身体障害などのさまざまな障害や、その他の特別な教育的ニーズをもつ子どもの指導や支援を行うために必要な知識や方法を身につける。

8 教育心理学演習：教育心理学に関する基礎的な文献講義を行う。文献や他の参加者との議論を通じて、教育や学習に関わる心理について知り、理解を深め、自分なりの考えを持てるようになることを目標とする。

教員の研究分野

教授 池田 全之	教育思想、人間形成論史研究
教授 浜野 隆	教育開発学、社会科教育論
教授 富士原 紀絵	教育方法学、教育課程論
教授 大多和 直樹	教育社会学
准教授 武藤 世良	教育心理学、発達心理学
准教授 齊藤 彩	特別支援教育
助教 渡邊 真之	教育史
講師 大脇 和志	社会科教育学、社会科指導法

取得できる主な教員免許・資格

小学校教諭一種免許状
幼稚園教諭一種免許状
中学校教諭一種免許状(社会)
高等学校教諭一種免許状(公民)
学芸員、社会調査士
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 教育への視野を広げる教育の現場に参加する



教育とは人間の実践的な行為であることから、教育学プログラムでは教育の現場から学ぶことを大切にしています。教育学プログラムでは大学での学修を机上にとどめず、大学で学んだことを現場で問い直したり、そこで新たな発見を得ることを目的としています。参観先は学校のみならず、教育と深く関わる展示を行っている博物館なども含まれます。教員と学生がお互いの交流を深めることも目的の一つです。参観体験をもとに皆と語り合いながらともに過ごす時間は、自身の抱えている教育観を広げる上で貴重な経験となることでしょう。

社会学プログラム

疑う、観る、分析して問題解決の糸口をつかむ 社会と人間の行動をトータルに捉えて研究する

詳細はこちら▶
<https://www.liocha.ac.jp/ug/hss/socio/index.html>



社会学は、人間の行動と意識の社会的な側面及び組織や社会の構造・機能とその変動を研究する学問です。社会学コースでは、社会のなかに埋め込まれた個人のパーソナリティ、人と人との相互関係、そこから生み出される文化、制度や社会全体の仕組みなどを対象に学んでいきます。具体的な研究領域としては、自分探し（アイデンティティ）、家族、マス・メディア、コミュニケーション、エスニシティ、環境、企業、職業、消費、非行・犯罪、余暇、階層・階級、青年文化、学校、社会福祉、地域開発、都市、法などがあります。最新の時事や社会現象などに主題を見つけ、理論を立て、実証することで、社会を見る新しい視点を養います。

目的 理論に基づき事実を解明する

理論と実証の2つの基礎を学び、社会科学の考え方や分析手法を身につけます。そのうえで、コミュニケーション、メディア、福祉、高齢者、環境、ジェンダー、家族などの領域で生じる具体的な社会現象を分析します。さらに人間の社会生活を巡る問題意識を育て、社会のさまざまな問題の背景や原因を分析し、問題の解決に向けて自主的・積極的に取り組む能力を身につけることを目指しています。

卒業生はその専門知識をもとに、マスコミ関係、官公庁、非営利団体、国内・海外の調査機関、一般企業の人事・広報、コンピュータ関連企業などで活躍しています。大学院へ進学し、より専門的な知識を身につける人も多く、多くの大学で教壇に立ち、研究者として精力的に研究活動を行っています。

特徴 方法論と演習、隣接諸科学の重視

社会学の概論的講義の「社会学総論」、社会調査の全過程を修得する「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」を必修として、教育社会学や地理学、生活科学など隣接分野の授業科目も含んだ幅広いメニューで社会学と文化人類学の基礎を修得します。学外からの非常勤講師も迎え、多様な研究領域に触れられる多彩な授業科目が用意されています。

研究方法も、文献中心の理論研究、地域社会でのフィールドワーク、コンピュータを駆使した計量研究などさまざまです。企業や自治体、コミュニティなどで社会の現実を的確に解明する手法として“質的”または“量的”な社会調査法を重要なものと位置づけています。

講義で吸収した知識をもとに、演習での活発な討論に力を入れており、その集大成として卒業論文の作成を重視しています。

THE VOICE OF A STUDENT

自らの問いで社会を説明する

「社会」を「説明する」とは何でしょう。ご自身と異なる経験や意見を持つ人に出会った場面を想像してみてください。その違いが生じた要因は？それを丁寧に分析すると、社会の一面を垣間見ることができのかもしれない。あなた自身の問いで、「社会」を説明してみませんか。

仁科 梨佐さん 4年
第1のプログラム：社会学主プログラム
第2のプログラム：哲学・倫理学・美術史副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

社会の探究の途上での自己との邂逅

「私」、その核である価値観や規範意識、信念や嗜好は、躰や教育など「社会化」の中で形成され（社会の内化）、そうした「私」たちが社会を創造していきます（社会の外化）。そして社会学においては、調査研究の「方法論」それ自体が、単なる技術を超えて人間と社会の探究そのものにもなります。

杉野 勇 教授
研究分野：社会調査法、法社会学、社会学方法論

カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	人間社会科学	社会学	隣接分野	
基礎 (1~2年)	人間科学論 人間と発達 社会学総論①-1 子ども学総論	ジェンダー社会学-5 現代社会学 現代生活論 社会政策論Ⅰ-3	社会調査の設計と実施 質的研究法-6 調査データの基礎集計-8 社会統計学基礎	フィールドワーク方法論 応用生活統計学 人間と空間 都市地理学
	教育社会学概論 教育社会学特殊講義 学校社会学特殊講義 子ども社会学概論	社会調査法Ⅰ・Ⅱ④-4 社会意識論-2 比較社会学 社会政策論Ⅱ-3	文化人類学概論 文化人類学特殊講義 民族誌学特殊講義	社会福祉学 老年学 地域社会学 児童福祉論
発展 (3~4年)	教育社会学演習 学校社会学演習 子ども社会学演習	ジェンダー論演習Ⅰ・Ⅱ 社会意識論演習Ⅰ・Ⅱ 社会政策論演習Ⅰ・Ⅱ 社会保障論演習Ⅰ・Ⅱ	現代生活論演習Ⅰ・Ⅱ 現代社会学演習Ⅰ・Ⅱ 文化人類学演習Ⅰ・Ⅱ-7 社会学方法論演習Ⅰ・Ⅱ	家族社会学
		社会学研究指導Ⅰ◎ 社会学研究指導Ⅱ◎ 卒業論文◎		

※ ◎は必修科目

科目紹介

1 社会学総論：社会学の基本的知識と、それを基盤とした現代的な諸問題、諸現象へのアプローチがテーマ。社会学を学ぶ準備段階として、社会学における古典的・典型的な知見を得る。

2 社会意識論：人々の間で共有される規範や意識を、社会・文化・歴史的側面から具体的に検討し、それを通じてアクチュアルな社会現象についての理解を深める。

3 社会政策論：社会政策（社会保障、社会福祉、住宅政策、教育政策等）の仕組みと現代的課題、さらには、その背景にある社会の在りようを理解し、当事者として考察できるようになることを目指す。

4 社会調査法：大規模標本調査を念頭に置き、目的の設定・明確化／調査の企画・設計／調査票の作成／調査の実施／調査結果の集計・分析／レポート作成まで、一連の過程を実習する。

5 ジェンダー社会学：「ジェンダーの視点」というものの見方を理解し、人間や社会の諸現象を自分の人生と関連させて考察できることを目指す。ジェンダーの社会学入門。

6 質的研究法：質的研究の特徴、質的なデータの収集・分析の方法、質的研究を行う際の倫理など、質的研究を実施するために必要な知識・技術の修得を目指す。

7 文化人類学演習：この演習では、文化人類学の古典理論に加え、フェミニスト／クィア理論による現代的かつ批判的な視点から文化や社会現象を捉える力を、日英二言語での議論を通じて養う。

8 調査データの基礎集計：総務省統計局などに集積されている膨大な公的統計データや内閣府の世論調査、学術調査のデータなどの基本的な処理やデータの可視化といった初級統計を理解する。

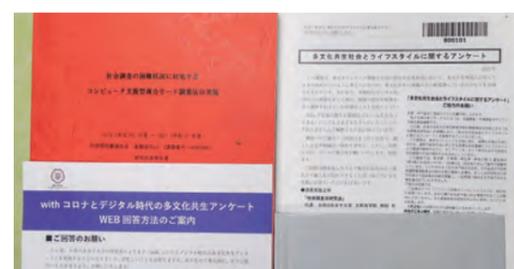
教員の研究分野

教授 杉野 勇 社会調査法、法社会学、社会学方法論
准教授 宝月 理恵 歴史社会学、医療社会学、近代家族論
准教授 三宅 雄大 社会政策、社会保障、社会福祉学
助教 Iris Issen 文化人類学、ジェンダー、移民、クィア

取得できる主な教員免許・資格

社会調査士、学芸員
中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（公民）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 高度情報化したメディア社会の必須リテラシー、「社会調査士」



社会調査の知識と技術を用いて、世論や社会意識、生活実態などを的確に捉える専門家が社会調査士です。（一社）社会調査協会が認定する資格で、認定科目の履修と学部卒業が必要です。企業のマーケティングや自治体の住民調査など、現代社会のさまざまな部門で科学的な調査を企画・実施して適切なエビデンスを形成し、それに基づいて社会設計を行うことが重要になっています。のみならず、我々がメディアなどから受け取る無数の“情報”に含まれる“調査結果”の妥当性を正しく識別するためにも、社会調査方法論の知識は不可欠です。

子ども学プログラム

「子ども」という人間存在の原点から、理論・実践・対話を通して、人間・社会・文化の生成過程を根本から探究する

詳細はこちら▶
<https://www.liocha.ac.jp/ug/hss/child/index.html>



「子ども」という視点から考えるとき、私たちは社会の中で当たり前とされている「大人」基準を超えて、人間・社会・文化のあり方を、新たな眼で見通すことができます。こうした「子ども学」の知を生かすことで、教育の場、企業や官公庁、学術研究の世界、そして地域に、今までになかった新しい貢献が可能になります。子ども学プログラムでは、「子ども」という人間存在について、保育学・心理学・社会学・歴史学など、学際的な理論的探究を深めるとともに、保育・教育の場でのフィールドワーク等を通して、実際の子どもの姿に触れることで、リアルな学びを目指します。

目的 「子ども」という視点を通して、人間・社会・文化を根本から探究する

子どもは人間の原点であり、その世界は深く広大なものです。また子どもは未来の作り手であり、その学びと成長を支えることは、持続可能な社会を築く上で不可欠です。時代の最先端を生きる子どもたちは、現代社会の複雑な課題に直面しています。こうした社会的課題に取り組むための知識や研究が求められている今こそ、「子ども」という視点をもつことによって、その課題を新たな形で捉え直し、打開していくことが可能になります。

子ども学プログラムでは多角的なアプローチを通して、人間・社会・文化の生成過程と構造を探究することを目的としています。学際的な研究とともに、保育・教育の場などにおいて、実際の子どもの姿に触れて知ることが、こうした探究を人間的でリアルなものにしていきます。

特徴 理論・実践・対話による多様な学び

子ども学プログラムでは、「子ども」や保育・幼児教育に関する理論を、多様な専門領域の観点から多角的に学びます。子どもとその成長を根本から考える保育・教育思想、その実践にかかわる保育学、子どもの発達やその内面を理解する心理学、マクロな視点から子どもが生きる世界を俯瞰する社会学、そして子どもや保育・教育を支えている制度、時空を超えてこれらの変遷をたどる歴史学など、学びは多彩です。また、同じキャンパス内にあるナーサリー・こども園・幼稚園など、0歳からの子どもたちが生活する場に臨み、フィールドワークやインターンシップを通して実践的に学びます。

これらの学修で大切にしたいのは「対話」です。学生/教員/子ども/保育者/自己など、それぞれの間でなされる対話の積み重ねが、学びの深化をもたらします。2年次後期からの演習でも、学問的対話を大切にしながら自身の問題関心を深め、4年間の集大成としての卒業論文につなげていきます。

THE VOICE OF A STUDENT

子どもを学ぶ、子どもと学ぶ

子ども時代のことをどれだけ覚えているでしょうか。子どもと共に過ごし、自分の中の「子ども」を呼び起こすことで、多様な発見や感動が得られ、自分の世界が広がります。ぜひ私たちと一緒に、実践や少人数での深い対話を通して、子どもの世界を探索し続けましょう！

大泉 春香さん 4年
 第1のプログラム：子ども学主プログラム
 第2のプログラム：子ども学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

多角的なアプローチで子どもを知る

子どもが生活している社会や環境を支える制度には、子どもの声も反映させていきたい。そうした政策がめざされてもいます。でも、子どもの声は、聴こうとしたからといって聴けるとは限らないかもしれません。

さて、どうするか。大学で、子ども学で、一緒に考えていきませんか。

松島のり子 講師
 研究分野：幼児教育学、保育制度

カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	主プログラム				強化プログラム			
	学科共通科目	概論科目	演習系科目	幼稚園教職課程の科目	実習系科目	特殊講義系科目	隣接領域科目	
基礎	1年次	子ども学総論 ¹ 人間と発達 社会学総論 人間科学論 教職概論	幼児教育方法学概論 ³ 幼児教育課程概論 ⁴ 子ども社会学概論 ⁴ 幼児教育制度概論 ⁵	保育内容総論(子どもと遊び) ⁶	保育5領域に関する専門科目 幼児理解と教育相談		子ども生活論 人間関係論 子ども文化論 子ども学特殊講義 幼児教育学原論	社会学の基礎科目 教育学の基礎科目 児童福祉論 発達臨床心理学 臨床心理学概論
	2年次						学校インターンシップ	
発展	3年次		幼児教育学演習 保育学演習 子ども社会学演習 家庭教育論演習 幼児教育制度演習 子ども発達環境論演習 乳幼児心理学演習 子ども学調査法演習	保育内容指導法(健康・人間関係・環境・言葉・表現)	子ども学フィールドワーク ²			
	4年次		子ども学研究指導 卒業論文	事前指導 教育実習 事後指導 教職実践演習	子ども学インターンシップ		教育学の演習科目	

科目紹介

1 子ども学総論：子ども学を学ぶ上で基本的に必要な思想・文化・制度について、多角的に学ぶ。さらに、現代における子どもの教育・支援に関わる多様なアクターについての理解を深め、現在生じている子どもに関する諸問題に対して実践的に活動するために求められる視点・課題について考察する。

2 子ども学フィールドワーク：大学内にある附属幼稚園、お茶大こども園、いずみナーサリーなどの乳幼児の施設を訪問し、実際の子どもの姿に触れたり関わったりして、子どもに関する理論・知識や、子どもに対して抱いているイメージを捉えなおす機会とする。現場で子どもと関わる保育者などの専門家とも話し合い、保育・教育について考える。

3 幼児教育課程概論：乳幼児期は人生の基礎を築く時期であり、幼児教育はこの時期にふさわしい遊びと生活を、子どもたちとともに作り上げていく営みである。それを支えるのは、子どもたちの自由を受け止めて人間的に応答する相互的な関係性と、保育環境である。この過程をどのように生み出し、理解し、深めていくか、国内外の研究と具体的な保育事例・映像を通して学ぶ。

4 子ども社会学概論：子どもたちはどのような世界で生きているのか。あるいは、社会は、子どもたちをどのように見ているのか。家族、コミュニティ、国家、あるいは、メディア、コミュニケーション、ジェンダー等の概念に焦点を当てながら、時空を超える比較分析を行うことを通して、グローバル化する社会の中の子ども問題について検討する。

5 幼児教育制度概論：子どもや保育・幼児教育に関わる制度の基礎を学ぶ。講義では、幼稚園や保育所、認定こども園に関して、制度の歴史の変遷、「幼保一元化」や制度改革の動向などを取りあげ、子どもや保育・幼児教育の実践と制度との関わり、保育・幼児教育制度の課題について考察していく。

6 保育内容総論(子どもと遊び)：人は遊ぶ存在であり、遊びを通して自分になっていく。遊びは生涯にわたって楽しめるものであるが、特に乳幼児の教育においては「遊びの中の学び」が重要であると言われていて、本授業では、理論や実践についての講義、遊ぶ体験などを通して、「遊び」のもつ意味や可能性、「遊びの中の学び」について理解を深めていく。

教員の研究分野

教授 小玉 亮子 教育史、子ども社会学
 ※ 2025年度末で定年退職。
 准教授 辻谷 真知子 保育学、発達心理学、教育心理学
 教授 西 隆太郎 保育学、臨床心理学
 講師 橋本 有子 ダンス教育、ソマティクス
 講師 松島のり子 幼児教育学、保育制度

取得できる主な教員免許・資格

幼稚園教諭一種免許状、学芸員、社会調査士
 ※小学校・中学校・高等学校教諭一種免許状は人間社会科学科各プログラム等で開講される所定の教職科目の履修により取得可能です。
 ※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 子どもと出会い、子どもに学び、子どもから考える 広がり深まる子ども学の世界



本学のキャンパスには、附属幼稚園、いずみナーサリー、こども園という3つの保育・教育の場があります。子ども学プログラムの専門科目として開講している「子ども学フィールドワーク」では、こうした保育・教育の場を訪ね、子どもの姿や保育の実態を直に学ぶことに重きを置いています。子どもたちの姿に接し、観たことを書き留め、振り返るなかで、子ども観や保育・教育観に気づき、見つけ直す機会にもなります。また「子ども学インターンシップ」では、学内外の保育・教育施設のご協力を得て、定期的に通って実際に子どもたちと関わったり、環境を整えたりし、より実践的に子どもについて学ぶ体験を重ねていきます。これらに加えて教職課程履修者は、教育実習で保育・教育の実践を深く学ぶことができます。

子どもたちと時間をともにしながら、学生自身も育まれています。

舞踊教育学専修プログラム

「芸術の母」と称される身体表現—舞踊—
人間の根源的な表現行動を実技と理論で探求する

詳細はこちら▶
<https://www.liocha.ac.jp/ug/geijutsu/buyou/index.html>



「舞踊は芸術の母である」と称したのは、音楽・舞踊学者のクルト・ザックスでした。舞踊教育学コースでは、舞踊を中心にスポーツや日常動作にわたる人間の身体活動や表現について、実践を通しながら多角的、総合的にその意義と特性を追究していきます。4年制国立大学のなかで「舞踊」という名称がついた専門コースがあるのは本学だけ。また歴史が浅い分野だけに、あなた自身が新しいパフォーマンスや学問領域を開拓することも可能です。これまでに巣立った先輩たちも、芸術・教育などのさまざまな分野のパイオニアとして活躍しています。

目的 表現行動を多角的に学ぶ

本プログラムはプロのダンサーやスポーツ選手の養成所ではありません。舞踊やスポーツについての歴史と地理的広がり、その構造や思想・美意識、社会的意義と今後の展望、さらに人間の身体のしくみや運動の生理、日常動作を含めた身体運動の動作特性といった内容を学び、研究していくことを目的としています。

また、本プログラムでは中学・高校の保健体育教員免許が取得できます。「陸上競技」、「器械体操」、「球技」、「体づくり運動・武道」といった、中学・高校の保健体育教員免許を念頭においた科目が開設されています。卒業後の進路としては、教職のほか、一般企業（近年はマスコミ、運輸旅行業などが多い）への就職、大学院への進学などが挙げられます。芸術・学術専門職や、舞踊家として公演・教育活動に携わる人も増えてきました。

特徴 実技と理論からのアプローチ

本プログラムの研究分野は、人文・社会・自然科学と多岐にわたっており、多様な講義、演習、実技科目が開設されています。それらの研究分野を縦横に行き来しながら、舞踊を身体、運動、表現、コミュニケーションなどの観点から追究しています。

講義としては、人間と舞踊の関わりを探究する「臨床舞踊論」、理論と実践の両面から研究する「舞踊芸術学」、文化の視点から舞踊を研究する「民族舞踊論」のほか、「スポーツ人間学」「体育原理」「動作学」といった内容の授業を開設しています。実技としては、「モダンダンス・テクニック」「民族舞踊実習」「舞踊上演法実習」「舞踊表現法実習」「舞踊創作法実習」「舞踊教育法実習」に加え、「バレエ実習」「日本舞踊実習」など多様なジャンルの舞踊の実技授業を開設しています。

THE VOICE OF A STUDENT

想像を超えて充実した学生生活

ダンスの背景にある理論や歴史を学び、それが今までダンスを通して得てきた経験則や実感とつながる瞬間がとても楽しいです。出身ジャンルや作品に向き合う方法が違う14人の同期と創作に明け暮れる、他にはない日々のおかげで人間力が高まり、信頼できる仲間ができました。

會田 もえさん 3年
第1のプログラム：舞踊教育学専修プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

お茶大で出会った「知りたい！身体の不思議！」

「知りたい！身体の不思議！」は附属中学校の生徒さん達が研究室訪問から考えた私の研究のキャッチフレーズです。ダンスは多彩な魅力をもつ運動で、芸術で、人生の一部です。私の人生がお茶大生活で益々面白くなったように一緒にダンスをワクワク学んで想定外の楽しい人生を歩んでみませんか。

水村 真由美 教授
研究分野：身体運動科学（特に運動生理学及びバイオメカニクス）

カリキュラム（専修プログラム）

分野	必修		選択		
	講義	演習・実習	講義	演習・実習	
1年次		モダンダンス・テクニック（初級） 舞踊創作論実習（即興創作） 民族舞踊実習（基礎）	舞踊学概論 表現行動論Ⅰ		
2年次	舞踊・運動科学研究法入門 舞踊芸術学Ⅰ 民族舞踊学（1）（2）Ⅱ 臨床舞踊論Ⅲ 体育原理Ⅴ 動作学（1）（2）	舞踊創作法実習（舞踊構成法）	表現行動論Ⅱ 解剖学 生理学（運動生理学を含む）		
3年次		舞踊・運動科学研究法演習 舞踊教育法実習（中等教育）		舞踊芸術学実験演習（1）（2） 民族舞踊学実験演習（1）（2） 臨床舞踊論実験演習（1）（2） スポーツ文化論演習（1）（2） 動作学実験演習（1）（2）Ⅳ 舞踊創作法実習（舞踊上演・制作）	
4年次		卒業論文			
1～4年次	舞踊教育法実習（初等教育） モダンダンス・テクニック（中級Ⅰ・中級Ⅱ・上級） 民族舞踊実習（発展）	舞踊上演法実習（初級・中級・上級） 舞踊表現技法実習 舞踊学特殊講義	運動科学特殊講義 舞踊音楽構成法 球技 体づくり運動・武道	体育心理学 病理学 学校保健 器械体操 陸上競技 水泳実習 バレエ実習 日本舞踊実習	運動学（運動方法学を含む） 衛生学及び公衆衛生学 学校安全と救急看護

科目紹介

1 舞踊芸術学：舞踊を歴史的に概観し、その身体文化の考究を通して有機的統一としての形式である舞踊への理解を深める。上演芸術としての舞踊作品の表現的特性や思想も考察する。

2 民族舞踊学（1）（2）：日本と東南アジア地域の舞踊を取り上げ、その文化と社会的な背景への認識を文献講読によって高める。また、映像資料を通して舞踊鑑賞や舞踊動作分析の方法論を学ぶ。

3 臨床舞踊論：臨床の現場（学校・病院・地域・スタジオなど）での活動観察や文献、映像資料によって、それぞれの臨床場面における舞踊活動の意義を具体的に捉え、考察する。

4 動作学実験演習（1）（2）：動作解析や運動中の各種生理応答を調査・解析する実験演習と、動作学に関する研究論文（英文）抄読の2つを中心に進める。

5 体育原理：体育学の専門用語の理解を通して、体育・スポーツの教育的意義、運動文化財としてのスポーツや舞踊の機能・役割について論議できるよう自身の観点を形成する。

教員の研究分野

教授 新名 謙二 スポーツマネジメント（特にスポーツ施設の立地とスポーツ消費者行動）
教授 水村 真由美 身体運動科学（特に運動生理学及びバイオメカニクス）
准教授 中村 美奈子 民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー
准教授 岡 千春 舞踊教育学、臨床舞踊学
助教 福本 まあや 舞踊学、舞踊教育学、身体性哲学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（保健体育）
高等学校教諭一種免許状（保健体育）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 劇場での舞踊上演とダンスフェスティバルへの挑戦



舞踊教育学コースでは、モダンダンス、クラシックバレエ、日本舞踊などのさまざまなジャンルの実技授業、そして即興創作や舞踊構成法、舞踊上演・制作などの舞踊創作法実習等を展開しています。毎年4月には舞踊実技の成果発表、特に4年生にとっては卒業公演となる都内劇場での「創作舞踊公演」を開催しています。また、夏に開催される「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」においては、学生有志が毎年参加し、これまでに数々の賞に輝いています。

音楽表現専修プログラム

その旋律の背後にはいつも人間の営みがあった 音楽から世界を知り、音楽で世界を考える

音楽の学修は、単に演奏技術や理論的知識の修得にとどまるものではありません。音楽を深く理解するには、音楽の背後にある豊かな人間の営みを捉えることが不可欠です。音楽表現専修プログラムは、日本の総合大学の中でも、音楽を専門的に学ぶことができる数少ないプログラムです。「演奏学」と「音楽学」という深い関わりを持った二つの視点から学びます。人文・社会・自然科学のさまざまな研究との関連の中での音楽の学問的研究と演奏の実践的修得を重視し、現代に生きる私たちの音楽を、最先端の視点で捉えることを目指しています。

詳細はこちら▶
<https://www.liocha.ac.jp/ug/geijutsu/ongaku/index.html>



目的 学問と実践の高度な融合

音楽における演奏実践と学術的な探究は本来表裏一体となるべきはずなのですが、極度に専門分化された現在の音楽教育ではとかくどちらかに偏りがちになってしまっているのが実状です。

本専修プログラムはこうした現状認識の下、音楽学部とも教員養成課程とも異なった独自のカリキュラムで、「音楽学」「演奏学」両方の視野で高度な基礎知識や能力を身につけたうえで専攻を選択、卒業するシステム構築になっています。また、総合大学のなかの一部門であることから、美術・文学など他分野の芸術や、教育・社会学などについてもより深い知識を得ることが可能です。

卒業後は民間企業への就職や公務員・教員のほか、海外への留学や大学院への進学も多く、専門的研究の関心が高いのが特色となっています。

特徴 深い専門性と高い現場即応力を

1・2年次で基礎的な知識や演奏技術を修得、3年次以降は各自の専門に沿った少人数のゼミと個人指導が中心となります。

音楽学では、中世から現代までの西洋音楽とともに、日本の伝統的な音楽、アジアや世界のいろいろな地域の音楽について、その背景にある文化との関連のなかで、理論や歴史、美学などを考えます。音楽学の授業はほとんどが英語のテキストを用いるので、十分な英語力が必要となります。

演奏学を専攻する場合には、ピアノか声楽を選択します。いずれも各レパートリーのエキスパートである教員の授業があり、プロ奏者を共演者に招聘しての楽器二重奏や、コレパティートゥアによるレッスンを重視したオペラ関連科目など、現場に即した形で能力が身につくよう工夫されています。

THE VOICE OF A STUDENT

自分なりの音楽との向き合い方を見つける

少人数なことで同期や先輩後輩と距離が近く、互いに刺激を受けながら高め合っており、とても魅力的な環境で学んでいます。先生方は一人ひとりに深く向き合い、親身に支えてくださいます。「人間にとって音楽とは何か」。壮大な問いと向き合う過程で、人として大きく成長できるはずですよ。

西岡 君恵さん 4年
第1のプログラム：音楽表現専修プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

音楽を通して世界の多様性に触れる

近代以降のフランスと日本の事例を中心に、クラシック音楽の職業演奏家を取り巻く制度や文化、思想の成り立ちを歴史的な見地から研究しています。古今東西のさまざまな音楽の実践・研究を通して、人間の創造や文化的実践の多様なあり方を一緒に深掘りしてみませんか。

神保 夏子 助教
研究分野：音楽学

カリキュラム（専修プログラム）

分野	基本的な科目	ピアノ ⁴	声楽 ⁵	音楽学
1年次	ソルフェージュ 合唱演習 音楽形式論 合奏演習 作曲原論 西洋音楽史Ⅰ ¹ 日本音楽史概論 ²	ピアノ基礎 ピアノⅠ	声楽基礎	音楽学概論
2年次	西洋音楽史Ⅱ 民族音楽学 ⁷ 現代音楽Ⅰ	ピアノⅡ ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習 ピアノ合奏研究	声楽発展A 歌曲研究 合唱演習	音楽学研究法
3年次	指揮法 日本音楽演奏法 現代音楽Ⅱ ⁸	ピアノⅢ ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習 室内楽研究	声楽発展B 歌曲研究 オペラ研究 ⁶ 演奏身体論	音楽学研究演習 ³ 音楽学各論
4年次	卒業研究 卒業論文演習 卒業演奏研究(ピアノ) 卒業演奏研究(声楽)	ピアノⅣ ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習	声楽発展C 歌曲研究	音楽学各論

科目紹介

1 西洋音楽史Ⅰ：単旋律聖歌からルネサンスのポリフォニーまでを中心に西洋における音楽の変化を辿ることにより、従来の19世紀の音楽を基準とした音楽観を相対化する。

2 日本音楽史概論：日本の主要な伝統音楽を成立順に取り上げ、その歴史と音楽の特徴を学ぶ。並行して、楽器、音高理論、楽譜も考察する。講義を通じ、現行の伝統音楽の外観を把握する。

3 音楽学研究演習：音楽学の近年の研究成果を踏まえ、さまざまな音楽の概念や接近の仕方を考える。卒業論文のテーマ設定のための基礎づくりを目指す。

4 ピアノ：基礎奏法の研究を主体としたピアノ音楽の研究に始まり、音楽的、技術的向上を目指し、最後は古典から現代に至るピアノ作品を数多く研究する個人レッスン。

5 声楽：声楽基礎、呼吸法、歌唱法の講義及び演習に始まり、高度なテクニックと表現力を養い、最終的にはホールにおけるより表現豊かな演奏の研究を目指す。

6 オペラ研究：オペラ作品のスコアと台本を音楽的・演劇的・語学的・文学的・心理学的に研究・分析・考察し、歌唱・演技表現法を自ら視覚的に創造する方法論を身につける。

7 民族音楽学：世界の諸民族の音楽について、単なる知識の羅列ではなく、それぞれの音楽に関するさまざまな考え方、捉え方を理解し、文化的な基盤も合わせて、日本語と英語の文献を使用しつつ考察する。

8 現代音楽Ⅱ：ポピュラー音楽を含む20世紀以降の西洋音楽史の大きな流れを各時代の社会的背景とともに概観し、現代の音楽文化の基盤がどのように形作られてきたのかを考察する。

教員の研究分野

教授 小坂 圭太 ピアノ演奏学
教授 井上 登喜子 音楽学
助教 神保 夏子 音楽学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状(音楽)
高等学校教諭一種免許状(音楽)
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | キャンパスを彩る美しい旋律 学生たちによる演奏活動



音楽表現コースは、本学内でも忙しい学科の一つとされていますが、学生の多くは時間を上手に使って演奏会を企画したり、コンクールに積極的に参加したりするなど、専門分野を活かして充実した学生生活を送っています。また、学内の附属図書館ラウンジでは、七夕やクリスマス、ホームカミングデイなどさまざまな場面でコンサートが開かれます。オペラ公演はコースの恒例行事です。大学内外での自主的な演奏活動なども盛んです。

グローバル文化学プログラム

Comprehension (理解)、Communication (交流)、Collaboration (協働)、知と実践が世界を結ぶ

詳細はこちら▶
<https://www.liocha.ac.jp/ug/global/index.html>



私たちの日常生活は国境を越えた物・情報・人であふれています。グローバル化時代を生きるために、私たちはどのような知識や感性や態度を養えばよいのでしょうか。グローバル文化学環は、従来の専門コースとは異なり、3つの学科(人文科学・言語文化学・人間社会科学科※)のいずれからも主プログラムとして志望できるコースで、多様な専門領域にまたがる教員が所属しています。目指すのは、文化の差異を理解し、大切にしながら、その差異を超えて協働して何かをともに作り出す、グローバル社会の新しい市民です。グローバル文化学はその先達となる人材の輩出を目指す、新たな知と実践の学問です。

目的 3つのCがキーワード

グローバル文化学では3つのCで表現される学際的なカリキュラムが組み立てられています。

「地域研究・地域文化」領域: グローバル化で変容する地域の社会や文化を「理解」(Comprehension)する方法を学びます。

「多文化交流・多文化共生」領域: 多様な文化を持つ人々と「コミュニケーション」(Communication)するための理論と方法に心理的・言語的な側面からアプローチします。

「国際関係・国際協力」領域: お互いの文化や価値の違いを十分に理解し、国家や文化を越えて「協働」(Collaboration)するための課題と方法を学びます。

卒業後の進路は、国際機関やNGO、企業、マスコミ、公務員、教員など多彩です。大学院へ進学し専門的技量を磨く人もいます。

特徴 多様な価値観を育てる

「地域研究・地域文化」「多文化交流・多文化共生」「国際関係・国際協力」の3つの領域の専門科目のほか、グローバル・ヒストリー、グローバル化と経済、多文化間交流論などの基礎科目も揃っています。英語での講義もあれば、ディベートやアクティブラーニングを積極的に取り入れたインタラクティブな演習、実際に国内や海外の現場に出かけて行って人々や地域のあり方を学ぶ体験型の実習なども含まれています。

そのうえで4年次では、フィールドワークや実習の経験を踏まえ、各自の個性を發揮しながら学修の成果を卒業研究に結実させます。教員・学生仲間とのコミュニケーションを通じて、国際交流・国際協力や社会のさまざまな場で活躍するために必要な知識や態度を学びます。

カリキュラム (主プログラム)

分野		地域研究・地域文化	多文化交流・多文化共生	国際関係・国際協力	実習	
基礎	1~2年次	グローバル文化学総論 ¹ グローバル文化学方法論 フィールドワーク方法論	グローバル・ヒストリー グローバル化と社会 比較ジェンダー論 地域研究方法論 文化理論研究 イスラム社会文化論Ⅰ ² アジア社会とジェンダーⅠ ³ 文化変動論Ⅰ 中国社会文化論 アフリカ社会文化論 東南アジア社会文化論 オセアニア社会文化論 対日交流論 地域研究特論	言語と社会 言語と文化 多文化間交流論 多文化共生論 ⁴ 文化と人間関係Ⅰ グローバル化と言語教育Ⅰ 表現行動論Ⅰ・Ⅱ 国際交流論Ⅰ・Ⅱ 多文化交流特論	国際関係論 政治学総論Ⅰ・Ⅱ 国際協力学 ⁵ グローバル化と経済 ⁶ 平和構築論Ⅰ 国際協力方法論Ⅰ グローバル化と労働Ⅰ 地域開発論 国際機構論 国際教育協力論 NGO/NPO論 国際金融論 国際開発論Ⅰ・Ⅱ 国際協力特論	地域研究実習Ⅰ~Ⅱ 多文化交流実習Ⅰ~Ⅳ 国際協力実習Ⅰ~Ⅲ グローバル文化学実習Ⅰ・Ⅱ
	3~4年次	グローバル文化学特論 卒業研究	イスラム社会文化論Ⅱ ² アジア社会とジェンダーⅡ ³ 文化変動論Ⅱ	文化と人間関係Ⅱ グローバル化と言語教育Ⅱ	平和構築論Ⅱ 国際協力方法論Ⅱ グローバル化と労働Ⅱ	

※グローバル文化学プログラムは、文教育学部の人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科から主プログラムとして選択できます。(人間社会科学科の場合、入試願時に「人間社会科学科」を選択した学生のみが対象です。詳しくは本学Webサイトに掲載している「人間社会科学科出願時の注意事項」を確認してください。)
 ※グローバル文化学を主プログラムとして履修する場合は、第2のプログラムとして、所属する学科のいずれかの副プログラムを履修します。
 ※他の主プログラムを履修する場合は、第2のプログラムとしてグローバル文化学学際プログラムを選択・履修することもできます。
 ※複数プログラム選択履修制度についてはP014、015を参照ください。
 ※詳細はグローバル文化学環のWebサイトをご覧ください。

科目紹介

- 1 グローバル文化学総論:** 国境と文化を越えた相互理解の必要性と、その知的解決法と態度について、歴史学、政治経済学、国際社会学、日本語教育など多様な切り口から考察する。
- 2 イスラム社会文化論:** 宗教としてのイスラムを構成する多面的な要素を学術的な視点から理解したうえで、中東・西アジア地域の社会と文化の過去と現在の実態を、比較と連関の視点から考える。
- 3 アジア社会とジェンダー:** 中国文化圏を中心に、近現代東アジア社会におけるジェンダー関係の変化を、植民地化と戦争、労働、セクシュアリティといったトピックに関連づけながら考察する。
- 4 多文化共生論:** 多文化社会において異文化間交流の現実を分析し、多様性の尊重と共生とは何かを探る。当事者の視点を取り入れその現状と課題を多角的に検討していく。
- 5 国際協力学:** 国際機関・国家・NGO等の多様なアクターの役割に注目しながら、国際協力の仕組みや開発理論・政策について学ぶ。市民による国際協力のあり方、関わり方も模索していく。
- 6 グローバル化と経済:** This class explores the phenomenon of economic globalization, focusing on both the global economy's historical development and the challenges it faces today.

教員の研究分野

教授 小林 誠	国際関係論、平和研究	准教授 大橋 史恵	ジェンダー研究、中国地域研究、国際社会学
※2025年度末で定年退職。2026年度新任教員が着任予定。		准教授 キャロル・マイルズ	国際政治経済学、現代日本研究
准教授 阿部 尚史	中東研究、イラン史、家族史、文化史	准教授(兼任) 倉光 ミナ子	オセアニア地域研究、人文地理学
准教授 荒木 美奈子	開発研究、アフリカ地域研究	講師 王 一瓊	多文化共生論、社会言語学

TOPICS | 文化を越えた協働を実地で学ぶ「実習」



グローバル文化学プログラム(通称「グロ文」)の特色はなんと言っても「実習」にあります。アジアの都市や農村を訪れ、国際協力の現場を肌で感じる「国際協力実習」、多文化共生の現場の訪問や海外の学生との交流を通して、相互理解を深めていく「多文化交流実習」、日本国内を日帰りまたは数日宿泊して訪ねて、その地域が直面するグローバル化の現状や課題を学ぶ「地域研究実習」など、多彩なメニューがあり、心を揺さぶられる体験が待っています。



THE VOICE OF A STUDENT

学びを作り、世界と向き合う

世界の様々な事象を扱う中で、それらを自分ごととして捉える姿勢が身に付きます。また、他プログラムや課外活動も含め、一つ一つの経験が大切な気付きの材料としてグロ文での学びにつながっていきます。志の高い仲間と議論しつつ、自ら学びを作っていく時間は大変面白いです。

長尾 璃子さん 4年
 第1のプログラム: グローバル文化学環主プログラム
 第2のプログラム: 社会学副プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

世界の黄昏を前に考える

世界に戦火は絶えないし、不平等は拡大傾向だ。SDGsでも環境破壊は止まらない。各国で民主主義は荒廃し、排除の言説が行きかう。「啓蒙の時代」はとっくに終わった。世界の滅びは免れない。だがきれいに滅ぶことが大切だ。思い切り頭を柔軟にして地球的問題群に取り組もう。

小林 誠 教授
 研究分野: 国際関係論、平和研究



理

数学科
物理学科
化学科
生物学科
情報科学科

自然の原理を解き明かしていく理学の世界
幅広い理学の教育と研究で、科学の明日を創る

Faculty of Science

学

部

[アドミッション・ポリシー]

理学部は、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。女子大学の数少ない理学部として、知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

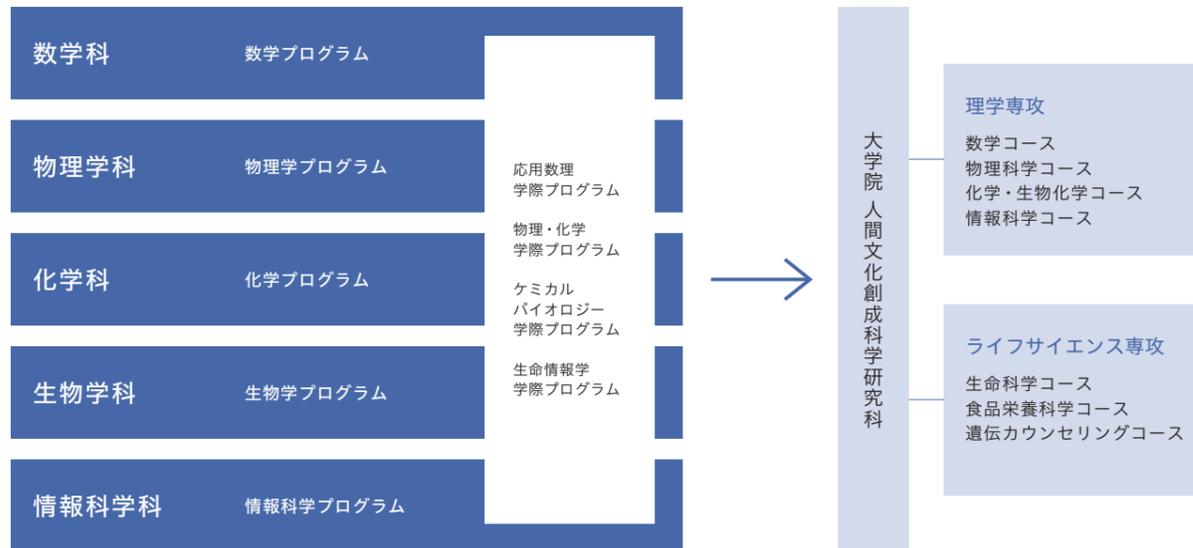
本学部志望者には、高校において、理系科目（数学、理科〔物理、化学、生物〕）を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、及び、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目（英語、国語、社会）も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。「総合型選抜」「帰国生徒・外国学校出身者特別選抜」においては、志望学科に関係する各種コンテストなどで活躍した実績も評価します。

理学とは自然界の構造や現象の不思議や謎を探求する学問です。近年の先端科学であるゲノム解析、環境保全、金融工学などでは、さまざまな分野の協力による問題解決が必須となっています。その基礎をなすのが理学の幅広い知識です。理学部は数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科で構成されています。人類の英知がこれまで蓄積してきた理論や知識を深く知り、新たな謎に挑むための「こころ」を養い、探究のための方法を学びます。自然と人間の活動が関わるさまざまな場面で発揮できる力を培う教育です。学内には伝統的な学問から最先端の研究に至るまで幅広くカバーする学内共同教育研究施設が整備され、学生との密接な距離を保ちながら理学の幅広い分野にわたり最先端の研究を行っています。150年にわたって理系女子の源流として多くの専門職業人や科学者、教育者を輩出してきた伝統を踏まえ、「誰もが認める優れた理系女子」を育て、その活躍を支えることで、社会への貢献を目指しています。



学部 Web サイト
<https://www.sci.ocha.ac.jp/>

理学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※理学部を卒業する際に学士（理学）が授与されます。
※理学領域の新たな領域融合型・学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門を学ぶために、以下の4つの学際プログラムが選択できます。
①応用数理学際プログラム ②物理・化学学際プログラム ③ケミカルバイオロジー学際プログラム ④生命情報学学際プログラム
ただし、文教育学部、生活科学部、共創工学部所属の学生は一部学科・コースの学生のみ履修可能です。(P087参照)

理学部の特徴

理学の専門家を育成

お茶の水女子大学理学部では、理学への入り口としての5分野（数学、物理学、化学、生物学、情報科学）を設けています。その分野の専門教育を行うために5つの学科が設置されています。各学科での教育が目指すものは、それぞれの分野において、社会が求める高度な専門知識を身につけた人材の育成です。

多様な教育システム

お茶の水女子大学の専門教育の特徴は、「複数プログラム選択履修制度」と名付けられた学修システムです。これは、専門性の深化と多様化の両方を可能にできる優れたシステムです。理学部の場合、5つの分野の入り口から入って、そこでの専門知識をとことん追求したいという人、すなわち、専門性を深化させたいという人には、各学科の「主プログラム」を学んだ後に、同じ学科の提供する「強化プログラム」に進んでもらいます。一方で、理学に含まれる多くの分野を広く学びたいという人、すなわち、多様な専門性を身につけたいという人には、「主プログラム」で一つの分野の基礎固めをした後に、他の学科が用意する「副プログラム」を選択することができます。また、複数の分野の専門家が協力して開発した「学際プログラム」を選択することで、既存の分野にはない専門性を身につけることも可能です。

このような履修プログラムと並行して、理学部独自の試みである「卒研シフト」を利用して専門性を広げることもできます。これは、自分の所属する学科の枠を超えて、別の分野の先生の指導のもとに卒業研究を行うものです。すでに多くの学生がこの制度を利用し、それぞれが自分の専門性の新たな開発に挑戦してきています。

一人ひとりが輝く教育

お茶の水女子大学理学部では、教員は一人ひとりの学生のすぐ近くにいます。少人数のクラス単位での授業（講義）は、参加者の表情を確認し、それぞれの反応を確かめながら進められます。理学部の教育

では、実習や演習がたくさん用意されていますが、そこでも、少人数ならではの濃密な指導が行われます。また、実習機材も充実しており、思う存分実験ができます。「自分の実験は自分でやる」というのがお茶の水女子大学理学部の大原則です。これに従って、最先端の機器を自分自身で操作する機会も多く体験できます。

充実した施設・設備

理学部の教育・研究を支える施設も充実しています。たとえば、情報処理システムの運営と支援を行う「情報基盤センター」、海洋生物・環境研究の前線基地としての「湾岸生物教育研究所」、物質科学や生命科学の研究を支える大型機器を管理運営する「共通機器センター」、家庭におけるコンピューター利用を研究する「コピキタス・コンピューティング実験住宅 (Ocha House)」などがあります。また、動物実験施設や、遺伝子組換え実験室等も、理学部の活動を強力に支援しています。この他にもヒューマンライフサイエンス研究所をはじめ多くの研究センターが設置されており、実際の研究の最前線に参加することで、より深化した専門性を身につけることが可能です。

さらに、さまざまな国立の研究機構や、国内外の多くの大学とも連携した取り組みを行っており、より広い視野に立った教育・研究を展開しています。

理系女子の源流

お茶の水女子大学理学部は理系女子の源流として、社会で先導的な役割を果たす多くの科学者・教育者を世に送り出してきました。卒業後の進路として大学院進学を選ぶ学生も多く、学部・大学院を通して卒業生は高い割合で希望する職業に就いており、その活躍分野は多岐にわたります。

また、多くの卒業生が教員となって理学部の教育に携わっています。活躍する女性として、そして科学者としてのロールモデル（お手本）を身近に感じながら自らを磨き上げることができます。

数学プログラム

数学とは科学の世界の言葉です 発展し続ける数学の美に触れましょう

数学とは科学の世界の言葉です。自然科学はもちろん、社会科学などの諸科学においても、数量的あるいは図形的内容の表現や記述に不可欠なものです。現代数学の基礎を学び、数学的思考力を身につけ、日々発展し続ける数学の美に触れましょう。1年次から2年次前半は数学的な思考法・表現の修得と同時に、数学の面白さ・有用性を学びます。2年次後半から数学のあらゆる分野で必要になる代数・幾何・解析の基礎を本格的に学修します。3年次には幅広い分野の講義が演習とともに展開され、4年次には数学講究（セミナー）が開講されます。教員の研究分野は数学の広い範囲をカバーしています。

詳細はこちら▶
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/math/index.html>



目的 数学的理論思考を身につけた 人材の養成

数学科の目的は、教育内容を自ら構築できる教員、専門的技能を有する創造的職業人、基礎研究に従事する研究者など社会に主体的に貢献する人材の育成です。

数学を学び研究しようと志す女性に対して、現代数学の基礎教育を施し、高度な職業人や研究者として、さらには自ら学んでいける素地を育むこと、あるいは各教科、特に数学講究を通じて数学的理論思考を身につけた、社会における有為な人材を輩出することなどを目指しています。卒業生の進路は、ここ数年、就職者数と進学者数がほぼ同数ですが、大学院を目指す人が増えてきています。主な就職先は情報通信関連や金融関連の企業、中・高教員や公務員などです。就職状況は良好で、就職希望者は全員就職しています。

特徴 少人数教育による細やかな対応

専門科目の授業は1年次4月から始まります。1学年の定員は20名ですから、必修科目でも20名ほど、選択科目になればさらに少人数で行われることになり、教員は学生の様子がよくわかります。

学生2〜3名に対して1教員の割合で担当教員を決め、勉強や生活全般の相談にのる「スーパーバイザー制」を採用し、よりきめ細かい指導を行っています。

4年次の必修科目である数学講究では、4名以下の少人数のグループに分かれて、希望する教員のもとでセミナーを行います。年度末にはその成果を見るゼミ発表会が開かれます。論文や専門書を読み、その内容を指導教員の前で黒板などを使いながら説明・解説するというのが一般的なゼミの形態です。

THE VOICE OF A STUDENT

数学の世界を共に学ぶ

数学の幅広い分野を学びながら、自分の興味に応じてさらに深く学ぶことができます。少人数のため、先生方から手厚い指導を受けられ、また気軽に質問できる環境があります。さらに、数学好きな仲間と互いに教え合うことで、楽しく深く数学を学ぶことができます。

瀧口 侑加さん 4年
第1のプログラム：数学主プログラム
第2のプログラム：数学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

広い視野を持って 一緒に数学を学びましょう

最近 skew brace という代数的構造を研究しています。ヤン・バクスター方程式の研究において導入されたもので、ガロア理論とも関連があると知られています。異なる分野の間にもつながりがあるのは数学の魅力の一つで、広い視野を持って取り組むことが重要だと思います。

ツァン シンイー 准教授
研究分野：群論、代数的整数論

カリキュラム（主+強化プログラム）

	主プログラム	強化プログラム
1年次	◎ 集合論 1・2 ◎ 線形代数 1・2・3・4 ◎ 微分積分学 1・2・3・4 初等代数学 確率序論	コンピュータシステム序論
2年次	◎ 線形代数 5 ◎ 線形代数 6 ◎ 微分積分学 5 ◎ 微分積分学 6 ◎ 位相空間論 1・2-4	◎ 群論 1・2-1 ◎ 集合論 3 ◎ ベクトル解析 ◎ 数理解析序論
3年次	◎ 関数論 1-2 ◎ 多様体論 1-3 ◎ 積分論 1 ◎ 環論 ◎ 数学講究	◎ 群論 1・2-1 ◎ 集合論 3 ◎ ベクトル解析 ◎ 数理解析序論
4年次	◎ 数学講究	◎ 群論 1・2-1 ◎ 集合論 3 ◎ ベクトル解析 ◎ 数理解析序論

◎：必修 無印：選択

科目紹介

1 群論：さまざまな数学的対象の対称性を代数的に記述する理論が群論である。群の定義やその典型例を学び、さらに準同型定理、有限生成アーベル群の構造定理などの基本定理について学ぶ。

2 関数論：複素平面上に定義された複素数値関数、特に正則関数の基本的性質を学ぶ。Cauchyの積分定理という簡明にして強力な定理と、それに関連する諸定理を中心に扱う。

3 多様体論：曲線や曲面を一般化した概念が多様体である。その上で定義される関数、写像、接ベクトル、ベクトル場等に関する基礎的事項を学ぶ。

4 位相空間論：数列の収束、関数の連続性は、「近さ」の概念に基づいて定義される。「近さ」の概念を一般化、抽象化した「距離構造」「位相構造」についてその基礎を学ぶ。

5 確率論：「大数の法則」「中心極限定理」などの各種極限定理を定式化するなど、測度論に基づいた、厳密な数学としての近代確率論への入門。

教員の研究分野

教授 横川 光司	代数幾何学
教授 萩田 真理子	離散数学
教授 竹村 剛一	可積分系、特殊関数
教授 下川 航也	位相幾何学
准教授 戸田 正人	幾何学周辺
准教授 大場 清	位相幾何学
准教授 久保 隆徹	偏微分方程式論
准教授 篠田 万穂	力学系理論、エルゴード理論
准教授 千葉 優作	多変数複素関数論
准教授 ツァン シンイー	群論、代数的整数論
講師 植木 潤	数論的位相幾何学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（数学）
高等学校教諭一種免許状（数学）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 時には楽しく、時には真剣に学生と教員のふれあいスペース



数学のような理論系の学問では、実験系の研究室のようなものはありません。そのため、学生と教員の交流の機会が不足しがちです。そこで数学科では学生も教員も誰でも気軽に訪れて自由に語り合える談話室と、数学議論のためのディスカッションルームを設置しました。授業の合間に、放課後に、多くの学生たちが集う、和やかなコミュニケーションスペースとなっています。

物理学プログラム

理論と実験、仮説と実証を積み重ねる その先にある、永遠の真理を見つけるために

詳細はこちら▶
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/phc/index.html>



宇宙をつくった永遠の真理。それは時間空間を超越し、地上の至るところに多様なかたちで現れています。自然界に起こるさまざまな現象をモデル化・理論化し、新しい現象の予言をし、実験で確かめることによって真理を発見する。そうして物理学は実証学問として発展してきました。変わることのない真理を探求し、物質や宇宙が秘める謎を解明し、未知のものの創造に挑む物理学の世界は、刺激的な楽しさに満ちています。物理学科で行われている研究は、宇宙理論、物性理論・実験、統計力学理論、素粒子理論・実験の各分野の幅広い領域をカバーし、少人数制で密度の高い教育を実践しています。

目的 物理のプロを目指して

物理学の基礎から応用に至るまでの一貫した教育・研究によって、物理現象を理論と実験の双方向から直感的かつ理論的に探究する能力を養成します。これは、単に物理学の研究能力の向上にとどまることではありません。「物事の法則を発見し、それを応用する能力」であり、人生のさまざまな場面で出会う問題を還元論的・多元的な視点から見据えて問題解決できる、高い能力を身につけることを意味しています。

多彩な物理学の教育・研究を通して、社会の各分野において時代を先導する女性の育成を目指しています。卒業生の約7割が本学または他大学の大学院に進学し、研究者等を目指して研究を続けます。卒業後はメーカー、情報産業、教職、出版社、大学・研究所など多彩な分野で活躍しています。

特徴 最先端の研究に触れ物理を楽しむ

1年次から専門的な物理の授業があります。2年次になると学生実験が始まり、物理学の基礎となる基本的事項を確認する実験を、3年次ではその応用として超伝導やカオス、原子間力顕微鏡など最新の研究の入門的な実験を行い、実証論的な考え方を養い、しっかり基礎を固めます。4年次の特別研究では研究室に所属し、物理をする楽しさと感動を味わいます。また、最先端の研究に早い段階で触れることができるように、3年次の後期から研究室に所属して学ぶことができます。さらに優秀な学生は3年次を終えた時点で本学大学院博士前期課程に進学することも可能です。

他大学との単位互換、海外の大学への留学など、より広い視野から物理を学ぶこともできます。

THE VOICE OF A STUDENT

物理を学ぶ

大学物理では現象を高校よりも深く考えます。数式の多さに驚きましたが、現象が数式によって厳密に示されることや、原理や基本法則に従っていることを自分で確かめられることに楽しさを感じています。授業は質問しやすい雰囲気、議論を通して新たな気づきを得られます。

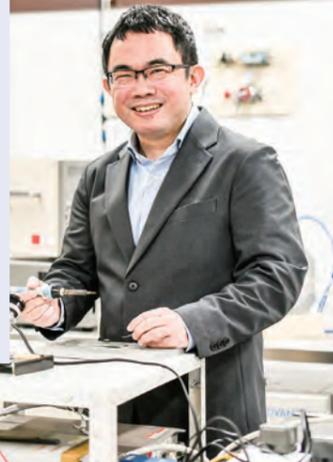
一色 義子さん 3年
第1のプログラム：物理学主プログラム
第2のプログラム：物理学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

新奇な物理現象の探索

物理学では、大きなスケールの宇宙物理学、小さなスケールの素粒子物理学だけでなく、物質の伝導・誘電性や磁性に注目する物性物理学も重要な研究分野です。物性実験では、自分で物質を作成し、その物性を測定、解明します。世界初の物質や現象を発見してみませんか？

左右田 稔 准教授
研究分野：固体物性実験（磁性体、マルチフェロイクス等）



カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	◎古典力学 ◎解析力学 ◎電磁気学Ⅰ ◎電磁気学Ⅱ ◎物理数学Ⅰ-1 ◎物理数学Ⅱ-1	物理英語 初等解析Ⅰ 初等解析Ⅱ 初等線形代数学 宇宙・地球科学 大気・海洋科学概論	◎力学演習 ◎電磁気学演習 化学基礎実験 生物学基礎実験 地学基礎実験	
2年次	◎量子力学Ⅰ-2 ◎量子力学Ⅱ-2 ◎熱力学-3 ◎数理物理学 ◎力学系理論		◎基礎物理学実験-4 ◎量子力学演習 ◎物理数学演習	物理実験学 相対論 物性物理学序論 放射線基礎講義
3年次	◎統計力学 ◎量子力学Ⅲ		◎統計力学演習-5 ◎物理学実験	固体電子論 素粒子物理学 基礎エレクトロニクス 宇宙物理学 流体物理学 量子光学 場の量子論 相転移物理学 連続体物理学-6 ソフトマター物理
4年次			◎特別研究	凝縮系物理学 原子核物理学 物理学特別講義Ⅰ～ⅩⅩ

◎：必修 無印：選択

科目紹介

1 物理数学：1・2年で修得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学ぶ。道具として使えることを目標に、計算力養成、直感的理解に重点を置く。

2 量子力学：現代物理学の基礎である量子力学の基本を理解する。物理量と状態の考え方を理解し、物理量の測定や不確定性関係、ハイゼンベルグ方程式などの概念の理解を目指す。

3 熱力学：熱のやりとりを含むマクロな世界の物理化学現象を普遍的に記述できる熱力学の基礎を論理的に展開し、熱力学の法則を学び、エントロピーの概念と意味の理解を目指す。

4 基礎物理学実験：物理の初等的な実験装置を自分の手で取り扱い、力学、電磁気学、電気回路、熱力学、物性論等に関する基礎的な物理量を測定する実験などを体験する。

5 統計力学演習：ゆらぎを示す多自由度の力学系から有限の巨視変数を取り出し、それを確率過程で記述するという、統計力学の基本方針を理解し、活用することを演習を通して学ぶ。

6 連続体物理学：毎回、実験ムービーや実験で液体や弾性体に関する身近で興味深い現象を観察してもらった後、その現象をシンプルな数式で物理的に理解する喜びを体験する。

教員の研究分野

教授	出口 哲生	数理物理学、物性基礎論、統計物理学
教授	小林 功佳	物性理論、固体物理、表面物理
教授	古川 はづき	強相関電子系の物性実験（超伝導、ペロブスカイト型Mn酸化物等）
教授	奥村 剛	理論物理学（特に化学物理、ソフトマター、場の理論、統計力学周辺）
教授	曹 基哲	素粒子理論
准教授	北島 佐知子	非平衡量子統計力学（量子系の不可逆過程、量子通信等）
准教授	河野 能知	高エネルギー物理学実験、素粒子物理学実験
准教授	左右田 稔	固体物性実験（磁性体、マルチフェロイクス等）
講師	高橋 遼	スピントロニクス
講師	藤田 智弘	宇宙物理学
講師	赤城 裕	物性物理学（理論）
助教	梅原 利宏	物性実験（特に生体及び生体高分子のまわりの水に関して）

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（理科）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 学外にも広がる研究の場 他研究機関との緊密なネットワーク



©Mayuko Murano

物理学科では、加速器実験施設などの国内外の研究機関と連動し、広いフィールドでの研究活動に参加できる教育・研究環境を整えています。また、学内に設立されたソフトマター教育研究センターは、国内有数の研究拠点となっています。

高速カメラに自作顕微鏡レンズを組み込んだ最先端の撮影システムによってとらえた、液気界面付近に連なったパブルの様子（奥村研究室（当時）村野真由子さん撮影）

化学プログラム

生命現象からコンピュータケミストリーまで 森羅万象も先端科学も、すべては分子・原子の世界から

自然界は、生物も、地球も、宇宙もさまざまな物質から成り立っています。化学とは、これらの物質をつくりあげる原子・分子の結合とその変化という視点で考え、得られた知識を体系化する学問です。たとえば、私たちの身の回りのほとんどのものが化学的に合成された化合物と関係しているように、化学によって新しい物質が生み出される可能性はまだまだ無限に存在しています。化学の基礎を修めることにより、生命の起源、生命現象の解明、ナノスペースの化学の研究をはじめとして、工業化学、農芸化学、医薬化学などさまざまな応用分野へと学問や研究を多彩に展開させることができます。

詳細はこちら▶
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/chemhp/index.html>



目的 少人数で個性を伸ばす

本学科では、少人数の学科ならではのきめ細かく、各個人に対応した教育を展開しています。また、学年間の交流だけでなく、学年を越えて、また卒業生と交流する機会も多いため、先を見据えて勉学できる点も特徴です。小規模ですが、各教員の研究分野は、基礎的な化学分野に限らず、機能性材料や超分子の合成から、生命科学、コンピュータケミストリーまで幅広い範囲、特別研究では学生のさまざまな興味を踏まえて発展させることが可能です。

化学科では約4分の3以上の学生が大学院博士前期課程へ進学し、成績優秀者には大学院への飛び級制度もあります。化学は幅広い分野で重要であるため、卒業生の多くは化学、製薬、化粧品、電気などの企業の研究所、研究開発部門をはじめとして、官公庁、教育、マスコミなど多彩な分野で活躍しています。

特徴 化学の基礎から応用まで

本学科の授業は、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学など幅広い分野の授業があり、基礎から応用まで、講義と実験(実習)を両輪にまんべんなく学びます。

主プログラムで化学の基礎を学び、強化プログラムなどその後選択するプログラムにおいて、基礎学力に加え思考力や分析力の鍛錬を行うよう、カリキュラムが設計されています。4年次には特別研究(卒業研究)で、最先端の研究を経験することにより、自ら、研究を推進していく力を身につけることができます。また、教員の研究を紹介する講義(化学特別ゼミなど)を通じて、最先端の研究に1年次から触れることができる点や、将来の就職を見据え、化学科独自の卒業生組織(桜化会)を通じて卒業生との情報交換を密にできる点も化学科の魅力です。

THE VOICE OF A STUDENT

「不思議」に触れ、化学で応える

高校で化学が好きになり、この学科を目指しました。様々な視点から化学の学びを深めるのが楽しく、その面白さを日々実感しています。周囲には共に化学を志す仲間や経験豊富な先生方、先輩方がいて、恵まれた研究環境です。

城所 裕衣さん 4年

第1のプログラム:化学主プログラム
第2のプログラム:化学強化プログラム

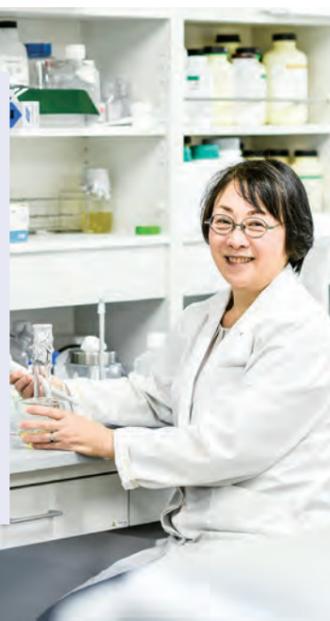
THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

多様性と包括性

非生物も生物も、化学はあらゆる物質の有様をとらえ、探求する学問といえます。糖鎖は生物のしくみの調節に欠かせない物質で、核酸やタンパク質とは一味違った個性があり、時・場所・形に応じた振る舞いの一つ一つが多様性や包括性をまさに感じさせる研究対象です。

相川 京子 教授

研究分野:細胞生化学、糖鎖科学、タンパク質科学



カリキュラム(主+強化プログラム)

分野	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	◎無機化学Ⅰ 基礎化学A 基礎化学B	◎基本化学実験Ⅰ-1 化学特別ゼミ-3		
2年次	◎物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ◎分析化学Ⅰ ◎無機化学Ⅱ ◎有機化学Ⅰ・Ⅱ ◎生物化学Ⅰ・Ⅱ 化学英語-4	◎基本化学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ-1		
3年次		◎専門化学実験Ⅰ~Ⅴ-2	◎分析化学Ⅱ ◎有機化学Ⅲ ◎分子分光法 物理化学Ⅳ 無機化学Ⅲ	有機化学Ⅳ 量子化学 生物物理化学 無機化学特別講義Ⅰ 生体分子機能・反応学 実験値解析法 高分子化学 放射化学 計算化学
4年次		◎特別研究Ⅰ・Ⅱ-6 ◎化学演習Ⅰ・Ⅱ-5		

◎:必修 無印:選択

科目紹介

1 基本化学実験:基本的な化学実験を通じて、専門化学実験を履修する上で必要となる基礎的な実験技術(秤量操作、器具や試薬の取り扱い、物質抽出、機器測定など)と知識を身につける。

2 専門化学実験:物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学の専門的な実験を行う。先端的な分析機器を使用した実験に加えて、物質の特性や構造に関する情報検索など、研究の基盤となる知識、技術、思考力を学ぶ。

3 化学特別ゼミ:新入生が少人数のグループに分かれ、化学科全教員の研究室を訪問し、教員毎にゼミ形式の授業を行う。化学の基礎知識を修得し、研究への関心を高める。

4 化学英語:演習形式で、化学英語を身につける。化学の専門用語や化学英語ならではの表現、文法などに慣れ、英語論文の読解力の向上を目指す。

5 化学演習:研究室に配属された4年次学生が、卒業研究に関連した学術論文を読み、理解し、プレゼンテーションするゼミ形式の演習。知識を深め、専門英語の読解力を養う。

6 特別研究:各指導教員の助言を受けつつ、個別の新しい研究テーマについて、研究の背景や目的を理解したうえで、自ら研究計画を立て、卒業研究に取り組む。

教員の研究分野

教授	近藤 敏啓	電気化学、界面物理化学、自己組織化
教授	森 義仁	非平衡系化学、非線形化学
※2025年度末で定年退職。		
教授	相川 京子	細胞生化学、糖鎖科学、タンパク質科学
教授	棚谷 綾	超分子化学、創薬化学、構造有機化学
教授	矢島 知子	有機化学、有機フッ素化学
准教授	宮崎 充彦	物理化学、分子分光学
准教授	近松 彰	固体物理化学、固体反応化学
准教授	伊村 くらら	ナノ材料化学、コロイド界面化学
准教授	三宅 亮介	錯体化学、超分子化学、生体関連化学
講師	大金 賢司	生命化学(化学生物学・化学遺伝学)、医薬化学
講師	桑原 拓也	典型元素化学、構造有機化学、有機金属化学
助教	黒木 菜保子	理論化学、溶液物理化学

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状(理科)
高等学校教諭一種免許状(理科)、学芸員
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 高度な大型実験装置による実験も研究のすべてを自分の手で



化学現象の本質を調べたり、合成した分子を確認するときは、さまざまな測定手段を用いる必要があります。小規模な学科ですが、必要な最先端の測定装置はほぼすべて揃っています。また、これら最先端の機器は、小規模ゆえ全員に操作時間を十分にとることができるため、機器操作や測定方法に関する技術を実地でしっかりと修得することが可能です。こうした基礎的な力を学生時代に積み重ねることが、研究者としての高い実力を養成することにつながります。

生物学プログラム

神秘的なまでに美しい原理がそこにある
先端の研究環境で、生命のしくみを解き明かす

詳細はこちら▶
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/bios/index.html>



生物学は、多種多様な「生き物」の複雑で多彩な生命現象を研究する学問です。ゲノム編集技術を含む遺伝子工学や顕微鏡技術、データサイエンスなどの発展により、生物学は飛躍的な進歩を遂げています。薬学、農学、物理学、化学、情報科学、医学など他分野とのコラボレーションが進むことで、神秘の世界だった生命が具体的に理解されるようになり、それを取り巻く環境（宇宙・地球）や精神世界の問題にも興味向けられるようになりました。今や生物学は、地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼすようになっています。生物学科では、生命科学の幅広い領域をカバーする多彩な研究が展開されています。

目的 多様な個性を伸ばす

神秘的に見える生命現象には、美しいほどの見事な原理や理論が潜んでいます。生物学科では、この21世紀に残された「宝の山＝生物」を体系的に学べるだけでなく、最先端の研究に参加することができます。さまざまな生物について、遺伝子や細胞などのミクロなレベルから、個体や集団、生態系などのマクロなレベルまで、幅広く研究対象にしています。

生物学科では「学生の数だけ才能がある」を信条に、生命を深く理解するための鋭い感性と洞察力を備えた創造力あふれる個性の育成を目指し、きめ細やかな指導を行っています。

卒業生のおよそ8割が大学院に進学し、修了後は企業や国公立の研究機関、大学などで研究者として活躍しています。研究職以外の就職先も食品、医薬、銀行、シンクタンク、IT関連、教職と多彩です。

特徴 実習重視で実践力を育成

1・2年次には生物学の基礎分野の講義と基本的な実習によって核となる知識、理解力、論理力、実験手法を修得し、3・4年次における専門的な実習及び特別研究を通して実践力を身につけます。実習の対象は野外の海洋生物や植物から、顕微鏡で見る小さな生物や細胞、そして遺伝子やタンパク質の分子レベルまでの広範囲かつ高度なものとなります。一人ひとりが自由に使用できる顕微鏡などの実習機器と、最先端の研究設備を充実させ、学生の知的探求心をしっかりと育む環境を整えました。湾岸生物教育研究所に宿泊して行う野外実習もあります。

教育を担当するのは、それぞれの専門分野で活発な研究活動を実践している教員陣です。発展し続ける現代の生物学の最前線までを追求する講義や実習を提供しています。1年次から研究室に参加して、実践研究をスタートさせることもできます。

THE VOICE OF A STUDENT

観察を通して生物の真の姿を覗く

幼少期からの昆虫への関心が私の生物学への入口でした。じっと昆虫を観察するひと時は、至上の喜びをもたらしてくれます。地道な観察を通して生物の生き様を覗こうとする姿勢こそが、生命現象の解明への第一歩となることを、観察を重んじる本学の学風のもとで痛感する日々です。

小田 咲さん 4年
第1のプログラム：生物学主プログラム
第2のプログラム：生物学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

生き物の謎解きから眼力を磨く

生き物はいまだに謎だらけです。分子レベルから生態系レベルまでの多様な側面から謎を解いていく研究を通して、生き物に限らず森羅万象や飛び交う情報の裏に隠れている真実を見抜く力量と、現在の理解をアップデートし続ける姿勢を身につけていきましょう。生物学が練習問題です。

服田 昌之 教授
研究分野：進化発生学、サンゴ礁生物学

カリキュラム（主＋強化プログラム）

分野	基礎		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	◎生物学概論 -1- ◎進化生物学 -2- ◎生化学 -3- ◎生物物理学	◎動物系統学 ◎植物生理学 ◎植物生態学		
2年次	◎動物生理学 -4- ◎植物系統学 -5- ◎代謝生物学 ◎細胞生物学 ◎発生生物学	◎基礎遺伝学 -6- ◎分子遺伝学 ◎生物統計学 ◎動物生態学		
3年次	生物学外書講読	○分子遺伝学実習 ○細胞生物学実習 ○細胞生化学実習 ○代謝生物学実習 ○植物生理学実習 ○動物生理学実習 ○発生生物学実習	生物系統地理学 進化遺伝学 発生遺伝学 バイオメカニクス 植物生理学 遺伝子工学 植物機能制御学	生命情報プログラミング演習 発生生物学臨海実習
4年次		◎生物学演習Ⅰ ◎生物学演習Ⅱ ◎特別研究Ⅰ ◎特別研究Ⅱ	(1～4年次) 生物学特別講義Ⅰ～Ⅴ 生物学特殊講義Ⅰ～ⅩⅩ	(1～4年次) 公開臨海実習

◎：必修 ○：選択必修 無印：選択

科目紹介

1 生物学概論：生物学科で行われている研究の全体像を知り、各自が大学での学びの指針を掴むことを目指す。最初に受講する講義であり、全教員がオムニバス形式で担当する学科の入門的な科目。

2 進化生物学：生物学の広範な「なぜ」に答えるべく、生物進化の重要概念を適用して進化機構の理解と思考力の向上を目指す。生物学全般の基盤となる科目。

3 生化学：生命の活動単位である細胞の営みを分子レベルで理解するために、細胞を構成しているさまざまな生体高分子の構造、性状、機能について基礎的知識を修得する。

4 動物生理学：外界からの刺激に対する動物個体・組織・器官の応答について、脳神経科学の側面から学習し、理解を深める。

5 植物系統学：光合成により酸素を発生させる植物（陸上植物と藻類）の多様性や起源についての理解を深め、植物が獲得してきた形態的・生理的機能について基礎的知識を修得する。

6 基礎遺伝学：さまざまな遺伝現象について、遺伝子のはたらきに基づいた理解を深めることを目指す。また、進化を理解する基礎として、集団内における遺伝子のふるまいにも触れる。

7 生物学実習Ⅰ・Ⅱ：生物学科の学生として、専門科目の授業や実習に役立つ基礎的な技術や考え方を学ぶ。16種類に及ぶ「お茶大・生物学科実習メニュー」の玄関口。

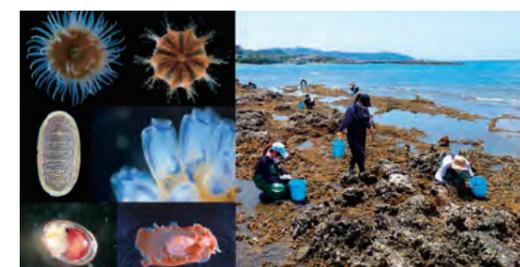
教員の研究分野

教授	植村 知博	植物細胞生物学
教授	清本 正人	発生生物学、海洋生物学
教授	高田 智	植物系統進化学、海洋植物学
教授	千葉 和義	発生生物学、細胞生物学、理科教育
教授	服田 昌之	進化発生学、サンゴ礁生物学
教授（兼任）	由良 敬	生命情報学、計算生物学
准教授	近藤 るみ	分子進化学、進化遺伝学
准教授	佐藤 敦子	環境発生進化学
講師	岩崎 貴也	植物生態学、生物地理学
助教	毛内 拓	脳・神経科学、生物物理学

取得できる主な教員免許・資格

学芸員、中学校教諭一種免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（理科）
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 海辺の自然の豊かな生態系に会う 湾岸生物教育研究所（千葉県・館山）



生物学科の特色には実習プログラムが多いことが挙げられます。その拠点の一つが南房総の海沿いにある湾岸生物教育研究所です。宿泊施設完備の実験実習施設があり、臨海学習では泊まり込みで生物についての理解を深めます。造礁サンゴなども生息するこの海域の生物相は多様で、ウニやウミホタルなどの海産生物に加え、海藻や里山の植物なども対象に、フィールド採集から顕微鏡で見るミクロな世界、さらに遺伝子やタンパク質の分子レベルまで、広範囲かつ高度な実習を行っています。

情報科学プログラム

21世紀の基盤技術、「情報」を科学する

詳細はこちら▶
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/is/index.html>



20世紀にコンピュータの発達をもたらした情報技術は、今では携帯電話や家電製品にも搭載され、私たちの日常生活を大きく変えるものになっています。さらに、自然や生命のしくみ、言葉や経済のしくみを分析して予測するなど、情報科学は大きく注目されています。情報科学は、私たちの生活をよりよくする手段として、またあらゆる学問に貢献する手段として、無限の可能性を秘めています。本学科では、さまざまな専門で最先端を行く教員陣が理論から実践まで幅広い教育を展開し、女子大学ならではのユニークな視点から日常生活に密着した情報科学を開拓します。

目的 抜群の就職力で情報技術の frontline へ

本学科では将来の研究者・技術者を養成するために、1年次から情報技術のしくみを修得するとともに、多くのプログラミング科目によりコンピュータの動作を体感します。それと同時に本学科では、情報技術の基礎となる理論の科目も充実しています。つまり、情報業界で必要とされる実践的な知識だけでなく、社会に出てからでは学ぶ機会が少ない理論的背景もしっかり学べるのが本学科の特徴です。

卒業後は8割以上の学生が大学院に進学し、より高い専門性を身につけたうえで、企業や研究機関など最先端の職場で活躍しています。就職状況が非常によいのも本学科の特徴で、情報通信業界の就職力で日本一の大学と報道されたこともあります。Webサイトに就職状況の全貌が載っていますので、ぜひご覧ください。

特徴 さまざまな興味に応える教員とカリキュラム

1・2年次では情報科学の基礎となる数学や理論の科目を多く学びます。1年次から始まる実習科目ではプログラミングを初歩からじっくり修得でき、数学や理論の科目にも演習問題を解く時間が用意されています。少人数制ならではの親身な体制で、安心して指導を受けられます。2年次にはアーキテクチャやネットワークなどの情報基盤技術の講義も始まります。

3年次からは、いよいよ情報科学の先端分野の講義が始まります。コンピュータ科学、数学、自然科学など幅広い科目群のなかから各自の興味に合わせて受講することで、情報科学の視野がぐんと広がります。4年次には各自の興味に合う研究室を選び、教員の親身な指導のもと卒業研究を行います。この研究成果を、学内外、さらには海外にも積極的に発表しています。

THE VOICE OF A STUDENT

あなたの作りたいものを作る技術を

私の一番最初の一步は「ゲームを作りたい」という思いでした。本学科はプログラミング初心者でも大丈夫。学友や先生と共に、数学と情報を基礎から勉強することができます。あなたと一緒に、自分の作りたいと思うものを作る技術を学びませんか？

日比 真実さん 4年
 第1のプログラム：情報科学主プログラム
 第2のプログラム：情報科学進化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

言語の理解とはどのような計算か

言葉が通じる、というのは不思議な現象です。言葉は空気の振動、もしくは記号の羅列ですが、歴史や自然科学からフィクションまで、あらゆる複雑な情報を伝えることができます。その仕組みを、数学と同様に「計算」という概念を通して解明するのが、計算言語学という学問分野です。

戸次 大介 教授
 研究分野：数理言語学、計算言語学

カリキュラム (主+強化プログラム)

分野	主プログラム		強化プログラム		
	講義	実習・演習	講義・実習・演習 (3・4年次に履修)		
1年次	◎線形代数Ⅰ・Ⅱ ◎微分積分Ⅰ・Ⅱ ◎数理基礎論→1 ◎コンピュータシステム序論→2 ◎データ構造とアルゴリズム	◎確率論 初等代数学	◎コンピュータ基礎演習 ◎プログラミング実習 線形代数演習Ⅰ・Ⅱ 微分積分演習Ⅰ・Ⅱ	数値計算 言語理論とオートマトン 計算量理論 組み合わせ論 フーリエ解析とラプラス変換 微分方程式論 数理統計学 情報と職業 コンパイラ構成論 人工知能論 バイオインフォマティクス データベース設計論 コンピュータグラフィックス→6 コンピュータビジョン コンピュータネットワークⅡ→3 ヒューマンインターフェイス 情報科学特別講義Ⅰ～Ⅴ 情報科学演習Ⅰ～Ⅴ	ソフトウェア工学 シミュレーション科学 関数論Ⅰ・Ⅱ 数値計算演習 情報解析学 暗号と符号 情報倫理 計算モデル論 形式言語論 自然言語論 環境情報論
2年次	◎離散数学 ◎コンピュータアーキテクチャⅠ・Ⅱ ◎コンピュータネットワークⅠ→3 ◎マルチメディア データ解析序論→4 微分積分Ⅲ	グラフ理論 関数型言語 情報理論 位相空間論 物理学概論A・B	◎システムプログラミング実習 ◎マルチメディアプログラミング実習→5 計算機代数演習 微分積分演習Ⅲ	◎情報科学総合演習 英文講読	◎特別研究
3年次					
4年次					

◎：必修 無印：選択

科目紹介

1 数理基礎論：あらゆる数学の基盤であると同時に、プログラミング言語、自然言語の認識・意味・計算に関わり、電子回路の設計にも用いられる「記号論理学」を学ぶ。

2 コンピュータシステム序論：コンピュータシステムの基礎知識と、その実社会での役割について学ぶ。コンピュータの原理や仕組み、歴史、情報科学の中核となる諸技術などを学ぶ。

3 コンピュータネットワークⅠ・Ⅱ：主プログラムではインターネットを動かす仕組みである TCP/IP を学ぶ。強化プログラムでは、あらゆる情報機器がネットワークで接続された現代社会の情報環境を知り、演習でその技術を習得する。

4 データ解析序論：観察されたデータに潜む法則を発見しモデルを作る方法を学ぶ。人工神経回路網や機械学習など人工知能を代表する手法の基礎を学ぶ。

5 マルチメディアプログラミング実習：オブジェクト指向の概念の理解と活用を目的に、Java 言語を用いてマルチメディアプログラミングの基礎を実習する。

6 コンピュータグラフィックス：コンピュータグラフィックスによる画像生成の基礎理論と先進技術を学ぶ。プログラミングによる自由制作を課題とする。

教員の研究分野

教授 浅井 健一 プログラミング言語
 教授 浅本 紀子 離散数学、計算機援用論
 ※2025年度末で定年退職。
 教授(兼任) 伊藤 貴之 可視化、マルチメディア
 教授(兼任) 小口 正人 ネットワークコンピューティング、データ工学、セキュリティ
 教授 小林 一郎 人工知能、自然言語処理
 教授 戸次 大介 数理言語学、計算言語学
 教授 工藤 和恵 統計物理学、量子コンピューティング
 准教授 五十嵐 悠紀 ヒューマンコンピュータインタラクション、グラフィックス
 准教授 オベル 加藤 ナタナエル DNAコンピューティング、最適化
 准教授 長尾 篤樹 計算量理論、離散最適化

准教授 桑名 杏奈 数値流体力学
 准教授(兼任) 坂田 綾香 統計的機械学習・統計物理
 講師 神山 翼 気象学、物理気候学、大気海洋データ解析
 講師 室屋 晃子 プログラミング言語理論・プログラム意味論

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状(数学)
 高等学校教諭一種免許状(数学、情報)
 ※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 多彩な卒業研究で新しい情報科学を切り拓く



情報科学が担う社会的役割はとて広く、それに対応できるよう情報科学科では理論から応用までの多種多様な研究テーマを取り揃えています。セキュアな通信技術、文章が持つ「意味」の解析、パズルやゲームの最適戦略といった基礎理論から、スマホの新しい操作方法、子供に優しいプログラミング教育といった身近な視点、台風の進路予測、人流やウイルスの拡散のシミュレーション、音楽や歌唱・脳内情報だけでなく肌の特徴と印象の相関の解析といったデータサイエンス、そして量子コンピュータや電気に依らない新しいコンピュータという計算機の未来も見据えています。

生活科学部

食物栄養学科
人間生活学科
心理学科

Faculty of Human Life and Environmental Sciences

文理融合の多角的・複合的アプローチによって生活を科学し
「よりよい人間の生活とは何か」を問う

[アドミッション・ポリシー]

生活科学部は、人間生活における人間と環境との関係について、多角的な視点から見つめ直し、真にバランスの取れた人間の生活とは何かを探究する学部です。自然科学、人文科学、社会科学の3つの視点から、多面的に問題を考える姿勢を養うことが必要とされます。生活科学部では、それぞれの専門を深めるばかりでなく、文理融合の学部の特性を活かして、他の専門分野にも関心を持ち、多面的で総合的な視点から現実の人間生活の問題に取り組む力を持った、社会の多方面で活躍できる女性リーダーを育成することを目指しています。

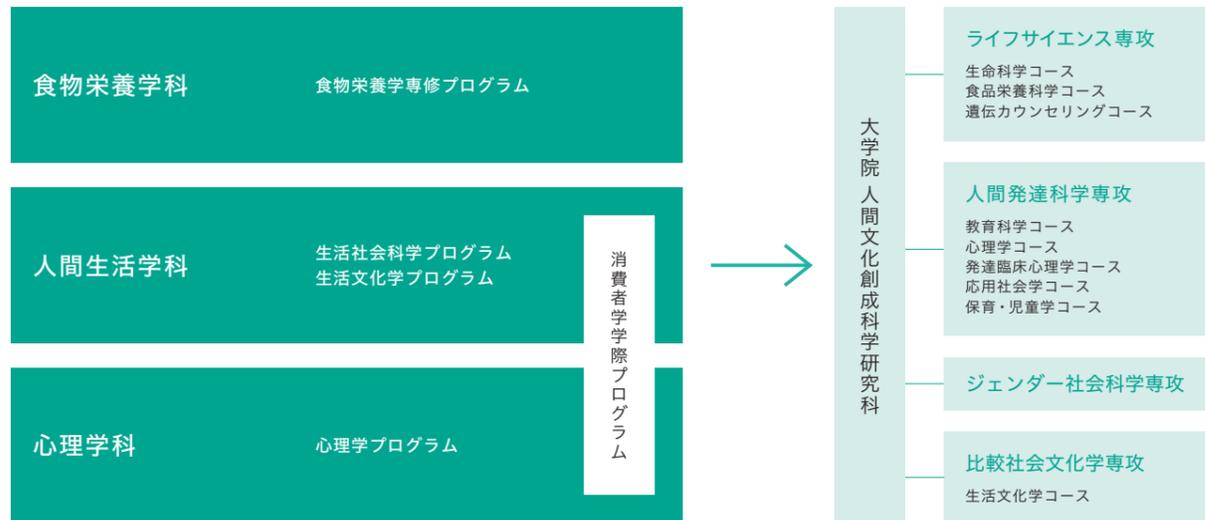
高校における全ての科目が、大学での勉強に必要な基礎となりますので、志望学科の別を問わず、家庭科、芸術科、保健体育を含め、オールラウンドの学力を身につけておくことを期待します。

生活科学部は、人間と生活と環境を多角的な視点と複合的なアプローチで探求する学部で、自然科学系の食物栄養学科、人文社会科学系の人間生活学科と心理学科の3学科で構成される、理系・文系の枠を横断する学際的なプログラムが特徴です。人の心と身体、文化と歴史、社会や環境に関わる諸問題を生活の質という視点から捉え直し、食の科学と健康、人間生活と社会、人間生活と文化、心の科学と健康に関する諸問題を包括的に科学し、生活の質を再検討していきます。さらに、時代の流れを敏感に捉えながら、人間と生活について総合的に見つめなおし、現代にふさわしい価値と基準の創出を目指し自立する女性を育てます。生活科学部は教員免許状や博物館学芸員などの各種の資格に加え、管理栄養士の受験資格や公認心理師の受験資格に必要なカリキュラムを用意しています。



学部 Web サイト
<https://www.hles.ocha.ac.jp/index.html>

生活科学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※生活科学部食物栄養学科、人間生活学科を卒業する際に学士(生活科学)が授与されます。心理学科を卒業する際に学士(心理学)が授与されます。
※消費者学学際プログラムは、一部の学部・学科の学生が「第2のプログラム」として選択することができます。また、全学部全学科の学生が「第3のプログラム」として選択できます。(P087参照)

生活科学部の特徴

生活科学部の歩み

生活科学部は、家政学部(1950年)を改組して、1992年に誕生しました。家政学部は、家庭生活の主要領域と目された食物、被服、児童、家庭経営・家族関係などに関する学術的研究と専門的教育を担い、大きな役割を果たしました。のちの家政学部から生活科学部への変革は、日常の人間生活が、地球規模の自然環境、世界規模の社会環境と密接に関係するようになったこと、また社会における女性の位置や役割が変化してきたことに対応して行われました。そのため、生活科学部は、家政学部に比べてはるかに広い学問領域を含んでいます。

生活科学部では、このような人間生活の諸問題に対して、人間らしい豊かで健康な生活とは何か、さまざまな価値観を持った人々や社会とどのように共生していくか、人間生活の質的・量的な豊かさをどう調和・統合させていくことができるかといったような地に足の着いた生活者の視点から取り組む姿勢を一貫して堅持しています。

生活科学部のテーマ

現代は科学技術の発展や急速な経済成長により、物質的に豊かで、快適な生活を享受できるようになりましたが、その一方、急激な自然環境、社会状況の変化に伴う問題が噴出しています。たとえば、少子高齢化、女性の社会参加が進む中で人がどのように働き、どのような家族を形成していくのか、そのために必要な制度はなにか、などが課題となります。さらに人の心とその発達、人と人との関係、これをとりまく文化や社会等の諸問題も解決すべき課題です。また、食については、過食やアンバランスな食事による生活習慣病などへの食物栄養学からのアプローチも求められています。

このように生活科学部に期待されるテーマはたくさんありますが、個々の問題解決のみではなく、生活者の視点から、環境や社会との関係の中で、総合的に、実践的に問題に取り組む姿勢が生活科学部の特色といえます。このため、各専門プログラム、及び現代の消費生活について総合的に学ぶ消費者学学際プログラムが開設されています。

食物栄養学科

“食物と人を見つめるサイエンス”をキーワードに、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた食物栄養学の専門家の育成を目指しています。少子高齢社会を背景に、これまで以上に人間や健康との関わりが重要になっていることから、おいしさや品質といった食品を中心とする研究に加え、食物が人間に対してどのように機能するかという人間栄養学的な教育・研究も充実させています。

人間生活学科

人間生活学科では、人間の社会的・文化的活動を、生活者の視点を持って、社会科学、人文科学の多角的な側面から学び、研究を行います。政治、経済を含め、人間の社会的活動を法学・政治学・経済学・社会学を用いて、多角的な観点から仕組みを分析し、問題解決策を考える学問が生活社会科学です。服飾、住居、工芸、デザインなどの生活造形など間生活の文化的側面を比較文化的・民俗学的・歴史学的・保育学的視点から考究する学問が生活文化学です。人間生活学科は、生活者の視点から、人間生活の諸問題に取り組む、考え、行動できるような人材を養成することを目標にしています。

心理学科

心理学を学び、さまざまな生活環境・場面における人間の心理・行動に対し、その基礎的なプロセスと機能への深い理解と科学的な見方を培い、課題の発見と問題の解決に活かす力を養います。教育プログラムは基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の科目群を融合した形で構成されており、「認知・生物系」「社会・福祉系」「医療・健康系」「発達・教育系」という4つの専門領域を設置しています。

食物栄養学専修プログラム

食物とヒトを 見つめるサイエンス

食物と人間及び健康は時代を問わず、社会の人々の大きな関心事です。毎日の生活に欠かせない「食」には、おいしさ、栄養や健康、製造や安全性など、さまざまな側面があります。食物は人間が生きるために不可欠であり、生活にうるおいや楽しさをもたらすなど、健康を維持するには、食物についての正しい知識が必要です。食物栄養学科では、「食」に関する分野を総合的な視点で捉えます。食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広い領域を対象に、食の研究に科学的に取り組んでいます。

詳細はこちら▶
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/food/index.html>



目的 食の専門家としてのリーダー育成

食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた、食物栄養学の専門家の育成を目指しています。食物栄養学科では、おいしさや品質といった食品を中心とする研究に加え、食物が人間に対してどのように機能するかという人間栄養学的な教育研究も充実させています。

さらに、人と「食」の関係を考えるには科学的な視点が必要です。基礎医学、病理学、さらに医療制度、社会福祉なども教育に取り入れ、食品の安全性を評価し、トータルマネジメントする能力も養います。

卒業後は大学院への進学の道も用意されています。卒業生は、厚生労働省や自治体などの官公庁、食品会社などの民間企業、病院、学校関係など、専門を活かした広い分野で活躍しています。

特徴 広い専門性と充実した実験・実習

カリキュラムでは特に実験・実習を重視しています。1年次は専門を学ぶために必要な知識・技術や一般教養を修得し、2年次からは食物栄養学に関わる専門課程や基礎的な実験・実習を通して論理的思考を身につけます。

3年次からは管理栄養士の国家試験受験資格に必要な栄養臨床実習が始まります。3年次後半になると全員が食物栄養学科の研究室に所属し、4年次から各々が特定のテーマについて研究を進めます。

食物栄養学科には食品や栄養に関する幅広い専門分野の教員が所属し、健康や生活について総合的な教育を行っています。

THE VOICE OF A STUDENT

食を通じて未来を創る

食を食べることが大好きで、食に関して深く知りたいと思いこの学科を志望しました。授業や実験、現役の管理栄養士の方のお話を通して、食が医療や教育など多様な分野とつながっていることを実感しました。食の幅広い魅力やそれを通じて私たちができることを探索してみませんか。

牛丸 明音さん 3年
第1のプログラム：食物栄養学専修プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

満足度の高い食事生産を目指して

管理栄養士の食事提供は栄養面と嗜好面の両方を考える必要があります。おいしいと思ってもらえなければ食べてもらえず、それは栄養素の摂取もかきません。食べる人に満足してもらい、栄養素も適切に摂取してもらうためにはどのように調理すれば良いのかを考えています。

佐藤 瑠子 講師
研究分野：給食経営管理

カリキュラム（専修プログラム）

分野	専修プログラム		
	講義	実習・演習	
1年次	食物栄養学入門 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ	調理科学Ⅰ-3 基礎有機化学	基礎調理学実習
2年次	細胞生化学 臨床医学総論 臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ 生活環境学 食品製造・保存学 食品微生物学Ⅰ-4 分析化学 代謝栄養学Ⅰ-5	社会福祉学 臨床栄養学Ⅰ-6 栄養教育論Ⅰ-2 給食経営管理論 栄養カウンセリング論 応用栄養学 食品化学 食嗜好評価学	応用調理学実習 分析化学実験 解剖生理学実験
3年次	公衆衛生学 ライフステージ栄養学 病態栄養学 給食マネジメント論 食品機能論Ⅰ-1 食品衛生学	ライフスタイル栄養学 臨床栄養療法Ⅰ-6 栄養疫学・統計 栄養教育論Ⅱ-2 公衆栄養学 食事療法学	食品微生物学実験 食品製造・保存学実験 食品化学実験 栄養学実験 調理科学実験 臨床栄養学実習 臨床栄養学実習 食物栄養管理論総合演習Ⅰ 栄養臨床実習Ⅰ 栄養カウンセリング論実習 給食経営管理実習 応用栄養学実習 公衆栄養学実習
4年次	食物栄養学論議	卒業論文	食物栄養管理論総合演習Ⅱ 栄養臨床実習Ⅱ

※栄養士免許および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる4年一貫の専修プログラムを履修します。

※必要に応じて副プログラム、学際プログラムも履修できます。

科目紹介

1 食品機能論：近ごろ話題の食品成分が「からだによい」とする機能性（三次機能）に関して、法律や資格、化学、生化学という多方面から学び、未来への健全な利用法を考える。

2 栄養教育論：食べたらいけないと思っても、つい食べてしまう。行動科学は、そのような複雑な食行動を理解するための学問である。栄養教育論では行動科学の他、栄養教育の方法論を学ぶ。

3 調理科学：食品をおいしくする非加熱操作、加熱操作の基礎を学ぶ。界面現象、伝熱現象などの理論を理解することで、実際の最適な調理条件の設定へとつなげる。

4 食品微生物学：人と微生物の関わりは古く、深い。微生物学の歴史や基礎知識を学ぶとともに、食品と微生物の関わりを、食品の製造（醸造）と食品の保存・安全性の両面から学ぶ。

6 臨床栄養療法学：さまざまな病気に対して栄養がどのように関わっているか、医学的・栄養学的知見に基づいて学ぶ。また、科学的エビデンスに基づいた栄養食事療法についても理解を深める。

教員の研究分野

教授 森光 康次郎	食品機能化学	教授 新田 陽子	調理科学
教授 赤松 利恵	栄養教育学	准教授 清水 誠	応用栄養学
教授 飯田 薫子	病態栄養学	講師 佐藤 瑠子	給食経営管理
教授 須藤 紀子	公衆栄養学	講師 小林 正樹	基礎栄養学
教授 市 育代	臨床栄養学	助教 野田 響子	食品貯蔵学

取得できる主な教員免許・資格

栄養士、食品衛生管理者（任用資格）
食品衛生監視員（任用資格）
管理栄養士（受験資格）、栄養教諭一種免許状
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 食の専門家に必要な科学的素養を身につけられる学生実験



3年次に行われる調理科学実験では、調理による食品の化学的・物理的变化をさまざまな実験手法により評価します。その実験結果を解析し、文献を参考に考察してまとめ、レポートを作成します。まとめた内容を発表する機会もあります。食関連の実験は5つあり、これらの複数の実験を通じて食の専門家に求められる科学的素養を身につけられるカリキュラムが用意されています。

生活社会科学プログラム

子育て、家族、消費者、福祉、ジェンダー論

生活者の視点で社会経済問題を解明し、政策を提案する

詳細はこちら▶
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/humanlife/soc/index.html>



私たちの身の回りではさまざまな問題が生じています。派遣労働をはじめとした非正規雇用の増加、不況の時の雇用の問題、少子高齢化社会における医療・介護制度のあり方、社会的・経済的格差にどのように取り組むか、家族に関わる問題など枚挙に暇がありません。IT（情報技術）の発展は私たちの生活、社会を大きく変えようとしています。私たちは生活者の視点から、家族問題、女性問題、高齢者問題、教育問題、消費者問題など生活に関わる社会・経済問題に取り組んでいきます。法学、政治学、経済学、社会学など社会科学の方法を学び、学際的なアプローチで、問題解決の方法について分析し、政策を提案していきます。

目的 社会科学の基礎・応用の学修・研究、さらに学際的研究へ

本プログラムでは、法学、政治学、経済学、社会学の基礎から応用を徹底的にマスターすることを目標にしています。日常性のなかに潜む具体的な問題から出発し、問題を多角的に、かつ深く掘り下げて分析する力をつけます。たとえば、子育て支援を取り上げてみましょう。子どもが育つ家族・社会環境のあり方を解明するには、社会学の力がが必要です。そして、実際にサービスを行うための費用をどのように賄うかは経済学の課題であり、それを実現する法規制や制度を考えるのは、法学や政治学の仕事です。このように私たちの身の回りの問題を考えるために、多角的、学際的な視点を養成します。

卒業後の進路は、国家・地方公務員、教員、金融機関、マスコミ、IT、調査・コンサルティング、メーカー等多様で、各界に人材を輩出しています。

特徴 演習・実習中心の少人数制授業

学生が自ら調べ、考え、発表し、討論する力をつけることを重視し、カリキュラムを構成しています。少人数の講義やゼミで、法学、政治学、経済学、社会学の基礎をマスターし、考える力、読む力、調べる力、書く力、プレゼンテーション（発表）する力、ディベート（討論）する力を着実につけていきます。文献や資料の調査・講読やフィールドワークなどを通じて現実の社会に触れて観察・分析する授業のほか、社会調査の方法、統計分析の方法、コンピュータを利用したデータ解析などの授業・実習も充実しています。

3・4年次にはゼミを選択し、学生が自ら研究したいテーマについて本格的な研究を行い、成果を卒業論文にまとめます。優秀な論文には賞（生活社会科学研究会賞、花経会賞）も準備されています。知的冒険を私たちと一緒にしてみませんか。

THE VOICE OF A STUDENT

多角的な学びで“社会”も“自分”も考える

複数の学問に触れることで、知識や視点が広がるだけでなく、多様な価値観を吸収できるようになり、自分自身の生きやすさにも繋がると感じています。生活に密接した社会現象に着目することで社会課題を自分ごととして捉えられ、仲間との議論も深まり、学びが楽しくなります。

小川 真穂さん 4年

第1のプログラム：生活社会科学主プログラム
 第2のプログラム：生活社会科学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

多様な家族形態の法的保護

家族形態が多様化している現代において、全ての人が、その性自認や性的指向、健康状態等にかかわらず、家族の形成について自己の意思で決定することができ、性と生殖に関する権利を不当に制約されることなく自らの幸福を追求できる社会の実現に向けて、一緒に考えていきましょう。

デアウカンタラ マルセロ 准教授

研究分野：法学（家族法、比較法）

カリキュラム（主+強化プログラム）

	主プログラム	強化プログラム			
1年次	生活社会科学概論 人間生活論 家族関係論 ジェンダー論 応用生活統計学 社会保障論	法学・政治学	経済学	社会学	ジェンダー研究
2年次	生活社会科学演習 社会統計学 生活関連法 ① 生活政治学 ② 家政経済学概論 消費者経済学 ③	生活と行政 生活法学 財産と法 労働法 刑事法 イタリア法史 など	生活経済学 ⑥ 労働経済学総論・各論 ⑦ 企業経営論 生活と財政 生活と金融 消費者教育論 国民経済と生活 国際経済と生活 など	社会福祉学 ⑧ 児童福祉論 地域社会論 老年学 人口学 生活調査法 生活社会調査実習 など	ジェンダー政策論 政治とジェンダー 比較ジェンダー論 法女性学 など
3年次	演習Ⅰ 演習Ⅱ 家族法 ④ 家族社会学 ⑤				
4年次	卒業論文				

科目紹介

① 生活関連法：憲法・民法・刑法などの基本判例を生活者の視点から検討する。グループ毎に担当判例を決め、自分たちで判決文や関連学説を調べて発表し、皆で討論する。

② 生活政治学：国民の中にさまざまな利害や価値観が存在する中で、一人ひとりの生活に直結する政策がどのように決められるのかを、ディスカッションを交えながら学ぶ。

③ 消費者経済学：消費者に関わる諸問題（消費者保護、独占・寡占、医療・介護、環境など）を経済学の立場から研究し、社会生活で必要とされる経済学の基本を身につける。

④ 家族法：家族法の基本的な知識を修得することを目的に、現代の日本社会が直面する家族法の問題をはじめ、さまざまな国の家族法についても具体的な事例を挙げながら幅広く分析する。

⑤ 家族社会学：結婚・パートナーシップ、妊娠と出産、家事労働とケア、子育てなど、家族に関するさまざまなトピックスを社会学の視点から学ぶ。

⑥ 生活経済学：私たちが生涯を通じて主体的に豊かに生きるために、人間の労働力が生活とどう関わっているのかを解明するとともに、未来を「豊かに生きる」方法を模索する。

⑦ 労働経済学総論：働くこと（雇用構造、賃金構造、雇用慣行）について、個人および企業の行動について、理論的、実証的に学ぶ。その上で、男女間の格差問題の日本の特徴をもたらしているものは何か、受講者とともに考察する。

⑧ 社会福祉学：制度やサービス提供の仕組み、福祉専門職の労働環境、社会福祉と社会的価値・文化との関わりなどを取り上げ、福祉社会の進むべき方向を展望する。

教員の研究分野

教授 小谷 眞男	法学（生活法学、比較法文化史、イタリア法）
教授 大森 正博	経済学（消費者経済学、公共経済学、医療経済学）
教授 斎藤 悦子	経済学（生活経済学、生活経営学）
教授 申 琪榮	政治学（比較政治学、ジェンダーと政治）
教授 西村 純子	社会学（家族社会学、家族関係論）
准教授 デアウカンタラ マルセロ	法学（家族法、比較法）
准教授 豊福 実紀	政治学（生活政治学、日本政治、公共政策）
准教授 脇田 彩	社会学（社会福祉学、社会階層論、ジェンダー論、社会調査法）

取得できる主な教員免許・資格

学芸員、社会調査士
 中学校教諭一種免許状（家庭）
 高等学校教諭一種免許状（家庭）
 ※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 「卒業論文」と「ゼミ」は、皆さんの創造と表現の場です



3・4年次の「ゼミ」は、学生生活で皆さんが全力を尽くして、自分を表現できる場所です。各ゼミでの研究・学修活動は、テキストの輪読と議論、グループ研究、研究に関連する公的機関、企業等を訪問見学するなどさまざまです。ゼミで私たちがもっとも重視しているのが、学生が自ら調べ、自ら考える自発的な研究の心です。その集大成が卒業論文であり、皆さんの研究・学修生活の最大のイベントとなります。

生活文化学プログラム

暮らしを見つめ、今日を捉えたその先に 未来の文化と、世界の明日が見えてくる

生活文化学は、日常生活に関わるさまざまな文化事象を対象として学際的に考究する学問です。文化には、美術・思想・文学・歴史などさまざまな分野とアプローチがあります。生活文化学プログラムでは、領域を横断するかたちで、生活に関わる「もの」と「こと」を歴史と今日的視野で探究しています。生活文化学は、衣食住からデザインや風水、恋愛・結婚や家族や家庭に関する思想など、生活に関わる文化すべてを対象にします。真に豊かな生活とは何かという「生活の理念」を考え、利害が交錯する今日の社会で解決に向けて行動できる知性と感性を養います。生活をテーマに、新しい文化論の構築を目指します。

詳細はこちら▶
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/humanlife/aesthe/index.html>



目的 生活を見つめる知性・感性を磨く

文化は生活の中から始まります。そして、よりよい生活には、さまざまな価値観の継承と発展が求められます。生活文化学プログラムでは、生活文化のよき担い手となり、それをリードする能力を養います。現代生活における諸問題を自ら発見し、それに対し、解決できるような幅広い知識と判断力を4年間で身につけていくための教育が行われています。

授業では、古今東西の生活文化をさまざまな切り口で捉えています。美術や文学、日本と欧米の文化、住まいと工芸と服飾、子どもを中心とした、ユニークな文化論が用意されています。

卒業後は日本と海外の生活文化の交流に貢献する人材として、民間企業への就職者や公務員・教員のほか、美術館・博物館の学芸員や研究者なども多数輩出しています。

特徴 身近なテーマ・体験を通して学ぶ

民俗学、比較文化論、服飾史、保育学の各領域の基本科目を履修し、生活文化学の基礎を学びます。さらに、各領域を深化させるために資料の分析・解釈の方法を学ぶ必修の講義科目があります。3年次から始まる演習では、文献資料や図像資料の解釈の方法を学び、また、欧米の論文、著作の講読を通して生活文化の視野を広げます。密度の濃い指導を受けられる、少人数教育です。

身体を通して生活文化学を学ぶ実習も特色です。服飾文化実習では実際に洋服や和服を制作することにより、身体を通して服飾文化を深く学んでいきます。生(なま)の生活文化を経験する野外のフィールドワークや、博物館・美術館見学などの機会も充実しています。

THE VOICE OF A STUDENT

文化の糸を紡ぎだす

すべての文化は対等で素晴らしい価値があり、その背景には人々の生活が存在します。なかには極めてささやかな生活ゆえに、そのまま埋もれていくものも少なくありません。私たちは、そういった日常のなかから、かけがえのない文化の糸を自らの視点で紡ぎだす探究をしています。

林 真桜さん 3年
第1のプログラム：生活文化学主プログラム
第2のプログラム：生活文化学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

都市のフィールドワーク

民俗学というと農山漁村を対象にした伝統的な生活を研究するというイメージがあるかも知れません。私は福岡市という都市をフィールドにして、高度経済成長期からの生活の変化を研究しています。例えば、団地、冷蔵庫など家電製品の普及による変化、食生活の変化などです。

宮内 貴久 教授
研究分野：民俗学、文化人類学

カリキュラム(主+強化プログラム)

分野	主プログラム			強化プログラム	
	講義		実習・演習	講義	実習・演習
1年次	生活文化学概論 生活科学概論 生活社会科学概論 被服学概論	児童学概論-1 人間生活論 生活造形論 民俗学-2	服飾文化概論 比較生活文化論 保育実践論		共創デザインPBL (LIDEE演習) I*
2年次	服飾史論 服飾史資料論-3 比較生活文化史 I 比較生活文化史 II 民俗文化史論 歴史民俗文化論-4	保育デザイン論 発達と文化 服飾史 I 服飾史 II	被服製作実習	生活文化学専門英語 民俗文化史各論 環境デザイン論 美学・芸術学 生活文化論 生活造形史 工芸史 地域文化論 現代文化論 文化情報論 西洋服飾論 日本服飾論 服飾文化各論 生活芸術論 児童文化論	服飾制作実習 服飾文化実習 生活文化実習 民俗文化史演習 比較文化論演習-6 日本服飾史演習 保育デザイン論演習 服飾文化論演習-7 共創デザインPBL (LIDEE演習) II*
3年次			比較文化論基礎演習 民俗文化史基礎演習 日本服飾史基礎演習-5 服飾文化論基礎演習 保育デザイン論基礎演習		
4年次	卒業論文		生活文化学論文演習 I 生活文化学論文演習 II		

※ LIDEE: Life Innovation by Design & Engineering Education ワークショップ型のデザイン演習授業。

科目紹介

1 児童学概論：学際的な視点から児童学に接近する。本学には、日本で最も歴史のある附属幼稚園を始め、いずみナーサリー(学内乳児保育所)、認定こども園(平成28年設置)がある。この3園についても紹介し、保育という営みについて学ぶ。

2 民俗学：家族のあり方、衣食住、正月や盆などの年中行事、結婚式や葬式などの人生儀礼、民俗宗教、昔話や伝説など、日本文化、特に庶民の生活文化・民俗文化について学ぶ。

3 服飾史資料論：古代から現代に至る西洋服飾の歴史を、図像資料を中心に概観する。各時代における服飾の様式とその特徴について理解する。

4 歴史民俗文化論：人間が自らが暮らす空間をどのように認識しているか、さらに都市や村、住居をどのようにして造り上げてきたか民俗学、文化人類学の立場から考察する。特に日本における風水の受容について論じる。

5 日本服飾史基礎演習：明治期以降の衣生活の変遷や服飾を巡る人々の価値観の変容について、具体的な事例やモノを通じて探っていく。

6 比較文化論演習：比較文化論という観点から、近代日本の「生活と芸術」の関わりについて考察する。

7 服飾文化論演習：欧米の服飾を対象とし、服飾史研究の基本となる資料分析の方法を学ぶ。文献・図像資料を通して、時代特有の感性、生活意識を探る。

教員の研究分野

教授	宮内 貴久	民俗学、文化人類学
教授	鈴木 禎宏	比較生活文化論
教授	刑部 育子	児童学、保育学
准教授	新實 五穂	服飾文化論、西洋服飾史
准教授	難波 知子	生活造形論、日本服飾史

取得できる主な教員免許・資格

学芸員
中学校教諭一種免許状(家庭)
高等学校教諭一種免許状(家庭)
※教員免許の詳細はP022各種教育職員免許状の表をご確認ください。

TOPICS | 街に飛び出し、現在を知る 東京そのものを学びの場として



授業が開設されるのはキャンパス内だけではありません。上野・池袋・東京など、東京23区内の主要ターミナル駅へのアクセスに優れた立地を活かし、博物館や美術館、国会図書館なども生活文化学のステージになります。都内各地で開催されるさまざまなイベントも格好の学びの場として活用されています。

今の時代に生き生きと息づく文化を目で見、肌で感じ、足を使って確かめていく。その一つひとつの体験が、明日の生活文化をつくる原動力となって蓄積されていくのです。

心理学プログラム

人を見つめ、人の不思議を理解し、人を支えるところを科学し、
 ところと向き合う力は人と社会を成長へ導く

詳細はこちら▶
<https://www.hles.ocha.ac.jp/ug/psy/index.html>



現代社会には生活場面における判断・意思決定、対人認知、コミュニケーション、心理的問題（うつ、自殺等）、発達・健康上の問題（発達障害、高齢化等）、災害・犯罪、避難生活、非行・いじめなど、複雑で多様な問題が存在します。心理学は、人間の心理のプロセスを科学的に解明し、エビデンスに基づいて、社会的問題や課題の解決を目指す学問領域であり、人間生活のさまざまな場面で横断的に、さまざまな領域と学際的に関わる学問です。

ところを科学し、ところと向き合う力は自らの生きる力となり、人を支援する力にもなるでしょう。

目的 Scientist-Practitioner (科学者-実践家)の養成

心理学科では、心理学の基礎教育と共に、生活の実践に活かす教育を行います。つまり、さまざまな生活環境・場面における人間の心理・行動に対し、その基礎的なプロセスと機能への深い理解と科学的な見方を培い、それを課題の発見と問題の解決に活かす力を養います。そして、人に対するあくまでも真摯な姿勢と科学的方法を身につけ、心理系の資格を取得しながら、さまざまな場面で実践的役割を果たし、社会貢献を行うことができる人材、すなわち Scientist-Practitioner (科学者-実践家)の養成を学科の目的としています。

特徴 理論と実践を系統的に、段階的に学ぶ

心理学科の教育プログラムは、基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の科目群を融合した形で構成されています。これにより、1) さまざまな生活領域の課題から問いを立て、実証する科学的探求を志向する人材、2) 科学的実証の視点や方法論を獲得し、各種の生活領域に応用する実践的視点とスキルをもつ人材育成が可能となるのです。

さらに心理学科では、基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学とを融合した新たな専門領域として、「認知・生物系」「社会・福祉系」「医療・健康系」「発達・教育系」の4つの系列を設置し、それぞれに専門応用講義科目群、専門応用演習科目群を配置しています。

THE VOICE OF A STUDENT

すべての人の「ところ」に寄り添うために

「ところ」のあり方は十人十色です。多様性を重んじる現代社会において、心理学を学ぶことは心理士を目指すだけでなく、どのような環境でも役立つと思います。本学科ではエビデンスに基づいた心理学の知識を身につけ、人の「ところ」との向き合い方を学ぶことができます。

岩間 春日さん 3年
 第1のプログラム：心理学主プログラム
 第2のプログラム：心理学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

心の可塑性

心理学を学ぶほど、自分の心を簡単にコントロールすることはできないと気づくでしょう。しかし同時に、心は他者との対話や関わりの中で豊かに広がる可塑性を持ち、環境や経験によって変化しながら、人生を新たに形作っていきける力を持つことも知るはず。

平野 真理 准教授
 研究分野：臨床心理学、パーソナリティ

カリキュラム (主+強化プログラム)

分野	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	こころの科学 ¹ 心理学研究法 心理学選択基礎 認知心理学概論 ²	発達心理学概論 ³ 社会心理学概論 ⁴ 臨床心理学概論 ⁵	心理学基礎演習 ⁶	
2年次	心理学統計法：基礎 ⁷ 心理学統計法：発展 ⁷ 認知神経科学 学習と言語の心理学 応用社会心理学 健康心理学	心理臨床アセスメント 発達臨床心理学 心理療法学 障害臨床心理学 コミュニティ心理学 感情・人格心理学	心理学基礎実験演習 ⁸ 心理学基礎実践演習 ⁹ 心理学実践演習：質問紙法 心理学実践演習：質的研究法	臨床医学概論 産業心理学 家族心理学 福祉心理学 司法心理学 学校臨床心理学
3年次	心理臨床に関する法と制度 心理学専門英語 ¹⁰	認知心理学演習 認知発達心理学演習 社会心理学演習 ジェンダー心理学演習 健康心理学演習	障害臨床心理学演習 心理療法学演習 人格発達心理学演習 犯罪心理学演習 心理支援学演習	心理職の職業倫理 心理臨床実習Ⅰ ¹¹ 心理臨床実習Ⅱ ¹¹
4年次	卒業論文			

科目紹介

1 こころの科学：基礎・実証系から臨床・実践系まで、心理学の諸領域の基礎的知見や考え方を学ぶことにより、学問的俯瞰能力を習得する。

2 認知心理学概論：人間の認知処理過程（知覚・注意・記憶・感情など）について、行動科学や神経科学の観点から学ぶ。

3 発達心理学概論：発達心理学の基礎的な理論、幼少期の認知や社会性の発達、児童期の学習に関する理解を深めるとともに、思春期、青年期、高齢期の発達と課題についても学ぶ。

4 社会心理学概論：自己、他者、集団、対人関係など、社会的行動に関わるさまざまな側面についての研究内容や研究方法を学ぶ。

5 臨床心理学概論：臨床心理学の基礎的知識を習得することを目指して、臨床心理学の成り立ちや代表的理論について学ぶ。

6 心理学基礎演習：心理学とはどのような学問なのか。資料収集、文献講読、専門家のインタビュー、導入レベルの外国語の専門書の講読、発表を通して、理解を深める。

7 心理学統計法：不確実性の大きい人間の心理や行動の原理を読み解くうえで必須となる統計的なデータ解析について、理論と実践の両面から学ぶ。

8 心理学基礎実験演習：教育心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学、認知心理学における心理測定・実験・調査の基本技術を習得する。

9 心理学基礎実践演習：心理実践活動を行うための知識と技能を身につけるため、心理面接における態度や技法、心理検査の実施方法等の基本技術を習得する。

10 心理学専門英語：心理学の主要領域の英語論文を講読する。各領域の研究テーマや方法論について理解を深めるとともに、心理学の国際的な研究動向について学ぶ。

11 心理臨床実習Ⅰ・Ⅱ：保健医療・教育・福祉・産業・司法等の領域における心理に関する支援、多職種連携の在り方、心理職の職業倫理等について、学内外で実習を通じて学ぶ。

教員の研究分野

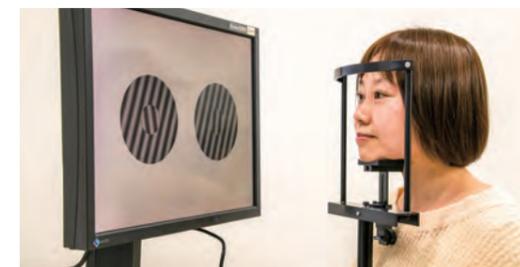
教授 石丸 径一郎	ジェンダー心理学、認知行動療法	教授 山田 美穂	身体的心理療法、援助者養成教育
教授 上原 泉	発達心理学、認知心理学	准教授 伊藤 大幸	教育心理学、発達心理学
教授 大森 美香	健康心理学	准教授 今泉 修	認知心理学、実験心理学
教授 坂元 章	社会心理学、情報教育	准教授 砂川 芽吹	発達障害児・者、臨床心理学
教授 高橋 哲	犯罪心理学、臨床心理学	准教授 平野 真理	臨床心理学、パーソナリティ

取得できる主な教員免許・資格

公認心理師^{*}、認定心理士
 社会調査士、学芸員

^{*}※在学中に「公認心理師」養成のための指定科目をすべて修め、卒業後、以下(1)または(2)のいずれかを満たすことで、公認心理師国家試験の受験資格を得ることができます。
 (1)大学院に進学し、指定科目をすべて修めて修了すること
 (2)厚生労働省・文部科学省が指定する機関において、指定された期間の実務経験を得ること

TOPICS | 多様なキャリアに生きる総合的な心理学の学び



心理学科では、こころに関する理論に加えて、文献を読み解く力、調査や実験を緻密にデザインする力、そして集めたデータを解析してエビデンスを見出す力を養うことができます。これらの能力は、学術的研究だけでなく、社会のさまざまな領域で活かされます。心理学科の卒業生は、カウンセラーなど対人援助職に限らず、データサイエンスや技術開発の分野でも活躍しています。卒業後の進路は、大学院進学、民間企業就職（コンサルティング、IT関連等）、公務員（国家公務員、家庭裁判所調査官補等）と多岐にわたります。

共創工学部

Faculty of Transdisciplinary Engineering

人間環境工学科
文化情報工学科

工学と人文・社会科学の知を協働させ、
社会と共に未来の環境、文化を創り出す。

[アドミッション・ポリシー]

共創工学部は、幅広い自然科学・人文・社会科学的教育と、工学とデータサイエンスの専門性を協働させることで、新たな価値を創出し社会でその成果を実践することを学ぶ学部です。これまで工学領域では様々な技術が開発され、その成果として私たちの生活は豊かに便利になってきました。しかし、その一方で環境負荷の増大や格差の拡大など、様々な社会上、倫理上の課題も浮上し、現在は、多様な人びとを包摂し、環境に優しい新発想の技術が社会で強く求められるようになってきました。

この社会の要請に対し、本学部では、次のような学生を求めます。

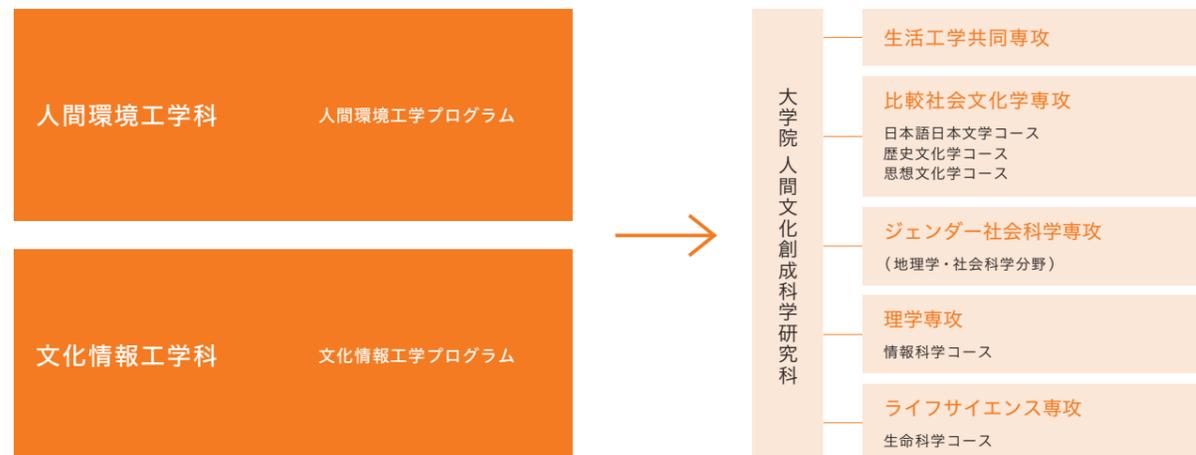
1. 工学専門領域が連携しながら、人文・社会科学と協働し、新しい技術や文化を創り、社会との対話を通じて新たな価値を実践・普及するグローバルリーダーを目指す人。
2. 自然科学・工学と人文・社会科学の協働、データサイエンスやICT(情報通信技術)に強い興味を持つ人。
3. 科学技術を用いた社会や文化のイノベーション推進に意欲を持つ人。

共創工学部は、工学と人文・社会科学を協働させ新たな技術や文化すなわちモノやコトを考案・創造することを目的とする新しいコンセプトの工学部です。自然科学を基礎とし、社会と対話しながら新しい技術を実装・普及する人間環境工学科と、データサイエンスの手法を活用し、人文・社会科学と工学を協働させて新しい文化や価値を創り出す文化情報工学科の2学科で構成されます。社会における課題を解決し、社会・文化のイノベーションを目指して、工学設計やデータサイエンス等の技能を習得するプログラムだけでなく、課題を発見し解決策を考案する力、それを具体化させ、かつ社会との対話を通じて普及させる力を涵養するプログラムを備えています。また一級建築士、二級建築士の受験資格、博物館学芸員、GIS学術士、社会調査士、地域調査士の資格取得に必要なカリキュラムも用意しています。社会と共に未来を創る、また工学に文系の知恵を併せて共に新しい技術や文化を創る、それが「共創工学部」の理念です。



学部 Web サイト
<https://www.te.ocha.ac.jp/special/>

共創工学部から進学が想定される大学院専攻課程(大学院の改編などがある場合、変更します)



共創工学部の特徴

共創工学部の設立目的

テクノロジーは私たちの社会や文化に欠かせないものとなり、未来の創造に大きな役割を果たします。環境をはじめ、テクノロジーが取り組む課題には人文や社会科学からの視点の重要性が増えています。共創工学部には、工学と人文・社会科学の知が協働し、共に未来の環境、社会、文化を創るという意味が込められています。また、協働を進める上で大きな役割を果たすのがデータサイエンスです。ここで学んだ学生が将来、さまざまな垣根を越え、多様な人々を巻き込み、新たな意味や価値を創造していくことが共創工学部の狙いです。

共創工学と従来の工学との違い

これまでの多くの工学では分野毎に最先端の技術を進化させ極めることで豊かな生活の実現に寄与してきました。一方でこれからの未来社会の創造には生活者の多様性を考慮し、かつ持続性をもつ社会の実現が求められます。そのためには専門的な知識(専門知)が必要なのはもちろんですが、社会的な課題を発見し(発見力)、解決策を考案する(発想力)だけでなく、それを具現化し(デザイン力)、社会との対話によって(対話力)普及させるための、各能力を備えることが必要です。共創工学ではこれらの能力を涵養するプログラムを備えていることが特徴です。



社会実践力を養う特色ある科目

学部の共通科目として社会実践力を養う科目を用意しています。例えば1、2年次のPBL(Project Based Learning)科目としてLIDEE(Life Innovation by Design & Engineering Education)演習がありますが、企業や各分野の専門家を招き、異なるさまざまな課題・テーマを取り上げ、学生と専門家が共に取り組む内容です。見学・実地調査・リサーチを行ったり、グループでアイデア共創に取り組みます。社会実践力として重要な発想法を学び、実行力、リーダーシップ・スキルを実践的に習得することができます。

求める人材は理系も文系も

社会的な課題に対し、設計によってモノを作り、モノを通じて課題を解決し社会を改善していくこと、それが工学です。そのためには社会の知識が必要となります。また共創工学部では、工学に基づいて新しい文化を創り出し、社会を変えていくことができると考えています。新しい文化の創造には、文系の知識が必要となります。理系はもちろん、文系を志す方々にも活躍が期待される、それが共創工学部が独自に打ち出す新しい理念なのです。例えば、文化情報工学科では一般選抜の個別試験(前期日程)において数学を選ばない受験が可能で、理系にも文系にも門戸を開き、広く人材を求めている学部です。

人間環境工学科

人間環境工学科は、人間と社会に密接にかかわる課題として、人の生活・医療・健康をまもる「人間領域」、建築や都市・インフラなど安全に関わる「環境領域」、生活材料や医療で利用される材料の開発に資する「マテリアル領域」の3領域を扱います。各領域でモノや仕組みを工学的に設計するために不可欠な工学専門知と、社会に実装・普及するために必要な社会科学知の協働により、持続可能な社会の構築に向けたイノベーションを目指しています。

文化情報工学科

文化情報工学科は、人文知に工学を協働させることにより生み出される人間の文化を尊重する新しいタイプの工学です。情報・工学技術を用いて、文学、言葉、芸術、歴史、地理、思想などに関する多種多様な情報をデジタル化(収集・生成・可視)し、分析を行い、新たな作品や価値を創出します。工学と人文の双方が学べる学科です。

人間環境工学プログラム

人と環境のための新たな技術・社会の創造
持続可能で、多様性を包摂する社会の実現のために

今、社会は大きく変化し、グローバル化とデジタル化のなかで、経済発展とともに幸せで持続可能な社会の到来が期待されています。気候変動による環境の課題や、高齢化などの社会課題に直面して、わたしたちの身近な生活にも影響しています。こういった課題に取り組み、多様な人を包摂する社会を実現するためには、多様な人がモノづくり・コトづくりに参加し、新たな価値を発見する視点・技術が必要です。人間環境工学は、工学・自然科学を基礎として、新しいテクノロジーやデータサイエンスを用いてこれに取り組みます。多様な人々と対話しながら、デザイン思考を通して、新たなモノやコトづくり、それを普及させるために社会科学を協働させて、新たなイノベーションを推進します。

詳細はこちら▶
<https://www.te.ocha.ac.jp/ug/eng/index.html>



目的 人間環境工学科プログラムの目的・目標と教育研究

これまで、高度な社会基盤の形成に貢献してきた工学・自然科学を、これからはそこで暮らすさまざまな人々や社会にフォーカスして、安全や安心、快適性向上などに活かします。学生は、広く工学・自然科学の基礎知識を学びながら、自らの興味関心に基づいて課題を発見するために、全学、共創工学部や他学部の提供する人文学・社会科学の諸分野を学びます。その上で、特に社会との対話、さまざまな分野との共創、成果を社会に還元する技術を身につけるために、デザイン思考、設計技術、データサイエンスなどを学びます。さらにワークショップやインターンシップといった、多彩で実践的な演習に取り組み、コミュニケーションや社会実装について理解します。これにより「多様性の包摂」から新しいイノベーションを推進する能力を磨き、人間中心の工学技術の推進を目指します。

特徴 人と環境のデザイン・エンジニアリング

人間環境工学は、3つの工学専門領域で構成しています。1つめは人間の活動そのものを直接的に工学技術による支援対象とする「人間領域」で、人間工学、健康科学、生体医工学、生物学、人体と自然人類学などに広がります。2つめは、わたしたちを取り巻く建築から都市までを対象とする「環境領域」で、インテリア、住宅、建築の計画と設計、建物の歴史と保存、都市気候、都市デザイン、エネルギーとグリーンインフラ、水環境や資源循環などを扱います。3つめが、工学設計を材料の面から支援強化する「マテリアル領域」で、生活にかかわる機能性繊維材料や、人に触れる医薬にも利用されるバイオマテリアルなどです。社会科学を用いて持続的・包摂的な社会の在り方からスタートし、上記の互いに関連しあう工学諸分野を協働し、データに基づくデータサイエンス、デザイン思考、設計や生産を行い、「共創」して社会課題の解決につなげる力を養います。人間環境工学科で取得できる学位は、学士(工学)です。

THE VOICE OF A STUDENT

工学の可能性を無限大に

私は昔から「つくること」が好きでこの学科を志望しました。本学科の特徴は工学だけではなく幅広い分野の学問を学び、協働させるという点にあると思います。異なる学問を組み合わせることで、様々なアプローチが生まれ、より人に寄り添った技術や仕組みを生み出すことができます。

塚見 舞衣子さん 2年
第1のプログラム：人間環境工学主プログラム
第2のプログラム：人間環境工学強化プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

気象と都市・建築、生活者の関わりを知る

私たちの周りの生活環境は都市・建築のデザインや様々なスケールの気象現象によって決まっています。気象と都市・建築、生活者の関わりを計測機器やツールを用いながら把握し、多様なフィールドの人と問題意識を共有しながら、よりよい都市・建築について考えていきましょう。

河合 英徳 准教授
研究分野：建築環境、都市気候

カリキュラム(主+強化プログラム)

分野	共創工学共通科目	人間環境工学専門科目	
		必修科目・選択必修科目	選択科目
1年次	共創工学総論 共創プログラミング 共創デザイン PBL(LIDEE演習)Ⅰ	基礎化学 工学基礎数学 データサイエンス(基礎)	工学基礎解析学 工学基礎物理学 データ計測処理演習 有機化学 身体形態と文化
2年次	共創デザイン PBL(LIDEE演習)Ⅱ デザイン思考とロジックモデル 共創工学フィールドワーク 知的財産論 技術と倫理	環境心理と調査法 材料基礎実験	統計学演習 環境衛生学 センサーと人間工学 生体計測制御工学 機器分析演習 建築環境工学 建築意匠論 建築環境計画論 都市デザイン 建築法規 都市デザイン 建築法規 応用建築構造 建築材料学 建築設備学 材料とデザイン 設計製造演習
3年次	共創インターンシップⅠ 共創インターンシップⅡ(建築) 共創工学特別講義	環境工学実験実習 人間工学実験実習 生活工学実験実習 デザインPBL 環境共生PBL 人間健康PBL 生活材料PBL	応用データ解析 水環境工学 生体材料学 第四紀学 機械学習 データマイニング 生活材料物性 生体電気電子工学
4年次	卒業研究演習	共創輪講 卒業研究	設計製図演習Ⅲ 生産とデザイン システム工学 デジタルファブリケーション演習 サステナブル環境論

※第2のプログラムとして文化情報工学学際プログラム(共創工学部が開設)、情報科学副プログラム、生命情報学学際プログラム(理学部が開設)、消費者学学際プログラム(生活科学部が開設)を選択することも可能です。

科目紹介

1 工学の基礎科目：数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を深めて、工学へ応用するしくみのもとになる、工学基礎数学、工学基礎解析学、基礎化学、工学基礎物理学について学ぶ。データサイエンス(基礎)では、人文・社会分野のデータを用いて統計的なもの見方や考え方を理解し、課題発見力および課題解決のためのデータ分析の実践力を身につける。

2 LIDEE演習ⅠおよびⅡ：企業や専門家を招き、異なるさまざまな課題・テーマを取り上げ、学生と専門家が共にワークショップで課題解決や新しい提案に取り組む。専門家の講演や見学・実地調査・リサーチなどを行ったり、発想法などを学び、グループでアイデア共創に取り組む。基本的な発想や共創を学び、経験を積み、実行力とリーダーシップ・スキルを実践的に習得する演習である。

3 建築関連科目、設計製図演習：建築に関する専門科目が配置されており、所定の科目、所定の単位数を履修した場合、一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格が得られる。ものづくりの基本は設計であるといわれる。設計製図演習では、環境や空間、機械などを扱う。講義科目では計画法を学びながら、同時に、住宅や公共施設、都市空間のあるべき姿を、

デザイン性、人間工学、心理学などの観点から分析し、設計する。美しさや機能に加え、ユニバーサルデザインなど社会との関連の視点も取り入れる。

4 BIM演習：建物や都市環境をデジタルで扱う最新の技術知識にふれる。現実都市の情報をもとに仮想世界にデジタルツインを構築し、さまざまなシミュレーションができたらどうなるか？最新のドローンが都市や住まいの中を飛ぶようになったら、都市や住まい、生活はどう変わるのか？などデジタルトランスフォーメーション(DX)を加速させる技術について知る。

5 環境工学実験実習・人間工学実験実習・生活工学実験実習：環境工学、建築学、人間工学、人類学、生活工学など多岐にわたる実験・実習に取り組み、人間環境工学の基礎から応用までを習得する。

6 デザインPBL・環境共生PBL・人間健康PBL・生活材料PBL：それぞれのテーマで進行している研究プロジェクトに参加し、関連研究の調査、実地の調査の計画をたて、調査研究を実施する中で、実践的に研究の手法について学ぶ。

教員の研究分野

教授 太田 裕治	人間工学、生体医工学	教授 由良 敬	生命情報、生物物理学
教授 大瀧 雅寛	環境衛生、環境負荷低減	准教授 秋元 文	材料設計、ソフトマテリアル
教授 小口 正人	マルチメディア、情報ネットワーク	准教授 河合 英徳	建築環境、都市気候
教授 近藤 恵	自然人類、文化財科学	准教授 トリペッテ・ジュリアン	生体工学、健康科学
教授 長澤 夏子	建築計画、建築環境・設備	准教授 藤山 真美子	デザイン工学、建築学
教授 元岡 展久	建築設計、建築史・意匠	助教 雨宮 敏子	生活材料、高分子・繊維材料

取得できる主な教員免許・資格

一級建築士(受験資格)・二級建築士(受験資格)・木造建築士(受験資格)、学芸員、社会調査士

TOPICS | よりよい暮らしと環境を求めて 実験住宅Ocha House



暮らしの中でどのようにIT技術を活用していくかを研究するために、2009年、大学近隣にユビキタスコンピューティング実験住宅を建造し、さまざまな実験を進めています。たとえば居室内の照明のコントロール、遠隔地とのコミュニケーション支援のアプリケーション、高齢者支援やセキュリティシステムの提案など。サステナブルなエネルギー利用の検討のため、BIMモデルを作成し、シミュレーションを行なうデジタルツインの教育ツールとしても使用しています。

文化情報工学プログラム

情報・工学から「文化」の問題解決をはかり 社会と共に彩り豊かな未来を創る

「文化」は、人間の所産であるすべてのモノやコトを指します。文化として優れた文学や芸術のことをイメージしやすいですが、それらに加えて、衣食住をはじめとした人間の暮らしや振る舞い、人間のつながりや社会の仕組み、知識や価値などまでを含みます。こうした文化は、従来人文学・社会科学の対象でしたが、「文化情報工学」では、データサイエンスおよび情報工学でも扱うべき一般の問題として捉え、問題解決を加速させていきます。またこれは、従来の工学が大量生産体制を支える汎用技術体系を生み出してきたのに対して、特定の文脈・状況において生成される文化事象を対象にすることで、人間・文化を中心に据えた未来社会の貢献へ向かう、新たな工学の挑戦でもあります。

詳細はこちら▶
https://www.te.ocha.ac.jp/ug/cu_eng/index.html



目的 文理の知を組み合わせ、 新たな文化や価値を創造する

今日求められているのは、多様性を包摂し、持続可能であるだけでなく、豊かな文化に囲まれた社会生活の実現です。それに向けて人文学の知と工学の知の両方を活用しながら、新しい文化や価値を創り出す人材の育成を目指し、人文情報学領域とデータサイエンス・工学領域の教員が協力して教育研究を推進します。学生は、文系理系の別に拘らず、自らの興味関心に基づいて課題を発見し、文化情報工学科の諸科目の履修を基に、他学部提供の科目も加えて履修し、課題解決の実践を目指します。同時に、社会との対話、さまざまな分野との共創、成果を社会に還元することを意識しながら学習と研究に取り組みます。これによって、「個の尊重」「多様性の包摂」を踏まえながら「豊かな文化」へと結びつく価値を創造する能力を磨きます。

特徴 人文学×データサイエンス×工学

文化情報工学は、人文学とデータサイエンスと工学の3つの学問領域が協働する新しい学びの分野です。人文学とデータサイエンスが協働する学問分野は、国内外の学界で人文情報学と呼ばれ、人間の文化と社会に関する知識を基盤に、歴史、地理、思想、言語、文学、芸術などの諸分野の多様な資料（テキスト、地図、画像、造形、音声、映像、行動データなど）を、デジタル技術によって収集・加工し、データサイエンスの手法を応用して多角的に解析する分野として知られています。このような人文情報学の成果を、工学の知（技術とデザイン思考）と結びつけ、新たな文化や価値の創造、文化を取り巻く現状から生まれるニーズや課題の解決を行うのが、文化情報工学です。文化情報工学科で取得できる学位は、学士（文化情報工学）です。

THE VOICE OF A STUDENT

多様な興味が集まる場

文系でありながら、AIやデータサイエンスにも興味があり、本学科を志望しました。文系理系問わず幅広い知識が得られるため、視野を広げた上で自分の関心のあるテーマを追究できる点が魅力です。多様な興味を持つ仲間とも出会えて、新鮮で刺激的な毎日を過ごしています。

池澤 茉奈さん 2年
第1のプログラム：文化情報工学主プログラム

THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

これまでなかった新しいものを

私は日本古代の天皇制の研究をしています。1000年以上も前の人びとの残した記録を分析するのですが、現在は多くの電子データ化されています。歴史情報学では、これらのデータを使った他分野との協働を通して、これまでにない新たな研究手法の確立を目指します。

遠藤 みどり 准教授
研究分野：歴史情報学、日本史学

カリキュラム（主+強化プログラム）

分野	共創工学共通科目	文化情報工学専門科目	
		必修科目・選択必修科目	選択科目
1年次	共創工学総論 共創デザインPBL(LIDEE演習) I 共創プログラミング	文化情報工学総論-1 文化情報工学基礎演習 インターネット工学 データサイエンス(基礎)-2	工学基礎数学 工学基礎解析学 数理基礎論 データ構造とアルゴリズム コンピュータシステム序論 設計製図基礎演習
2年次	デザイン思考とロジックモデル 共創デザインPBL(LIDEE演習) II 共創工学フィールドワーク 知的財産論 技術と倫理	データサイエンス(中級) データサイエンス(上級) 文化情報デザイン工学	確率序論 データ解析序論 統計学演習 センサーと人間工学 マルチメディア-3 コンピュータアーキテクチャ I コンピュータアーキテクチャ II コンピュータネットワーク I
3年次	共創インターンシップ I 共創インターンシップ II (建築) 共創工学特別講義	機械学習 データマイニング 歴史情報学 地理情報学 言語情報学 文化情報学 思想情報学 芸術情報学	データベース工学 歴史情報学演習 地理情報学演習 言語情報学演習 文化情報学演習 思想情報学演習 芸術情報学演習 応用統計学演習 文化情報デザイン演習 データベース設計演習-5 情報倫理 情報と職業 コンピュータビジョン コンピュータグラフィックス ヒューマンインターフェイス
4年次	卒業研究演習	データマイニング演習-6 卒業研究	文化情報学研究 テキストアナリティクス研究 文化情報統計数理研究 文化情報CGV研究 文化情報デザイン研究 データベース研究

※ほかに人文学（一部社会科学を含む）の専門知識や考え方を学ぶ基礎的内容の講義科目を2科目選択して履修します。
※第2のプログラムとして人間環境工学学際プログラム（共創工学部が開設）、人文知に関わる副・学際プログラム（文教育学部・生活科学部が開設）、情報科学副プログラム（理学部が開設）を選択することも可能です。

科目紹介

- 文化情報工学総論**：文化情報工学の入門として学科の全教員がオムニバスで担当する科目。人文学とデータサイエンス、工学知が協働する文化情報工学の目指すところや方法、研究例について学ぶ。
- データサイエンス(基礎)**：文化情報工学の目的に即して人文・社会分野のデータを用いて統計的なものの見方や考え方を理解し、課題発見力および課題解決のためのデータ分析の実践力を身につける。
- マルチメディア**：マルチメディアを構成する多様なメディアと、それを支える基盤技術や人的知識について解説する。基礎理論から基盤技術や応用技術、メディア要素技術までを包括的に扱う。
- 人文情報学系講義科目**：人文学とデータサイエンスが協働する学問分野である人文情報学の動向について、歴史、地理、言語、伝統芸能、思想、芸術の各分野におけるトピックを取り上げて説明する。
- データベース設計演習**：リレーショナルデータベースにおけるSQLの基本的な使い方について学ぶ。また、NoSQLデータベースやマルチメディアデータベースの構築に関する基礎を学ぶ。
- データマイニング演習**：人文・社会分野のデータを用いてデータマイニングを行う。データの取得・加工・分析・結果の解釈という一連のプロセスを実践的に学習し、卒業研究の取組みにつなげる。

教員の研究分野

教授 伊藤 さとみ	言語情報学、言語学	教授 伊藤 貴之	コンピュータビジョン、マルチメディア
教授 宮澤 仁	地理情報学、人文地理学	准教授 坂田 綾香	統計科学、情報科学
准教授 埋忠 美沙	文化情報学、演劇学	准教授 土山 玄	テキストアナリティクス、統計学
准教授 遠藤 みどり	歴史情報学、日本史学	准教授 レー ヒェウハン	データベース、データ工学
助教 佐藤 有理	思想情報学、認知科学	講師 土田 修平	システムデザイン、人間情報学

取得できる主な教員免許・資格

学芸員、地域調査士、GIS学術士、社会調査士

TOPICS | 垣根を越えて多様な人々を巻き込む「共創」による多彩な学び



協力 ソニーグループ株式会社 場所 ソニーグループ品川本社 Creative Lounge

文化情報工学の共創が担う社会的役割は多岐にわたり、そこに貢献できるよう多種多様な形の学びの場を提供しています。その一つとして、協力企業との共同ワークショップや見学会を、カリキュラムのなかに組み込むなどして定期的に開催しています。さまざまな分野におけるイノベティブな企業の活動に間近で接することで、学生たちは学科で身につけてきた知識やスキルを社会とつなげるのか、その思考と手法を体験的に学びます。そしてこれは学生が自身の将来像を描くための貴重な機会にもなっています。

学部・学科の枠を越えて学ぶ 全学的学際教育

お茶の水女子大学では、学部・学科の枠を越えて、全学部の学生が履修できる3つのカリキュラムを用意しています。体系化された科目群から一定の科目数を履修すると、卒業時に履修証明書を得ることができます。

全学ジェンダー学際カリキュラム

ジェンダー・男女共同参画を学際的に学ぶ

お茶の水女子大学では、性差によらず個人の個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指してグローバルに活躍する女性人材の育成を行っています。

全学ジェンダー学際カリキュラムは、お茶の水女子大学で開講されているジェンダーに関する科目を体系化し、カリキュラム(科目群)として提示することにより、自分の関心を起点に、学際的・系統的に様々な角度からジェンダーや性・性別について学習することを目的としています。

本カリキュラムは基幹科目群(リベラルアーツ及び専門科目)と連携科目群から構成され、人文・社会・自然科学に基づく様々な科目が提供されています。

一定の科目数を履修した学生は、履修証明書(サーティフィケート)を得ることができます。将来さまざまな分野で活躍するときに、本学でジェンダーに関する幅広い知識を系統的に身につけ、男女共同参画を推進できる人物であることを示すことができます。

大学院に進学しジェンダーに関する問題を専攻する学生にとっては、多領域におけるジェンダーの学習をすすめ、ジェンダー研究の土台を築くことができます。また、学士・修士一貫教育トラックに選考された場合、大学院科目(とくに男女共同参画リソース副専攻プログラム科目)を受講することも可能です。



THE VOICE OF A STUDENT

多様な学びから育むジェンダーの視点

学部で「全学ジェンダー学際カリキュラム」の履修証明書を取得しました。主専攻だけでなく、自然科学や教育学など新たな角度からジェンダーについて学び、視野を広げました。他専攻の学生と異なる視点から議論することで一人ではたどり着けなかった考えに至ることも多く、幅広い知見が大学院研究の基盤となっています。大学院では「男女共同参画リソース・プログラム」を履修中です。突き詰めて考える日々の中で、知らない世界に触れるたびに知的好奇心が刺激されています。いつか体得した知識を実生活での課題解決に繋げたいです。

ジェンダー-社会科学専攻 博士前期課程2年
野村 菜月さん



全学データサイエンス学際カリキュラム

データを使いこなすためのスキルを学際的に学ぶ

データサイエンスとは、データを処理し分析することで科学や社会に有益な新しい知見を引き出す学問や方法論の総称です。データサイエンスは統計的あるいは計算的(情報处理的)手法にもとづいてデータを分析する手法であると同時に、人間的視点や専門知識と照合しながら知見を引き出す手法でもあります。

内閣府はAI戦略2019で、すべての大学・高専生(約50万人卒/年)がデータサイエンスのリテラシーレベルを習得し、さらに一定規模の大学・高専生(約25万人卒/年)が応用基礎レベルを習得することを目標として掲げました。

リテラシーレベル



すべての学生が統計学や情報処理学の基礎的応用的な知識を習得し、それぞれ専門分野でデータを使いこなす人材になるための科目群を提供

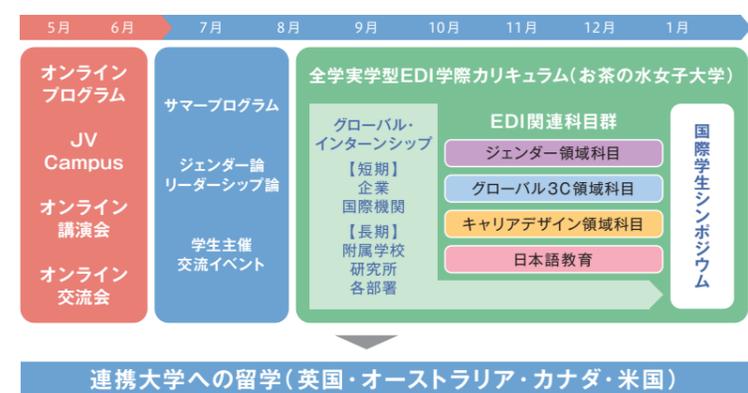
本学では、このような社会的な期待に応えるべく、数理・データサイエンス・AI教育を展開しています。2021年8月には「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に、2024年8月には「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」に認定されています。

応用基礎レベル



R言語・Python言語を用いた実習課題を体験することで、AI・データサイエンスの実践的能力を修得することを旨とする

全学実学型EDI学際カリキュラム



連携大学への留学(英国・オーストラリア・カナダ・米国)

育成する人材像

本プログラムでは、著しく変化する国際社会においてリーダーシップを発揮し、持続可能な社会の実現に貢献できるグローバルリーダーの育成を目指します。そのためには、地球規模の課題の解決を考える際に必要とされる理解力、コミュニケーション力、協働する3つの力を養い、東洋・西洋・ジェンダーの障壁を乗り越え、自らのキャリアをデザインすることのできる人材を育てる必要があります。

本学憲章には「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在し」、「海外との研究・教育上の人的交流・文化的交流を意欲的に進め、広く活動を展開し、国際社会において固有の存在感を発揮する」ことが掲げられています。それを実現するために、本学を拠点に国際社会でリーダーシップを発揮し得る人材を養成します。



公平性、多様性、包摂性を 実学の視点から学際的に学ぶ

プログラムの目的

EDIとはEquity(公平性)、Diversity(多様性)、Inclusion(包摂性)の略で、「実学型EDI」とは、英国・オーストラリア・カナダ・米国・インドの連携大学への留学とインターンシップを含む科目群の中で、公平性、多様性、包摂性の観点から、人々のさまざまなバックグラウンドを実学的に理解しうるグローバルリーダーを育成することを目的とする学際カリキュラムです。

特色ある副プログラム

複数プログラム選択履修制度では、特定の専門分野を中心とするプログラムとは別に、「領域融合型」の副プログラムも開設しています。現代社会で求められる新しい人材養成に対応するプログラムです。所属する学部第2のプログラムとして、あるいは所属に関わらない第3のプログラムとして履修できます。

文教育学部：副プログラム 日本語教育

日本語教育で始めよう、 あなたの中のグローバル化

日本語教育副プログラムの教育目標は、多様な言語、文化的背景を持つ学習者を理解し、彼らのコミュニケーション能力を向上させるための基盤となる理論や方法、専門性と実践力をもったグローバル社会の日本語教育専門家を育成することです。この副プログラムでの学びを基盤に世界に向かって羽ばたいてみてはいかがでしょうか。所定の26単位を修得することで、国家資格「登録日本語教員」取得のための一部試験および実践研修の免除を受けることができます。また、本学日本語教育コースの大学院は、日本における、第二言語としての日本語の教育・研究を牽引してきたと言っても過言ではありません。専門性を身につけたい人は、大学院進学を考えてみてはいかがでしょうか。

■ 専任教員・研究分野

教授 西川 朋美 第二言語習得、子どもの日本語教育
准教授 西坂 祥平 日本語教育学、言語教育方法論
講師 李 址遠 言語人類学、社会言語学、言語教育学
※ 2026年度新任教員が着任予定

■ 科目紹介

第二言語教授法演習Ⅰ・Ⅱ、社会言語学演習、多文化間人間関係論演習、日本語表現法概論、子どもの日本語教育学概論、日本語教育法演習Ⅰ～Ⅲ、日本語教育学研究法実習、日本語教育学概論Ⅰ・Ⅱ、異文化間教育学演習、日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語教育学特殊講義、言語と文化、多文化間交流論などの科目があります。



韓国・釜山外国語大学校で実施された海外日本語教育実習（修了式）

特色ある学際プログラム

複数プログラム選択履修制度では、特定の専門分野を中心とするプログラムとは別に、さまざまな分野にまたがる研究領域を学ぶ学際プログラムも開設しています。先端的研究や実践的分野で必要とされる人材養成に対応するプログラムです。所属する学部、また一部の所属に関わらない学科、コース第2のプログラムとして、あるいは所属に関わらない第3のプログラムとして履修できます。

理学部：学際プログラム 応用数理

現代を支え、未来を創造する学問

数学は、科学と技術の発展を紀元前から支えてきました。自然現象を読み解く物理学も、コンピュータや人工知能の動作原理も、数学によって作られています。「応用数理」はそのような「道具としての数学」を身につけるためのプログラムです。微分積分を用いて体系化された物理学は未来を予測する道具であり、天気予報やロボットの制御で中心的な役割を担っています。インターネットの検索技術では、点と線の世界を扱うグラフ理論、ベクトルの計算を扱う線形代数、そして確率論的な考え方が美しく融合しています。応用数理は未来に「違い」を生み出す力を与えてくれます。

理学部：学際プログラム 物理・化学

物質を科学する人に強力なアイテムを

本プログラムでは、物理学と化学の基礎を踏まえた学際領域で、科学を探究するための基礎を身につけることができます。物理学と化学の両分野にまたがる複合的な学際領域にアプローチし、当該分野で活躍するための知識や基礎力、さらに、より広い学際的視野を身につけることを目指します。入門的講義（基礎化学、物理学概論）や基礎実験（化学基礎実験、物理学基礎実験）、また、物理学と化学の主プログラムにも属する基礎科目（物理化学、量子力学など）と同時に、この学際分野に進むために有用な発展的専門科目（反応物理化学、ソフトマター物理など）を学ぶことができます。

理学部：学際プログラム ケミカルバイオロジー

生物のしくみを“物質”の視点から解き明かす

化学や生物学の基礎をもつ学生が、その知識や考え方を発展させつつ、物質の生物への作用を知り、生命のしくみをより深く分子レベルで理解することがこのプログラムの目的です。学際分野（薬学、生命工学、農学、食物科学など）へ進むための橋渡しとなるような知識を得ることも目指しています。化学主プログラムまたは生物学主プログラムを履修した学生が、それぞれ修得した知識を深化させながら学ぶ科目と、周辺領域に視野を広げて学ぶ科目（生体分子機能・反応学、有機化学、生物物理化学、分子細胞情報学、分子構造生物学、植物生理工学、細胞生物学、代謝生物学など）から12単位以上を選択履修します。

理学部：学際プログラム 生命情報学

生命の成り立ちを情報から探る

生命情報学学際プログラムでは、理学部の各種プログラムの基礎を修得した学生に対して、学際分野である生命情報学の基礎から応用までを提供します。各個人のゲノム情報を取得できるようになった今日、自分のゲノムを自らコンピュータ解析し、健康や福祉に利用することも当然になろうとしています。生命の情報を解析する学問として生まれた生命情報学（バイオインフォマティクス）の修得を目指し、本プログラムでは、生物学、進化学、情報科学、化学、統計学、物理学の基礎知識の融合と、さまざまな生命情報から新しい知見を抽出するために必要な論理力と技術力の習得を目標とします。

生活科学部：学際プログラム 消費者学

“消費者としての市民”に何ができるかを考える

「消費者学」は、消費社会における諸問題を文理の領域を超えて多角的に学ぶ、生活科学部ならではの学際教育プログラムです。一人ひとりの市民は、消費者としての一面をも合わせ持っています。“消費者としての市民”は、現代の高度消費社会に対してどのような働きかけができるでしょうか。食品や住居、医療など人間と環境に関する自然科学の基礎を身につけたうえで、生活文化や消費者問題の歴史を知り、政策動向を理解し、経済や企業の動きを分析するツールを学び、裁判事例から消費者の権利を考えることを通して、消費社会の複合的な諸問題に主体的に向き合う力を養います。



THE VOICE OF A STUDENT

ことばを学び、周囲を再発見する

ことばを通じて当たり前を考え直す。日本語教育を通して日本語を外国語として捉え直すと、周りのことも注意深く考え直すことができます。実は隣にいた多様な人と出会い直すことでことばや文化の違いは1本の境界線で示せるものではなく、幅を持っているということを学びました。

菱沼 絹夏さん 4年

第1のプログラム：グローバル文化学主プログラム
第2のプログラム：比較歴史学副プログラム
第3のプログラム：日本語教育副プログラム



THE VOICE OF A FACULTY MEMBER

バイリンガル・マルチリンガルを科学する

世界には複数の言語を流暢に使いこなす人もいれば、二つ目の言語（多くは英語）の学習でさえ苦勞する人もいます。そのような個人差はどこから生まれるのでしょうか。私たちが当たり前のように使っている日本語を出発点に、第二言語習得のメカニズムを一緒に考えてみませんか。

西川 朋美 教授

専門：第二言語習得、子どもの日本語教育

大 学 院

人間文化創成科学研究科

Graduate School of Humanities and Sciences

真の女性リーダー創出を目指す最高水準の研究拠点
世界に通用する俯瞰的視野と独創力に満ちた



優れた女性リーダーや研究者を輩出しているお茶の水女子大学。学部卒業後、大学院への進学を希望する学生が多いのも特長です。2024年度は、文教育学部23%、理学部73%、生活科学部41%の卒業生が本学大学院へ進み、国内外の他大学からも多くの学生が入学しています。お茶の水女子大学大学院「人間文化創成科学研究科」の博士前期課程と博士後期課程にはそれぞれ6つの専攻があり、少人数教育の利点を活かしたきめ細やかな指導の下、前期・後期を緊密に連動させながら専門性と基礎力をともに高めていきます。また、領域を超えて自在に展開する学際性を重視した多彩な教育と研究プロジェクトは、各機関から高い評価を受けており、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」(2013～2019年度)、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」(2021年度～)など、大型の競争的資金を多数獲得するに至っています。



大学院 Web サイト
<https://www.dc.ocha.ac.jp/index.html>

人間文化創成科学研究科 組織図

博士前期課程																							
比較社会文化学専攻				人間発達科学専攻				ジェンダー 社会科学専攻 定員 18名	ライフサイエンス専攻		理学専攻			生活工学 共同専攻※1	共創工学専攻 (仮称)※2 定員 10名								
定員 58名				定員 27名					定員 39名		定員 70名												
日本語日本文学コース	アジア言語文化学コース	英語圏・仏語圏言語文化学コース	日本語教育コース	思想文化学コース	歴史文化学コース	生活文化学コース	舞踊・表現行動学コース		音楽表現学コース	教育科学コース	心理学コース	発達臨床心理学コース	応用社会学コース			保育・児童学コース	生命科学コース	食品栄養科学コース	遺伝カウンセリングコース	数学コース	物理科学コース	化学・生物化学コース	情報科学コース

※1 生活工学共同専攻(博士前期課程)は、2025(令和7)年10月入学から学生募集停止。(博士後期課程の募集は継続します。)
※2 2026(令和8)年4月開設に向けて、共創工学専攻(仮称)の設置を構想中。設置構想は予定であり、変更が生じる可能性があります。

博士後期課程																	
比較社会文化学専攻			人間発達科学専攻				ジェンダー 学際研究専攻	ライフサイエンス専攻			理学専攻			生活工学 共同専攻 定員 2名			
定員 27名			定員 14名				定員 4名	定員 13名			定員 13名						
国際日本語学領域	言語文化論領域	比較社会論領域	表象芸術論領域	教育学領域	心理学領域	発達臨床心理学領域	社会学・社会政策領域	保育・児童学領域	ジェンダー論領域	生命科学領域	食品栄養科学領域	遺伝カウンセリング領域	数学領域		物理科学領域	化学・生物化学領域	情報科学領域

大学院の特徴

大学院課程の概要

前期課程では、高度な専門性に加えて幅広い教養に基づく豊かな学識を獲得するとともに、深い洞察力や国際的に通用する広い視野を身につけます。そして、時代を先取りする先見性と強い自立心を育みます。教育プログラムでは、専攻内、コース内に必修科目を設けて隣接領域に関する関心を高めるとともに、専攻にかかわらず履修できる「男女共同参画リソース・プログラム」「キャリア副専攻」(公務員/産学連携/消費者科学)など、複数の領域横断的なプログラムを設けています。後期課程では、高度な学際的総合研究を行える創造的能力と、自立した研究活動や専門的職務を遂行できるさらなる専門性、さらにその基盤となる豊かな学識を養います。また、学生の多様なニーズに応えるために、多角的なサポートを行っています。協定大学への留学支援や海外の大学との共同学位の制度、奨学金や入学金免除などの経済的支援、卒業後のキャリア支援などのプログラムを用意し、学ぼうと望む学生たちを全面的にバックアップする体制を整えています。

複数指導制

後期課程から専門を異にする複数の教員による複数指導体制を敷い

ています。異なる領域の研究者による指導は、発想の転換や新しい視点の獲得へとつながります。また、専門性を活かせる広い視野と複眼的・領域横断的な思考力を養うためにもきわめて有効なシステムです。

学際性・国際性

専門性を支える豊かな学識を得るためにも、領域を超えた教育環境を整えています。国内外の他大学・研究機関とのネットワークや、留学機会の提供により、グローバル化する世界に通用する国際性を備えた研究者へと育成します。

キャリアパス

一人ひとりの多様なキャリアプランを円滑に実践できるように全面的にバックアップしています。特に出産や育児に対しては、充実したサポート体制を整えています。

学士・修士一貫トラック

大学院進学を志願する学生に対し、学部4年次から大学院授業科目の履修や研究指導を行うことにより、学部と大学院の教育を架橋し、専門的な学修を促進する制度です。

比較社会文化学専攻

社会・政治・経済が世界規模で大きく揺れ動いている今、人間・社会・文化を捉えられる、既存の学問領域を横断した新たな「学の体系」創成が強く求められています。比較社会文化学専攻は、人文社会科学分野において新たな知の地平を拓き、21世紀のグローバルな課題の解決に寄与する能力と意欲を持った人材を育てるために、前後期一貫した教育体制を敷いています。

目的は、学術的研究において指導的役割を果たす若手研究者の育成と、社会において高度な専門知識・技術を発揮できる資質の養成です。海外派遣にも力を入れ、国際的視野や国際的コミュニケーション能力の養成にも注力しています。学生の海外派遣プログラムもあり、海外での調査研究や研究発表の機会が与えられます。

前期課程	言語文化分野 日本語日本文学コース、アジア言語文化学コース、英語圏・仏語圏言語文化学コース、日本語教育コースの4コースを設置して、言語、言語を通じてなされる文学・文化表象、ならびに言語教育に関する研究・教育により、さらなる人間理解の深化を目指します。
	社会文化分野 思想文化学コース、歴史文化学コース、生活文化学コースの3コースを設置し、世界各地域を対象に、思想、歴史、生活の各側面から社会・文化の理解の深化を目指すとともに、比較の視点を採り入れた国際的研究の発展を目指します。
後期課程	芸術表現分野 舞踊・表現行動学コース、音楽表現学コースの2コースを設置し、芸術表現に対する理論的な研究と実践的なパフォーマンス力向上による相乗的な専門教育の深化を目指します。
	国際日本学領域 文学・言語・歴史・民俗・思想・文化・身体の総合学としての日本学の探求を行います。
後期課程	言語文化論領域 言語、言語を通じた文学・文化表象、ならびに言語教育に関する研究・教育を行います。
	比較社会論領域 新しい人文科学の創成と、平等と自由の理念の実現を希求する人材を育成します。
	表象芸術論領域 文化表象・表現を多方面から専門的・横断的に追求する研究と教育を推進します。



THE VOICE OF A STUDENT

境界を溶かす人文の航路

イギリスヴィクトリア朝の児童ファンタジー小説が描く「理想の子ども」を、歴史的文脈とテキスト分析を用いて解き明かしています。少人数ゼミで文献精読の技法を鍛えられ、蔵書室や学会発表では異文化の視点を得られます。ここは多様な知の船が集う港であり、固定観念の錨を解き、日々新たな出航の潮流が生まれます。

楊 雨晨さん(博士後期課程3年)
比較社会文化学専攻 言語文化論領域

人間発達科学専攻

個人的かつ社会的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、保育学、児童学などをベースとして多様なコースを設け、理論的、応用的、学際的にアプローチし、高度な女性研究者、職業人を育成しています。

前期課程では、経験科学的方法論の基礎を修得し、社会的・心理的諸問題の解決を目指して実践的な課題に向き合い、社会・人間・発達を総合的・有機的に結びつける理論を身につけます。後期課程では、人間の発達に関わる幅広い学問領域を結集して、広い視野から学際的・総合的に教育研究を行うとともに、個々の領域での専門性を高めます。

教育科学コース／領域

幼児期から成人期、日本や海外、過去から現在の教育事象まで、教育学の諸領域を多角的なアプローチにより研究できます。人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に深究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行います。

心理学コース／領域

認知、発達、教育、社会、人格、臨床などの領域における基礎から先端的研究まで、広範囲な研究方法論や知識を獲得します。人間の心理を、脳を核として、発達という時間軸、社会という空間軸の中で多角的・総合的に検討し理解する人材を育成します。

発達臨床心理学コース／領域

医療、教育、福祉、産業、司法領域の臨床経験を持つ教員たちにより、博士前期課程では公認心理師、臨床心理士の2つの資格に対応したカリキュラムが提供されています。博士後期課程では臨床心理学の女性リーダーとなりうる研究者を養成しています。

応用社会学コース／社会学・社会政策領域

現代社会の諸問題(コミュニケーション、メディア、ジェンダー、権力、差別、地域、家族、福祉、医療など)を、社会科学の理論と方法で解明し、実践的な解決策の提案へとつなぎます。

保育・児童学コース／領域

保育学、教育学、発達心理学、社会学など多様な境界領域から保育・児童学を研究する教員を配置し、テーマの焦点化、研究方法論の検討プロセスを重視しながら研究を行います。



THE VOICE OF A STUDENT

社会学の視点で社会を眺める

私は社会学の視点から親子関係を研究しています。社会学は社会におけるあらゆる事象を対象としますが、それらを社会の構造と結び付けて考える点が特徴です。研究関心の異なる学生や先生との議論を通じて刺激を受け、新たな発見を重ねながら研究を進めています。

田中 美沙さん(博士前期課程2年)
人間発達科学専攻 応用社会学コース

ジェンダー社会科学専攻／ジェンダー学際研究専攻

学際的視点からジェンダー研究の確立・重点化を図る日本初の専攻です。21世紀を展望する新領域の開拓にふさわしい学際的教養と学力を養成し、ジェンダー論の視点を積極的かつ批判的に取り入れ、とくに地理学・社会科学の教育研究に関して独自の可能性を追求しています。本専攻の出身者は、各領域の研究者はもとより、男女共同参画社会構築の担い手、グローバル化する世界におけるさまざまな国際的活動、地域社会に根ざした草の根的な活動などの場で活躍しています。

人間・自然・社会に関わる諸現象を、グローバルな視点とローカルな視点を交差させながら、学際的・複眼的に解明する分析力と、分析の成果を現実の社会問題の解決・改善へと結びつけていく応用力・実践力を備えた人材を育成します。

前期課程のジェンダー社会科学専攻では、以下の3つの科目群から、各自のテーマ等に応じてさまざまなパターンで科目選択ができるようになっています。

*ジェンダー研究科目群＝ジェンダー研究の基礎から最先端までをカバーする多彩な科目群。ジェンダー論を集中的に学び、社会や文化の諸問題に対する批判的な思考力を磨くことを目指します。さらに、より高度なジェンダー研究へと進む経路ともなります。

*専門科目群＝地理学、地域研究、開発学、法学、政治学、経済学、社会学等の各学問分野における専門的科目群。個別ディシプリンを基礎から発展のレベルまで体系的に修得するためのカリキュラムです。

*学際方法論科目群＝視野を広げ、方法論を磨く科目群。分野の異なる複数教員による学際共同演習や調査法(量的、質的、フィールドワーク等)に関するコースワークなどを提供します。研究を進める前提として、広角の視野と厳密な方法を身につけてもらうことが目的です。

また、国内外のジェンダー研究の拠点や海外協定校などとも連携して多彩なカリキュラムを提供します。本学出身者はもちろん、多くの留学生・他大学出身者・社会人院生が切磋琢磨して学んでいる専攻です。

地理学、地域研究、開発学、法学、政治学、経済学、社会学などの学問領域をベースに、ジェンダーの視点から性、家族、労働、人権、教育、開発援助、環境、テクノロジーなどの現代の社会的課題を分析・研究します。

ライフサイエンス専攻

人間の生活は、環境との調和のもとに成り立っています。しかし科学技術の発展に伴う利便性の追求が、その環境を危機にさらすという現実を生じさせています。ライフサイエンス専攻では「生命と生活」を対象に、“Life”という言葉に込められた多様な分野を学び、研究しています。生命科学、環境、食品栄養、遺伝、疾患など、基礎から応用に至る多様な分野において、理学・工学・生活科学などの学問分野を有機的に統合させつつ、人類を取り巻く環境と生活について探求します。前期課程で企業や教育・研究機関、保健医療機関などで活躍する基礎を身につけ、後期課程で博士号を取得し、ライフサイエンス分野のリーダーとなり得る力を養います。

生命科学コース／領域

変動する環境の中で生きる生物の真の姿を理解するために、生物の普遍性と多様性の両面を対象として、遺伝子、ゲノム、生体分子、細胞、個体、集団、生態系といったさまざまなレベルで基礎研究を行います。

食品栄養科学コース／領域

食物を美味しく食べる方法、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題の解析・解決を目指し、食物や栄養に関する基礎的研究から応用開発、臨床対応までできる食物と栄養のスペシャリストや研究者、管理栄養士のリーダーの養成を目指します。

遺伝カウンセリングコース／領域

医療保健の場において、遺伝に関連する状況の遺伝学的関与の医学的影響、心理社会的影響および家族への影響を理解し、かつ、適応していくことを支援する遺伝カウンセリングを実践できる優れた遺伝カウンセラーの養成と、遺伝カウンセリングに関連した研究を行っています。



THE VOICE OF A STUDENT

ジェンダーの視点で社会を読み解く

女性研究者を増やす政策について研究し、ノルウェー派遣を予定しています。本専攻では、多様な専門の先生方のもと、学問を横断しながらジェンダーの視点で社会課題を深く探求できます。海外での学びを通じて視野を広げ、同じ関心を持つ仲間と学び合えることが、大きな喜びです。

野村 菜月さん(博士前期課程2年)
ジェンダー社会科学専攻



THE VOICE OF A STUDENT

充実した研究環境

本専攻では、教授と学生の距離が近く、施設も充実しており、研究に専念できる環境が整っています。また、実践経験を持つ方も多く在籍しており、研究と社会の繋がりを意識することができます。学部生の時よりも、深く物事を探求する力が身に付けられ、大学院に進んでよかったと考えています。

西田 依小里さん(博士後期課程2年)
ライフサイエンス専攻 食品栄養科学領域

理学専攻

理学専攻の「理学」という名称は、大学院においても物事の本質を理解する「真理の探究」という姿勢を重視していることを表しています。これまで科学・技術は私たちの生活をたいへん豊かなものにしてきました。これを支えているのは基礎科学です。基礎科学は応用科学とも密接に結び付いており、優れた応用研究を行うにはしっかりした基礎が欠かせません。

理学専攻では、数学・物理学・化学・生物化学、情報科学の各専門分野を広く深く理解するとともに、基礎に基づいた科学的思考力と論理性を涵養することを目的としています。後期課程では、グローバルな時代の中で「世界で通用する研究者の資格」である博士号の取得を目指します。

数学コース／領域

さまざまな分野との関連も視座に入れながら、代数、解析、幾何の純粋数学の各分野で、数学理論の展開に関する高度な専門教育と研究を行っています。教育では数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標に、高度な数学的知識と数学的な運用能力をもつ専門職業人、教師、研究者等を養成します。

物理科学コース／領域

素粒子論・宇宙物理・統計力学・物性理論、実験分野としては素粒子実験・超伝導・スピントロニクス・ソフトマターに至る領域をカバーし、物理現象を理論と実験の双方向から、直感的かつ論理的に理解し得る能力の養成を行っています。物理学の研究能力を高めるとともに、還元論的、多元的なものの見方を修得し、その問題解決能力を向上させることを目指します。

化学・生物化学コース／領域

物質を構成する広範な種類の分子、生体関連分子を対象に、その構造と性質、合成と反応、機能と現象に重点を置きつつ、物質科学、材料科学、有機合成化学、複雑系科学、生命科学などの幅広い観点から教育・研究を行います。

情報科学コース／領域

情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が連携して研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにしていきます。次世代の情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれるさまざまな情報の利用・解析手法を研究します。



THE VOICE OF A STUDENT

自分のペースで学びを深める

私は数学コースで、流体力学の方程式の近似について研究しています。本専攻は少人数制の専門的な授業が多く、丁寧な指導のもとで試行錯誤を重ねながら、着々と理解を深めることができます。他分野の授業も履修できるため、数学をさまざまな視点から学ぶことができました。

櫻井 奏音さん(博士前期課程2年)
理学専攻 数学コース

共創工学専攻(仮称)[※]／生活工学共同専攻

社会は大きく変化し、経済発展だけでなく様々な社会の要請に応える必要があります。そのためには、多様な「知」とともに多角的な「視点」が必要とされ、ジェンダーに関わらない多様な人材養成が必要となります。モノづくり、技術の創造、イノベーションには特にこの考え方が重要ですが、工学系分野では日本でのジェンダーギャップは極めて大きく、この解消が喫緊の課題となっています。工学系での専門的立場における女性人材のニーズが高まる中、本学では令和6(2024)年度に「文化」「社会」の知を「工学」と協働させ、安全、安心、快適な社会のための技術の構築と技術に応用した文化の創造を目指す共創工学部を立ち上げました。この理念を持ちつつ高度な技術と知識、さらに実践力を併せ持ち、リーダーシップを発揮できる専門家を育成する高等教育機関として、令和8(2026)年4月に博士前期課程「共創工学専攻(仮称)」を設置します。

※令和8(2026)年4月開設に向けて、共創工学専攻(仮称)の設置を構想中。設置構想は予定であり、変更が生じる可能性があります。

共創工学専攻において学べる分野は、以下の3つに大別されます。

人間：人間工学、健康科学、自然人類学、言語情報学、バイオマテリアル、生活機能材料、生活工学、認知科学 など
環境：水環境工学、建築環境工学、人間環境工学、設計デザイン、地理情報学、地理学 など
文化情報：データサイエンス、文化情報工学、マルチメディア、データ工学、舞踊と工学、建築史学、デザイン工学 など

前期課程においては、共創能力、専門力、実践力の3つの力を順に積み上げていくカリキュラムが組まれています。履修科目は、共創基礎科目群、専門科目群、専門実践科目群の3つに分類されており、これらを順に学びます。また、科目履修により学んだことを踏まえながら各自の研究テーマに取り組むことにより、3つの力を高度に備えた人材が育成され、実社会で活躍できる人材がより多く輩出されることを目指しています。

生活工学共同専攻では、工学諸分野の基礎から応用まで幅広く理解した上で、人間生活における諸課題を柔軟に捉えて研究する能力を有する人材の育成を目指しており、博士後期課程(博士)の学生を、従来通り募集します。

なお、共創工学専攻を修了した後、博士後期課程に進学する場合、研究分野やテーマにもよりますが、一貫した研究指導を受けることは可能です。



THE VOICE OF A STUDENT

学びをつなぎ、組み合わせる

私は水処理における紫外線消毒に関する研究を行っています。その過程で、専門分野である環境工学だけでなく、生物工学やプログラミングも学びます。多岐にわたる分野の知識を融合し議論を深めることは非常に楽しく、研究の発展に繋がっています。

望月 利紗さん(博士前期課程2年)
生活工学共同専攻

副専攻プログラム

大学院では専門性を深めることはもちろんですが、同時に視野を広げることも重視しています。そのために、各専攻の専門教育の充実を図るだけでなく、領域横断的な副専攻プログラムを設けています。

■ 男女共同参画リソース・プログラム

男女共同参画アドバイザーや各地の男女共同参画センター及び女性センターの専門員や管理職、JICAなどの国際機関の女性に関わる案件の専門家など実務家育成を目的としています。さらに、研究者であれば、大学及び研究機関での男女共同参画やセクシュアル・ハラスメントに関する見識のある人材を、文化マネジメント専従の専門家に対しては、ジェンダー視点からのアイデアによる企画展示ができる人材を、そして企業においては、広く人事・キャリア形成のアドバイザーや男女共同参画の視点で製品・サービスの研究・開発ができる人材を育成することを目指しています。

■ コア・サイエンス・ティーチャー(CST)プログラム

CST副専攻では、小学校及び中学校の理科に熟達し、児童生徒の観察・実験の指導や自由研究の指導、そして地域の教育資源等を活かした教材開発、さらには教員研修を実施できる総合的な理系人材を養成します。そのために、科学教育特別研究、科学教育基礎、科学教育Ⅰ・Ⅱ、科学教育教材研究、サイエンス・コミュニケーション論の6科目(博士前・後期課程共通)とCST総合研究(博士後期課程のみ)を開講します。なおこれらの授業は、小学校と中学校理科の接続や、豊富な実験実習や先端的なトピックスを含みます。

大学院生へのサポートシステム

経済的支援
お茶の水女子大学では、学部を卒業、または一度社会に出た後でさらに学ぼうとしている学生を応援するために、さまざまな経済的サポートを行っています。学部と共通の奨学金のほかに、大学院独自の奨学金もあります。また、支援プログラムとして、学内で教員や研究のアシスタントとして働きながら大学院で学べる制度も用意しています。
海外での研究・留学支援
海外での研究活動や協定大学への留学を積極的に支援できるように、多彩なプログラムや制度を設けています。
大学院修了後のキャリア支援
博士号取得後、就職するまでに待機期間が生じることがあります。こうした常勤研究職になる前の研究者(ポスト・ドクター)のために、お茶の水女子大学では経済面と身分上の便宜を図り、研究を継続できるように支援しています。
詳細は大学院案内2026をご覧ください。▶ https://www.ocha.ac.jp/plaza/info/dc_info.html



■ 日本文化論プログラム

本学大学院では、大学院修了後に国際的な場で社会貢献を行う人材(留学生を含む)の育成を積極的に推進しています。こうした学生が日本文化と日本の思惟方法を理解することは、日本文化理解の適切な国際標準の形成に資するでしょう。さらに、グローバル化に伴う価値一元化傾向に対する批判的視点を積極的に提示し、それを通じて多様な文化の共生を促進する一助となることも期待されます。

■ キャリア副専攻

[公務員][産学連携][消費者科学]
博士前期課程修了後に高い専門性を活かすための実践的な就業力を育成することを目的としたカリキュラムです。現代社会は、不確実性が高く、将来の予測が困難であるため、職業生活において求められる知識が高度化、複雑化しています。キャリア副専攻では、世界的に見て、高度な専門性を備え、活躍するリーダーの多くが博士前期課程を修了しているという最近の動向を踏まえて設置しています。

研究環境の支援
大学院生がより円滑かつ快適に研究活動を行えるように、環境整備にも注力しています。図書館には大学院生専用の研究スペースを設置し、論文作成に有用なデータベースなどをスムーズに利用できる環境を整えました。また、学内で所蔵していない資料の複写や図書の取り寄せを無料で行えるサービスも、他大学に先駆けて実現しています。2024年度より他大学から図書を取り寄せた際の返送料の一部を大学が負担しています。
ライフコースの支援
お茶の水女子大学では、女性が生涯にわたって学ぶ機会を得られるように、女性のキャリアプランとライフプランの両立を実現するためのサポートを行っています。育児では、ベビールームや学内保育所、おむつ替えスペースや子どもと一緒に宿泊できる学内施設などを整備し、学業・研究を円滑に行える環境を整えています。

研究を支援する豊富な研究所

グローバル女性リーダー育成研究機構

長年にわたるジェンダー及びグローバルリーダーシップに関する研究・教育・実践を一層発展させ、国際的に活躍する女性リーダーの育成と男女共同参画社会を実現する国際的教育研究拠点となることを目的としています。本学の強みであるダイバーシティ&インクルージョンを拡大させ、女性の活躍促進やウェルビーイングの向上に貢献します。

グローバルリーダーシップ研究所

リーダーシップ養成に関する総合的、国際的な研究及び調査の実施や、教育を通じてリーダーシップ養成に関わる研究者の育成に資することを目的とし、学生海外派遣プログラム、社会人女性を対象とした生涯教育講座等さまざまな事業を行っています。



ジェンダー研究所

女性文化資料館を前身として、2025年に50周年を迎える本研究所は、ジェンダー研究の国際的な学術拠点です。研究プロジェクトの実施、国際シンポジウム等の開催、若手研究者の育成、学術雑誌の刊行、その他の成果発信と社会還元を推進しています。



ジェンダード・イノベーション研究所

男女における体格や身体の構造と機能の違い、加齢に伴う変化、社会的・文化的影響など、性差の視点を考慮した研究および技術開発を推進しています。性差の視点に基づいた研究、イノベーション、社会発信を推進するハブ組織を目指しています。



総合知開発研究機構

社会の革新には教養知と専門知に実践知を結びつけた「総合知」を備えた人材が必須です。本機構では総合知を獲得するためのコンピテンシー育成を戦略とします。コンピテンシーとは課題を発見し知識やスキルを状況に応じて組み合わせるなどして社会の場で成果をあげる包括的能力とその行動特性です。

コンピテンシー育成開発研究所

コンピテンシーとは、社会の場で成果をあげる資質や能力を意味します。コンピテンシーベース教育と研究の推進に向けて、学生のコンピテンシーの向上を図る活動と、幼児期から大学期までのコンピテンシーに関する研究と成果の発信を行っています。



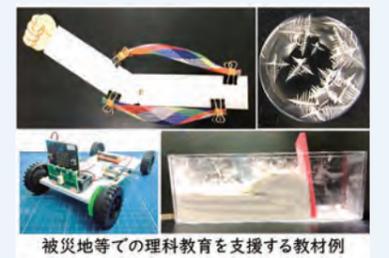
理系女性育成啓発研究所

女子学生・生徒の理工系分野の進路選択促進及び理工系人材の育成に資するための活動を行っています。理系分野を学ぶ楽しさを発信するイベントや、理系女性ロールモデル講演会「リケジョ-未来シンポジウム」を定期的で開催しています。



サイエンス&エデュケーション研究所

理科・科学教育とサイエンスコミュニケーションの研究実践活動を行っています。理科教材の開発、小・中学校への教員研修・出前授業、スーパーサイエンスハイスクールでの探究活動支援、さらに「理科支援員」を養成する公開講座などを実施しています。



被災地等での理科教育を支援する教材例

ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

今後望まれる健康長寿社会の実現、及び持続可能な社会や環境の形成に資するため、企業・研究機関等と連携した先端研究拠点を形成するとともに、知的財産創出や具体的アウトカムを設定した実装型研究を推進します。

ヒューマンライフサイエンス研究所

人が生涯を通じて健康で心豊かな生活を過ごすための研究・開発、及び安全・安心な社会環境構築のためのイノベーションを創出する国際研究拠点を構築するとともに、成果に基づいた教育プログラムなどを策定し社会に還元することを目指しています。



人間発達教育科学研究所

人間の発達や教育に関する総合的で国際的な研究拠点を目指し、研究活動を推進しています。子ども達の教育的・社会的格差の解消を志向する研究を含め、子どもから青年期以降までの発達の質向上に向けた施策策定に貢献することを目指しています。



サステイナブル社会実装機構

持続可能な社会の創成には、社会全体でSDGs達成を推進することが必要です。社会課題解決のための研究・イノベーション拠点を構築し、文理を越えた先端研究の推進により、SDGsの理念である「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」を目指します。

SDGs推進研究所

食糧問題や資源リサイクルなど、生活者を起点とした持続可能な社会の実現を目指す研究を推進しています。また大学と附属学校園によるフードドライブや、学生委員によるプロジェクトのサポート、企業と連携したイベントなども実施しています。



湾岸生物教育研究所

湾岸域の生物と環境に関する研究と教育を推進し、フィールド・フロントエンドでの教育活動を通して、自然科学や環境への理解を深めることを目的としています。小中高校への海洋教育のための生物提供や大学生対象の公開臨海実習を実施しています。

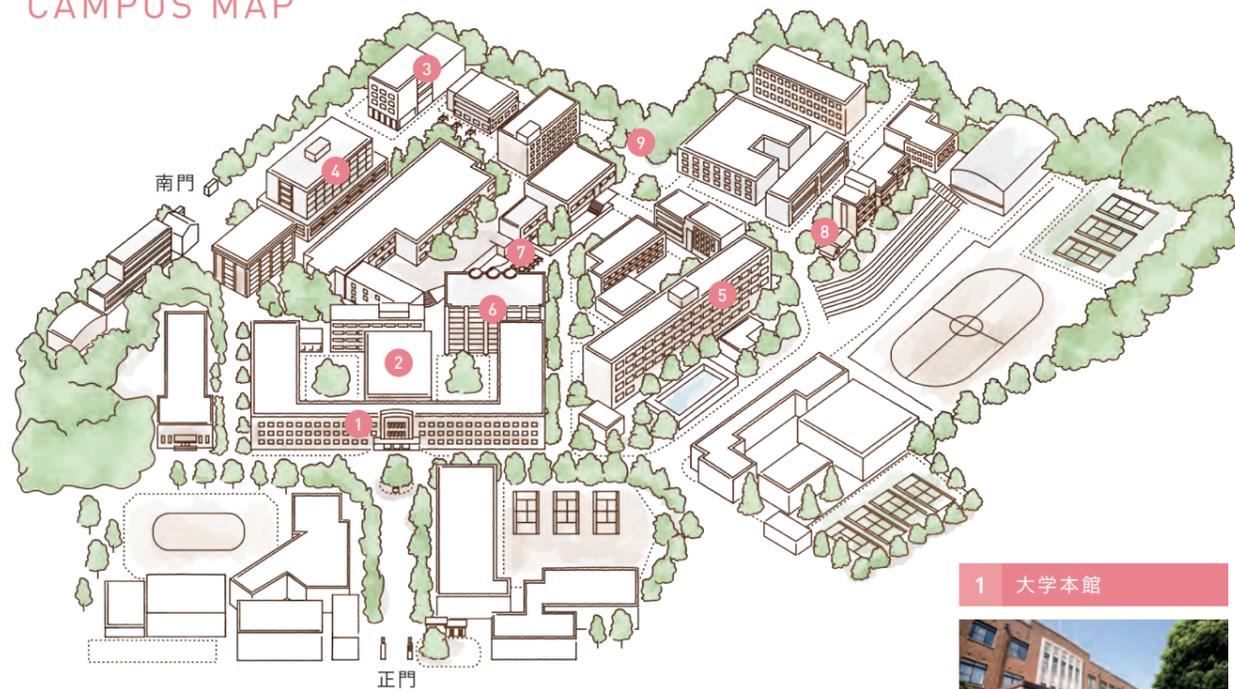


Campus Environment

キャンパス環境

知と緑が織りなす、豊かなキャンパス
整った環境でかけがえのない学生生活を過ごそう

CAMPUS MAP



1 大学本館



正門から入って正面に見えるのが大学本館です。関東大震災後に建築され、国の登録有形文化財に登録されています。

図書館



附属図書館は、大学の教育・研究機能を支える総合図書館として、学習図書や研究図書、電子ジャーナル、電子ブック、データベース、視聴覚資料のほか、ジェンダー研究や幼児教育関連など本学特有の貴重な資料群を提供しています。1階はくつろいで過ごしたりグループで話し合いながら学習できるコモンズフロア、2階は静かな環境で資料の閲覧や学習ができるラーニングフロアとなっており、さまざまな学習スタイルに応じた多彩な学習環境を備えています。1階には、ピアノのミニコンサートも開催されるウェルカムラウンジ、広々としたスカイグローバルラーニングコモンズ、デスクトップPCが並ぶPCスクエア、グループワークに最適なミニコモンズ、プレゼンテーションルームがあります。そのほか、図書館総合カウンターやLALAデスク、情報基盤センターの窓口があり、みなさんの学びをサポートしています。2階には、約10万冊の図書が並び自由に利用することができます。また、静謐な環境で個人学習に取り組むことができるアカデミックラーニングスペースやクワイエットラーニングルームがあります。学習・研究スタイルに合わせて図書館を大いに活用してください。



PICK UP!! FACILITIES

2 微音堂（大学講堂）



大学本館中央に位置する講堂は、微音堂（きいんどう）と呼ばれ、入学式や卒業式などの式典が執り行われています。

3 共通講義棟



主に教養課程の基礎講義や語学科目が開講され、大小さまざまな教室と学生生活に必要な設備を備えています。

4 文教育学部1号館



南門に一番近い建物が文教育学部1号館です。2024年5月に改修が完了し、図書室や学生控室も広く、新しくなりました。

5 理学部1号館



2022年改修の理学部1号館には、個別学習やディスカッションにも使えるアクティブラーニングスペースが設置されています。

6 総合研究棟



地上8階、地下1階の総合研究棟には太陽光パネルが設置されています。パネルはお茶の葉をモチーフにしています。

7 パーゴラ



総合研究棟前のパーゴラでは、授業の合間に会話を楽しんだり、読書をしたり、思い思いに時間を過ごす学生たちの姿が見られます。

8 茶室「芳香庵」



庵号「芳香庵」は、この茶室から教養・知性の香りが社会へ広がるように、との願いをこめて命名されました。

9 おちゃのterrace



学生寮音羽館の南側にあります。自然を感じられ、春には枝垂れ桜を楽しむことができる、構内の癒しの空間です。

Student Commons・Student Commons Annex

Student Commons・Student Commons Annexは、単なる集会の場としてではなく、学生相互並びに学生・教職員間の親睦を深め、学生の教養を高め、課外活動を盛んにするとともに、学園生活を豊かにすることを目的としています。運動やダンス、ピアノ演奏ができるマルチパーバス等を設けています。

【Student Commons】

2階…マルチパーバス1～2、個人練習用スタジオ1～2

1階…ラウンジ、事務室、給湯室、飲料自販機コーナー、アトリエ、和室、微音祭実行委員会

【Student Commons Annex】

共用部室1～8、和室、ピアノ室1～5、軽音楽室、マルチパーバス3



Student Support

学生生活サポート



初めての大学生活、弾む期待と不安な気持ちに寄り添い、一人ひとりの学生をきめ細やかにサポートします

「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げるお茶の水女子大学では、学生一人ひとりの学びと安心・快適な学生生活を支援する制度を揃えています。キャンパスライフのさまざまな悩みや相談にお応えします。

学びのサポート



学年担当・指導教員制度

学生生活をより豊かに過ごしてもらうために、各学科・講座・コース、学年毎に学年担当教員または指導教員を配置しています。授業の履修に関することや、休学や転学科など学生の身分に関することから、健康問題など大学生活に関することまで、在学中のさまざまな問題を気軽に相談し、助言を受けることができます。

ピアサポートプログラム

ピアサポートプログラムは、教員や事務職員に聞きにくいことを、身近な先輩や友人に気軽に相談できる学生同士の支援制度です。先輩サポーターが新入生の学習支援をしたり、異学年の交流・就職活動や進路の情報交換などを行ったりしています。

キャンパスメンバーズ・パートナーシップ

学生証を提示することで、以下の博物館等では常設展示は無料で入館でき、劇場等ではチケットを割引料金で購入することができます。

- ◆国立科学博物館 ◆東京国立博物館 ◆東京国立美術館 ◆国立劇場

安心・安全のサポート



学生相談室

学生生活、対人関係、自分自身、将来のことなどについて相談できる相談室です。家族や友人のことで悩んでいる、気分の落ち込みや不安がある、授業に出席できないなど、さまざまな相談について臨床心理士、公認心理師の資格を持った心理カウンセラーがお話を伺います。

健康管理

健康で充実した学生生活を送れるように、保健管理センターの医師、看護師が健康に関する相談・診察を行っています。毎年4月には定期健康診断を実施し、学生の健康の保持・増進、病気の予防や早期発見に努めています。

安否確認システム

東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県で震度5強以上の大きな地震が発生した場合、各自が登録しているメールアドレスに安否確認のメールが配信されます。学生・教職員がそのメールに返信することで、大学は安否状況を確認することができます。

学生保険

授業・学校行事・課外活動等の学生生活中に不慮の災害・事故でケガを負った場合に備える学生教育研究災害傷害保険(学研災)と、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上の賠償責任に対応する学研災付帯賠償責任保険に加入することができます。

Cafeteria

学生食堂



ランチタイムに集う場所

栄養バランスのよい豊富なメニューから今日のお気に入りを見つけよう

学内の食堂(NSSOL Kitchen)には、栄養満点の充実したメニューが揃っています。ランチタイムになると午前の授業を終えた学生たちで賑わいます。また、昼食営業と夕食営業の間の時間帯は、学生のための自習スペースとしても開放しています。飲食や会話を楽しみながら友人たちと勉強できる場としても、多くの学生に親しまれています。

食堂(NSSOL Kitchen)

学生の毎日の健康を願い、心を込めて作っています。



通常営業時間
10:30~13:30 昼食営業(カフェテリア方式)
16:30~18:30 夕食営業(ビュッフェ方式)

昼食営業は、1日約30種類のメニューが週替わりで並びます。季節メニューやイベントメニューも月替わりで提供され、毎日利用しても飽きのこないメニュー構成となっています。

購買書籍部

お弁当から教科書まで、学生生活に必要な商品を揃えています。

通常営業時間
10:30~17:00

お弁当やパン、お菓子などの食品や飲料を販売しています。また、文具や日用雑貨なども取り扱っており、実習に必要な白衣や割烹着、保護メガネなども購入が可能です。お茶大グッズも販売しています。



Ochadai Life

Dormitory

学生寮

Webをチェック!



学部・学年を超えた仲間とともに、 安心・安全な生活を

親元を離れて大学生活を送る学部生のために2つの学生寮があります。
お茶大SCCは、「共に住まい、共に成長する」をコンセプトに、人と人とのつながりを大切にする教育寮です。
2022年4月に開寮した音羽館は課外活動施設を附設し、附属図書館、大学生協、学生会館を含む一帯の中で、
キャンパス内の学習や学生間の交流の中心となっています。

お茶大SCC

大学までの所要時間：徒歩3分／建物・居室概要：鉄筋コンクリート造・個室／収容定員：50名／対象学生：学部1～2年生／寄宿料(月額)：30,000円



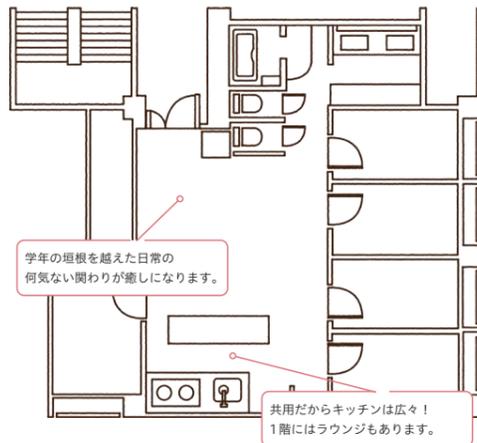
お茶大SCCは人と人とのつながりを大切にする学生寮です。5人1組で「ハウス」を構成して暮らすルームシェア型で、プライバシーを守った個室を確保しつつ、キッチンや浴室、リビング等は共同で使用します。寮生は全員が「寮生協議会」に所属し、学部3年生「レジデント・アシスタント」のサポートを受けながら、自分たちの手で寮生活を円滑にするための体制を整えています。また、「学修プログラム」では、お茶大の教授等による講演後にグループ毎に学修を深め、発表会を行います。また寮祭、歓迎・送迎パーティーなどハウスを超えた交流があります。SCCの活動に積極的に参加し、他者との関係の中で一人ひとりが主体性をもって寮生活を送ることを期待します。

音羽館

大学までの所要時間：学内／建物・居室概要：鉄筋コンクリート造・個室／収容定員：450名／対象学生：学部生、大学院生／寄宿料(月額)：48,800円

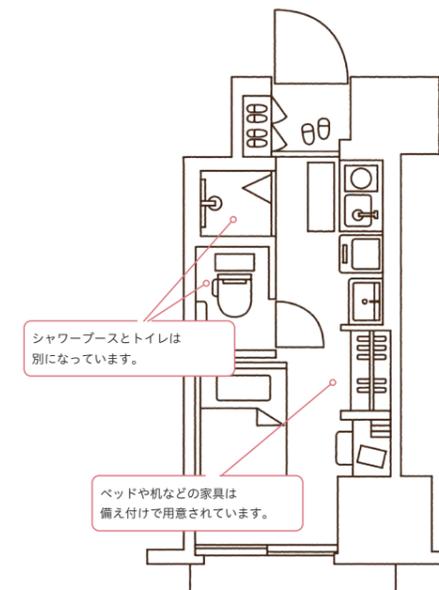


お茶の水女子大学音羽館は、学生がキャンパス内で安全で快適な生活を送りながら、寮生との共同生活を通して、自律した学びや交流を深めることを目指した学生寮です。ユニットシャワー、トイレ、ミニキッチン等を備えた個室でプライバシーを確保すると同時に、各フロアに共用コンセプトルーム「OCHA-no-MA」を導入し、学生同士の交流を楽しめるスペースも用意しています。



寮生VOICE

学校や駅に近い上家賃が安いこと、家具や家電を揃える必要がないこと、いろいろな出身・学部の友人ができることから入寮を決めました。SCCはリビングやキッチンが広く、のびのびと生活できることも魅力です。1年次は履修やSCC周辺の便利なお買い物場所などを同室の2年生に教えてもらい、安心して大学生活を始められました。



寮生VOICE

お茶の水女子大学構内にある音羽館は、学内施設への抜群のアクセスが魅力です。附属図書館まで徒歩30秒であるため、休日でも豊富な蔵書に囲まれながら集中して学習に取り組むことができます。安心のセキュリティ体制で、学生生活をしっかりとサポートしてくれる個室には、充実した設備が備わっており、快適な毎日を送ることができます。

SCC年間行事(2025年度例)

3月	新入寮生ハウス仕様紹介	10月	SCC寮祭
4月	SCC-RA任命式、オリエンテーション、ウェルカムパーティー、春季大掃除	11月	1年生ワークショップ②
5月	1年生ワークショップ①	12月	第2回学修プログラム、新RA研修
6月	第1回学修プログラム	2月	新2年生研修①
7月	夏季大掃除、学部オープンキャンパス	3月	年度末大掃除、SCC修了式、さよならパーティー、居室替え、新2年生研修②
9月	前後期中間ワークショップ		



OCHA-no-MA

「個」の空間を守りつつ「集団」で過ごす安心感を生み出します。各階の談話室には異なったコンセプトがあり、用途に合わせて過ごす場所を選ぶことができます。



Ochadai Life

Campus Calendar

年間行事

お茶大には、チャレンジへのヒントがたくさん
経験や出会いが未来につながる糧になる

大学生活の一つひとつの出来事が、かけがえない思い出となります。
さまざまな活動に挑戦して、新しい発見や出会いをたくさん掴んでください。



お茶大の学園祭「微音祭」

毎年11月に行われている、長い歴史を持つ学園祭です。微音祭では模擬店をはじめとする様々な企画が行われており、特に在校生と話せる受験生向けの相談会や大学構内を巡るキャンパスツアー、実際の大学の授業を体験できる模擬授業など、お茶大の魅力に触れられる企画も多く開催しています。キャンパスが華やぎ、お茶大を知りもっと好きになれる特別な2日間。お茶大生一同、第76回微音祭のご来場を心よりお待ちしております。

EXTRACURRICULAR ACTIVITIES

課外活動

MuSA (Museum Student Assistant)



歴史資料館のアシスタントとして、資料の保存・管理、展示案内など、学芸業務の一端に触れることができます。歴史資料館は、2025年に開学150年を迎えるお茶大の歴史に関わる、さまざまな史資料を所蔵しています。

LiSA (Library Student Assistant)



図書館業務のアシスタントとしてキャリア体験を積むプログラムです。書架整理やラベル貼り、学生の視点による選書といった通常業務のほか、図書館ツアーのガイドなどの自主企画にも活発に取り組んでいます。

LALA (Library Academic Learning Adviser)



図書館スクイ グローバルラーニング コモンズで、大学院生が後輩たちに情報探索やレポートの書き方をアドバイスするピアサポートのプログラムです。自らのアカデミックスキルも向上します。

Ochadai 学生アンバサダー



大学の広報活動を学生ならではの視点で行っています。高校生向け団体見学会での大学説明やオープンキャンパスでのキャンパスツアーの実施、お茶大グッズの制作協力など、大学広報職員とともに魅力を発信しています。

4

April

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 健康診断
- 1学期・前学期授業開始
- 大学院オープンキャンパス

5

May

- ホームカミングデイ (隔年開催)
- 開学記念日 (5月31日)

6

June

- 2学期授業開始

7

July

- 学部オープンキャンパス*
- サマープログラム

8

August

- 夏期休業

9

September

- 夏期休業終了
- 3学期・後学期授業開始
- 9月卒業式

10

October

- 10月入学式

11

November

- 微音祭
- 創立記念日 (11月29日)
- 第4学期授業開始

12

December

- 冬期休業

1

January

- 冬期休業終了
- 大学入学共通テスト

2

February

- 春期休業開始

3

March

- 卒業式
- 春期休業終了

※ 日程・申込等の詳細は本学 Web サイトでご確認ください

Club Activities

サークル活動

※インカレ：近隣の他大学と一緒に練習や活動を行います。山岳や合唱、スポーツなど、さまざまなサークルがインカレ活動をしています。
※非公認団体・サークル：共通の関心がある仲間が集まって活動します。その活動が認められると自治会でサークルとして公認されます。

いつも楽しく、時に真剣に、 好きなことを追いかけて

学生生活の楽しみの一つがサークル活動です。

学部・学年を越えて、同じことに興味を抱く人たちが集まるサークルは、たくさんの仲間に出会える格好のステージ。

スポーツ系から文芸、ダンス、音楽、レクリエーションと、さまざまな団体が活動しています。



美術部

絵画班と陶芸班があり、微音祭や国立展に向けて自由に制作しています！



裏千家茶道部

部員みんなで仲良く楽しく本格的な茶道のお稽古ができます！



表千家茶道部

週2日、芳香庵で活動しています。皆でお茶を楽しみましょう！



小原流華道部

師範の先生のご指導の下、自分のペースでお稽古を行っています。初心者大歓迎です！



写真部

月1の撮影会や夏・春の合宿を通して、自分のペースで撮影活動を楽しんでいます！



園芸部

アットホームな雰囲気の中で園芸を行っています。初心者大歓迎！



箏曲部

みんなで楽しくお箏を弾いています！初心者も経験者も大歓迎です！



ギター部

クラシックギターで独奏や合奏をします。和やかな雰囲気の魅力です！



ピアノ班

ピアノが好きな方、大歓迎！年に約5回、コンサートを開催しています♪



お茶の水管弦楽団

週2回の練習、年2回の定期演奏会やセクション毎の演奏会があります♪



白ばら会合唱団

毎週水・土に練習をしている混声合唱団です。未経験でも大歓迎です！



緑会合唱団

初心者歓迎の混声合唱団です。練習は毎週月・木、オーケストラと共演もできます！



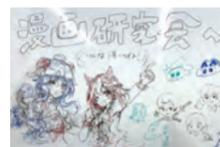
オレンジマニア

お茶大唯一の公認軽音サークルで、学年問わず仲良く楽しく活動しています！



E.S.S

気軽に楽しく英語でディスカッション・スピーチ・ガイドをします！



漫画研究会

楽しく漫画やイラストを描き、年に1回部誌を発行しています。



SF研究会

年に2回部誌を作成し、イベントで販売しています。ジャンルはSFに限りません！



狂言研究会

野村萬斎師監修！プロの指導のもと、本格的・マイペースに狂言をする・見る・知るサークルです。



考古学研究会

時代や地域、詳しくを問わず、歴史好きたちが楽しく活動中です！



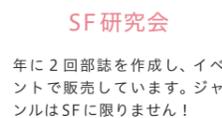
劇工舎プリズム

脚本や舞台その他すべて自分たちで作上演するインカレ演劇団体です！



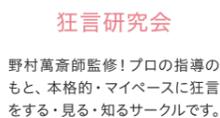
ミュージカルカンパニーMMG

主に宝塚の作品を上演しています！本格的な舞台作りも経験できます！



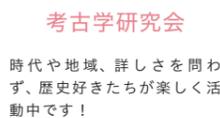
SF研究会

年に2回部誌を作成し、イベントで販売しています。ジャンルはSFに限りません！



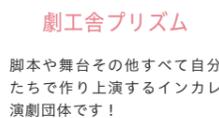
狂言研究会

野村萬斎師監修！プロの指導のもと、本格的・マイペースに狂言をする・見る・知るサークルです。



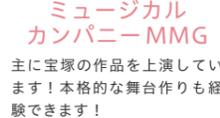
考古学研究会

時代や地域、詳しくを問わず、歴史好きたちが楽しく活動中です！



劇工舎プリズム

脚本や舞台その他すべて自分たちで作上演するインカレ演劇団体です！



ミュージカルカンパニーMMG

主に宝塚の作品を上演しています！本格的な舞台作りも経験できます！



百人一首同好会

ちはやふるでも有名な競技かるた。初心者、経験者とも大歓迎です！



野生生物研究会

海や山など、さまざまなフィールドで生物を観察・採集しています！



日本舞踊研究班

毎週日本舞踊をお習いしています！初心者大歓迎です！



Ochaz

商品開発や食育など「食べる幸せを広げる」活動を行っています。



能楽研究会

仕舞、謡、小鼓のお稽古をしつつ能楽を学んでいます。



グローバル経済研究会

企業幹事の講演会や勉強会で経済・国際情勢を学び、就活支援も行います。



硬式庭球部

初心者大歓迎！部員全員で上達することを目指し、日々楽しく真剣に練習に取り組んでいます！



バレーボール部

リーグ戦昇格を目指して、楽しく真剣に日々練習しています！



バスケットボール部

初心者・経験者、年齢関係なく日々バスケットに本気で取り組んでいます！



弓道部

大学構内の弓道場で、明るく楽しく集中して弓を引いています！練習は週2日程度です。



陸上競技部

大学付近を和気あいあいとランニングしています。初心者大歓迎です！



フィギュアスケート部

初心者でも大丈夫！先輩が一から教えます。私たちと一緒に滑ってみませんか？



剣道部

アットホームな雰囲気の中、みんなで楽しく剣道しています！



TECKTECK

のんびりと山を登ります♪レクやスキーなど登山以外のイベントも盛りだくさんです！



モダンダンス部

自主公演を中心に、ダンス作品の創作など楽しく活動しています！



民族舞踊研究会

ヨーロッパを中心に世界各地のさまざまな踊り(フォークダンス)を楽しく踊っています！



サイクリング部

自転車ですべての国を旅するもサイクルサッカーを楽しむもよし！



山岳愛好会 雷鳥

各々の予定や好みに応じて、登山などを楽しんでいます。



合気道部

火・木の週2日、初心者も経験者も和気あいあい稽古に励んでいます！



LBJ ski team

初心者から経験者まで幅広いレベルの人が在籍してスキーを楽しんでいます！



空手部

学年や経験関係なしに、週2日の練習で黒帯目指します♪



ジャズダンスサークル flow

たくさんの仲間と楽しく踊りながら、青春を謳歌できます！



英語ディベート部

楽しく真剣にパーラーディベートをしています！初心者も大歓迎です。



TEA

お茶大の留学生とイベントやランチ会を通して交流するサークルです！



書道部

経験者はもちろん初心者の方も大歓迎！自分のペースで作品を練習作成します。



おちゃっこLab.

子供たちにサイエンスやロボットプログラミングの楽しさを広めるイベントを開催しています。



お茶大クイズサークルOchazQ

個人のペースでクイズをしています。初心者の方も大歓迎です！



OCAC (お茶大カフェ支援サークル)

カフェのサポートや、カフェ巡りを行っています。カフェ好きな方はぜひ！



音楽制作サークル CiiMs

完全オリジナルのMVを制作・発表するサークルです！個人のペースで活動できます。



地理×女子

お茶の水女子大学の地理部です！地理好きなお茶大生として、地理に関する学内外の活動をしています。



文教育学部生

中鉢 開貴さん

文教育学部 人間社会学科 3年
教育科学主プログラム・
教育科学強化プログラム

高い志を持つ仲間と共に 成長できる環境

音羽館は校内にあるため安心安全で、通学時間がないことから時間を有効に使うことができます。寮に暮らしている友人も多く、寮内で友人と過ごすこともあります。キッチンルームや自習室などの充実した共有スペースがあることも、友達づくりがしやすい理由の一つです。私は1年生の頃から、友人と毎日のように共有スペースを利用してきました。一緒にご飯を食べたり、時には熱く語り合ったりと音羽館はたくさんの思い出が詰まった場所です。素敵な仲間が近くにいることが自分にとって刺激となり、大きく成長させてくれたと感じます。

お茶大を選んだ理由

総合大学で「教育」について学ぶことで、他の学問分野と連携しながら幅広い視点を得ることができると考えました。また、お茶大には認定こども園から高校までの附属学校が隣接しています。このような環境から、机上だけではなくより実践的な指導力の習得にも励むことができると感じました。

MY STORY

東ティモールでの教育ボランティアの経験

大学2年生の秋、教育ボランティアとして東ティモールを訪れました。日本では感じることでできない多くのことを体感し、その経験は私の中の「あたりまえ」を大きく変えるとともに、自分自身と真剣に向き合うきっかけとなりました。この経験を通じて、海外や教育支援に興味を持つようになり、興味の幅や将来の選択肢を広げることができました。



ONE DAY SCHEDULE

5 ●		17 ●	課題
6 ●	就寝	18 ●	友人と夜ご飯
7 ●		19 ●	
8 ●		20 ●	帰宅、自由時間
9 ●	起床、身支度、朝食	21 ●	
10 ●	授業	22 ●	就寝
11 ●		23 ●	
12 ●	学食で昼食	24 ●	
13 ●	授業	1 ●	
14 ●		2 ●	
15 ●		3 ●	
16 ●		4 ●	

[時間割例] 1年次前期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月		LA逸脱行動と心理学	情報処理演習	社会学総論	初等科教育法(生活)
火		基礎中国語 I	教育・発達心理学	教育課程概論	
水	教職概論	生徒指導と進路指導の理論と方法	哲学総論	初等科教育法(外国語)	
木		中級英語	基礎中国語 I	スポーツ健康実習	
金	教育史概論	グローバル化/ローカル性とジェンダー		人間と発達	初等科教育法(算数)
土					

Ochadai Life

Campus Life

お茶大生の日



理学部生

溝口 真悠さん

理学部 物理学科 3年
物理学主プログラム・物理学強化プログラム

自由と自立

一人暮らしの最大の魅力は、やはり、自由であることです。好きなときにご飯を食べ、いつ帰宅しても構わない。友人を招いたり一人でのんびりしたりと暮らし方は自分次第。そんなことができるのは、一人暮らしならではです。しかしその反面、生活費の管理を怠ったり、料理や掃除を後回しにしたりすれば、生活はたちまち乱れてしまいます。そんなことに気付けるのも、一人暮らしならでは、なのかもしれません。自立をし、自由を味わう。それが大学生活の醍醐味になると思います。自分なりの生活を、思いのままに愉しんでみませんか？

お茶大を選んだ理由

科目配点と問題傾向が自分にとって有利だったからです。物理学科の個別試験は化学が必要なく、物理と数学の配点が高いことが、自分の得手不得手と一致していました。また、解答の際は、記述の過程が重視されることも利点でした。そのほか、共通テストの点数や、立地などを考慮して志望校を決めました。

MY STORY

自己表現の場

幼少期からエレクトーンに親しみ、現在はサークルで活動しています。楽譜を書き、音色を打ち込み、練習を重ねて創り上げた音楽を舞台上で奏でる一その喜びは何事にも代え難いものです。確かに編曲や練習は大変ですが、仲間がいて、本番の楽しさがあるからこそ続けてこられました。これからも自己表現の場として、積極的に活動していきたいです。



ONE DAY SCHEDULE

5 ●	就寝	17 ●	勉強、自由時間
6 ●	起床、家事、朝食、身支度など	18 ●	帰宅
7 ●		19 ●	
8 ●	通学	20 ●	入浴、夕食
9 ●	勉強、自由時間	21 ●	自由時間
10 ●		22 ●	
11 ●	授業	23 ●	就寝
12 ●		24 ●	
13 ●	昼食	1 ●	
14 ●	授業	2 ●	
15 ●		3 ●	
16 ●		4 ●	

[時間割例] 1年次後期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	統計学	現代アジア諸語		電磁気学演習	
火	基礎英語	解析力学	電磁気学	スポーツ健康実習	
水	情報学演習 I	生命と環境 6 惑星地球の科学			
木			初等線形代数	初等解析学	
金			物理数学		
土	宇宙・地球科学				



生活科学部生
叶内 理帆さん
生活科学部 食物栄養学科 2年
食物栄養専修プログラム

素敵な出会いがあり、 夢中になれる場所

家族にさまざまな面でサポートしてもらいながら大学生活を送れていることは実家暮らしの強みだと思います。毎日美味しいごはんをにぎやかに食べてたくさんの元気をもらっています。勉学に集中できる環境で興味のあることに挑戦できて、充実しています。教職の授業は1限に始まることが多いため、実家からお茶大まで片道1時間以上かかる通学が大変に感じることもありましたが、乗り換えの駅でアルバイトを始めたり、友だちと遊んだり、買い物をしたりとかけがえのない時間を過ごすことができました。お茶大でみなさんをお待ちしています！

お茶大を選んだ理由

食物栄養学を科学的な視点から考え、少人数授業で学びを深められるお茶大の食物栄養学科に魅力を感じ、さらに、ジェンダーや言語などリベラルアーツの幅広い授業を選択できることに惹かれました。徽音祭でキャンパスの落ち着いた雰囲気やお茶大生の様子を見て、より一層入学したい気持ちが大きくなりました。

MY STORY

イタリアで学んだ食文化

1年次の春休みに、イタリアのローマへ短期留学に行きました。イタリア人の食へのこだわりや伝統的な食事、環境に配慮した取り組みなどを学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごせました。外国の文化を学ぶことでその国の特徴や強みがわかるだけでなく、日本の素晴らしい文化を見つめなおすことができ、良い経験になったと思います。



ONE DAY SCHEDULE

5 ●	就寝	17 ●	課題や予習
6 ●		18 ●	
7 ●	起床、朝食、身支度	19 ●	サークル
8 ●	通学	20 ●	
9 ●		21 ●	帰宅、夕食
10 ●		22 ●	
11 ●	授業	23 ●	お風呂、自由時間
12 ●		24 ●	
13 ●	昼食	1 ●	
14 ●		2 ●	就寝
15 ●	課題や予習	3 ●	
16 ●		4 ●	

[時間割例] 1年次後期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	道徳教育の理論と方法	特別支援教育の理論と方法/総合的な学習の時間の理論と方法			
火			スポーツ健康実習	フランス語初歩	生化学
水	教育原論(思想・歴史)	LA生活世界の安全保障8 ゲノム時代の健康管理			
木	基礎英語	調理科学	解剖生理学	中国語初歩	
金	教育原論(社会・制度)	教育心理	基礎調理学実習	基礎調理学実習	基礎調理学実習
土					



Ochadai Life

Campus Life

お茶大生の日



共創工学部生
永尾 蒼依さん
共創工学部 文化情報工学科 2年
文化情報工学主プログラム

少人数体制による 自由な生活環境

お茶大は少人数体制で、特に共創工学部は設立されたばかりなので先生方とお話する機会が多いです。そのため分からないことがあったときにたずねやすいだけでなく、1年次から研究のお手伝いをさせていただいたりさまざまな場所に招待いただいたりすることもありました。学習や環境への改善点も受け入れて下さるので自分たちで変えていくことができます。また学科内の人数が少ないことで友人ともより仲を深めることができます。受験期は勉強をストレスに感じることも多いと思いますが、ぜひお茶大に入学して一緒に自由な大学生活を楽しみましょう！

お茶大を選んだ理由

私は受験期文理が曖昧だった上に、将来やりたいことも定まっていなかったため、文化情報工学科の入学後にいろんな分野を経験したのちに進路を決めることができる点に惹かれました。また理系分野の進学を考えたとき、共学だと男性率が高いですが、お茶大は女子大であるため選択の幅が広がりそうだと思います。

MY STORY

学科の仲間と作り上げた徽音祭の出店

徽音祭にて学科の出店をする際に、代表を務めました。新設のため学科内に先輩がない中、友人たちと協力して企画や情報収集を行いました。代表として至らぬ点ばかりで、最終的には改善点の多い結果となりましたが、高校までの文化祭とは違い全てを自分たちで作り上げた経験はかけがえのない思い出とともにより仲を深めるきっかけになりました。



ONE DAY SCHEDULE

5 ●	就寝	17 ●	
6 ●		18 ●	
7 ●	起床、朝食、支度、通学	19 ●	
8 ●		20 ●	アルバイト、帰宅
9 ●		21 ●	
10 ●		22 ●	
11 ●		23 ●	
12 ●	授業、課題	24 ●	夕飯、趣味
13 ●		1 ●	
14 ●		2 ●	
15 ●		3 ●	就寝
16 ●		4 ●	

[時間割例] 1年次後期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	統計学	工学基礎解析学	確率序論	プログラミング演習	
火	基礎中国語	データサイエンス	スポーツ健康実習	コンピュータシステム序論	
水					
木		基礎英語		インターネット工学	
金	基礎中国語	LAおいしさ&色・音・香			
土					

奨学金制度

<https://www.ocha.ac.jp/campuslife/scholarship/list.html>
詳細はこちら



本学独自の奨学金一覧

基金の名称	授与対象者	奨学金の額	授与枠		
学部生	みがかずば奨学金 (予約型奨学金)	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 ②当該年度の4月に本学学部1年生に入学する予定の者で、本学に強く入学を志望する者 ③成績、人物とも優秀で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者(①~③のすべてを満たす者)	600,000円 (1年あたり300,000円)	20名	
	学部生成績優秀者奨学金	学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生(中途に休学期間がない者に限る。)のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者	100,000円	25名	
	桜蔭会奨学金	各学部より推薦された学部3年生	200,000円	4名	
	新寮レジデント・アシスタント奨学金 (SCC-RA奨学金)	新寮レジデント・アシスタント(SCC-RA)※活動期間1年 学部1年次から2年間新寮(お茶大SCC)に在寮した学部3年生で、新寮の運営に積極的に協力する者	240,000円 (1月あたり20,000円)	4名	
大学院生	桜蔭会研究奨励賞 (予約型奨学金)	本学学部を卒業し、引き続き本学大学院博士前期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者	200,000円 (1年あたり100,000円)	20名	
	大学院生(博士後期課程)奨学金 (予約型奨学金)	本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き本学大学院博士後期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者	300,000円 (1年あたり100,000円)	10名	
	高田弘子奨学金 (予約型奨学金)	本学大学院博士前期課程又は博士後期課程に在学する者で、帰国後も研究を継続する意思を持って海外研究留学を行う予定又は行っている者	500,000円	前期1名 後期1名	
	創立120周年記念事業 国際交流振興基金・ 桜蔭会国際交流奨励賞	海外留学支援事業	本学大学院博士後期課程修了者又は在学生で、成績優秀かつ将来が囁かれる者のうち海外研修を希望する者	1,500,000円を限度	1~2名
		アジア女性研究者支援事業	本学学生として留学後、アジアの各地域において研究者又は各界の指導者として活躍し来日研修を希望する者		若干名
	坂井満子育英奨学金	本学大学院に在学する者で、学業成績が優秀であり、修学上経済的支援が必要と認められる者	原則500,000円	20名	
	海外留学特別奨学金	①大学間交流協定に基づく交換留学派遣学生等として留学(1年を限度)し、留学先の大学に留学期間中の授業料を納付する者 ②留学期間中、本学の授業料免除の全額免除を受けていない者(①~②のすべてを満たす者)	本学の授業料の年額又は年額の2分の1に相当する額が上限	若干名	
	富永ふみ教育基金	本学正規課程の私費外国人留学生で発展途上国の国籍を有し、成績、人物ともに優秀であり、経済的支援を必要とする者	300,000円	1名	
	学部生・大学院生	小澤美奈子奨学金 (予約型奨学金)	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者で、引き続き本学の理工系分野の学科に強く入学を志望する者又は本学学部を3月に卒業見込みの者で、引き続き本学大学院博士前期課程の理工系分野の専攻に強く進学を志望する者 ②成績、人物とも優秀で、大学又は大学院において修学上経済的支援が必要と認められる者 (①~②のすべてを満たす日本国籍を有する者)	学部生 1,000,000円 (1年あたり250,000円) 大学院生 500,000円 (1年あたり250,000円)	学部2名 前期2名
		宮島直美国際交流基金	理系大学院生派遣事業	バーギンシェ・ブツバートル大学での研修留学へ応募し選考された者	旅費等 400,000円 補助費 50,000円
日韓3女子大学交流合同シンポジウム			韓国で開催する年の梨花女子大学校での発表会へ応募し選考された者	旅費等 上限 100,000円	10名
育児支援奨学金		本学の正規学生で本学が設置する保育所を利用する者	原則、保育料の半額	制限なし	

基金の名称	授与対象者	奨学金の額	授与枠
保井・黒田奨学金	自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	30,000円	5名
被服学奨学金	被服学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	制限なし
食物学奨学金	食物学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	若干名
家庭経営学奨学金	家庭経営学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	1~2名
大学院研究科奨学金	本学大学院博士後期課程において研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	1~2名
池田摩耶子記念奨学金	1. 本学大学院において国際的な研究に従事し、成績顕著な者 2. 学部、大学院に私費で在学する外国人留学生で成績顕著な者	200,000円	若干名
池田重記念奨学金		200,000円	
湯浅年子記念特別研究員奨学金	本学出身者、在学する者又は附属高等学校出身者で、自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	一般給付: 博士前期課程 月額860ユーロ 博士後期課程 月額1,588ユーロ (6ヶ月~10ヶ月) 研究実習: 博士後期課程 月額1,704ユーロ	1名
数学奨学金	本学出身者又は本学大学院博士前期課程及び学部在学する者で、数学の成績顕著な者	100,000円	原則1名
生物学優秀学生賞奨学金	本学に在学する者で、生物学の成績顕著な者	50,000円	1名
グローバル文化学環奨学金	本学文教育学部グローバル文化学環に卒業研究を提出した者で、研究の評価が顕著な者	20,000円	1~2名
化学科(宮島直美)奨学金	本学理学部化学科及び大学院に在学する者で、化学の成績顕著な者	100,000円	理2名 前期2名 後期1名
生物学科(小沼英子)奨学金	本学理学部生物学科に在学する者で、成績及び人物が優秀であり、奨学金を授与することで学部における修学及び研究生活が支援される者	500,000円を限度	1名
竹村和子海外研修奨学金	本学大学院に在学する者で、成績顕著な者	1年目 2,000,000円 2年目 1,000,000円	原則1名
竹村和子奨学金	本学大学院博士前期課程に在学する者で、成績顕著な者	50,000円	1名
菅聡子奨学金	本学大学院博士後期課程において日本語日本文学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	250,000円	1~2名
矢部吉禎・矢部愛子奨学金	本学学部または大学院に在学する者で、植物学または数学を学ぶ者のうち、学業成績や研究能力が優秀な者	500,000円	植物3名 数学3名
自然地理学奨学金	本学文教育学部人文科学科地理学コース及び大学院に在学する者で、自然地理学関係の研究に従事し、優れた研究が見込める者	国内調査20,000円又は海外調査40,000円	3名
松本千代榮奨学金	本学文教育学部芸術・表現行動学科卒業時に優れた卒業論文を提出した者で、本学大学院博士前期課程において舞踊・表現行動学関係の研究に従事し、優れた研究が見込める者	100,000円	2名

入学料・授業料・減免制度

●入学料 **282,000円**(予定額) ●授業料半期分 **267,900円**(年額 535,800円)(予定額) *入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

入学料及び授業料の減免・徴収猶予制度について

経済的理由により納付が困難であり、かつしっかりとした学ぶ意欲のある学生に対し、入学料・授業料減免や徴収猶予をする制度があります。うち日本人学部学生に対する入学料・授業料減免は、高等教育の修学支援新制度と呼ばれる日本学生支援機構が実施する給付奨学金によって行われます。

私がお茶の水女子大学を選んだ理由

少人数で育む密な学びを

お茶大は、少人数制の授業が大きな特色であることを知り、「先生方の手厚いご指導のもと、見識を深めたい」と志望を決めました。ことばに触れる魅力と向き合っていたいという思いで、文学研究の世界に興味をもっていた私にとって、先生や学友と近い距離で文学について語り合える環境は、大切な学びの場となっています。

文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース 4年 N.Aさん

女性の社会参画と教育を深く学ぶ場に惹かれて

教育制度や教育史などさまざまな視点から学校を含めた教育について学びたいと思っていました。加えて、キャンパスの中にこども園から高校まであり、附属校での研究にも関心があったこと、さらに教員免許も取得できる教育科学コースがあることが志望した理由です。また、ジェンダー指数の低い日本で、女性がどのように生きていくのか、女性がリーダーシップをとることの意義について学ぶことができる点にも強く惹かれました。

文教育学部 人間社会科学科 教育科学コース 3年 H.Yさん

少人数制教育で専門性を高めたい

3年次編入では専門的に学びたい分野を明確にすることが重要だと考えています。私は特に有機化学の勉強が楽しく、有機合成や創薬化学の研究をしたいと思いました。また、わからないことがあったらすぐに解決したいので、先生に質問しやすいような環境が良いと考え、少人数制で学ぶことができるお茶大を志望しました。

理学部 化学科(3年次編入)4年 H.Hさん

継続的に研究に没頭できる環境

私は小学生の頃より、植物の成長原理の研究を継続してきました。大学でも研究に力を入れていきたいと思った時にお茶大の生物学科のアドバンスプログラム制度を知りました。通常の研究室配属は3年生後期ですが、この制度で1年生から研究室に所属できます。早期から研究に触れられる環境に惹かれ、お茶大を選びました。

理学部 生物学科 4年 I.Hさん

栄養に興味があるなら、学びも人も魅力的なお茶大

私がお茶大を選んだ理由は栄養に関する勉強をしたいと思ったからです。国立大学で、卒業時に管理栄養士の国家試験受験資格を得られることが一番の理由でした。実際に入学して2年経ちますが、先生はもちろん同級生も先輩も後輩も尊敬できる人ばかりで、居心地が良く、お茶大を選んで本当によかったと感じています。

生活科学部 食物栄養学科 3年 H.Mさん

広い教養と深い専門性を同時に叶えられる場所

私がお茶の水女子大学を志望したのは、教養と専門性を同時に学べる環境に魅力を感じたからです。私は一級建築士を目指しており、受験資格の得られる大学を調べました。その中で、一年から専門分野だけに重点を置くのではなく、リベラルアーツ教育や多分野にわたる講座を展開する学科があることを知り進学を決めました。

生活科学部 人間・環境科学科 3年 K.Rさん

多面的な興味を追求できる場所

人文学系の分野にも情報・工学系の分野にも興味のある私にとって、文理融合の文化情報工学科はまさに学びたいことを叶えられる場所でした。興味のある研究ができること、そして女子大工学科の過ごしやすいに惹かれて受験を決めました。少人数かつ先生との距離が近いことも、お茶大ならではの魅力だと感じています。

共創工学部 文化情報工学科 2年 T.Mさん

視野を広げる学びと出会える環境

私は文系出身で音楽を対象に研究してみたいと考えていたところ、文化情報工学科の存在を知り、工学という私にとって新しい視点から音楽にアプローチするのも面白そうだと思い、興味を持ちました。また、さまざまな芸術や体験にアクセスしやすい立地も、お茶大への進学の決め手の1つになりました。

共創工学部 文化情報工学科 2年 T.Cさん

入試関連情報

- 113 2026年度 入学者選抜に関する変更点
- 114 2026年度 入学試験一覧
- 115 2026年度 入学者選抜日程

一般選抜

- 116 試験教科・科目別配点
- 117 実技検査

2025年度 入学試験実施状況

- 118 一般選抜/特別選抜(志願者・合格者等)
- 119 一般選抜の合格者数・最高点・最低点・平均点
志願者・合格者の出身高校所在分布

入試関連情報の入手方法等

- 120 学生募集要項の公表時期/資料請求
スマートフォンアプリの
プッシュ通知による情報提供/ホームページ

※入試関連情報については、変更の可能性もあるため、該当する年度の募集要項を必ず確認してください。

<https://www.ao.ocha.ac.jp>



2026年度入学者選抜に関する変更点

○一般選抜(後期日程)出願教科・科目、配点の変更について

理学部生物学科では、アドミッションポリシーに適合した学生を、より適切に選抜する観点から、下表のとおり配点を変更します。

(変更前)

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験		合計
	国語	*1 地歴 公民	*2 数学	*2 理科	外国語	情報	計	面接 (口述試験を含む)	計	
生物学科	25	25	50	125	50	25	300	300	300	600

(変更後)

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験		合計
	国語	*1 地歴 公民	*2 数学	*2 理科	外国語	情報	計	面接 (口述試験を含む)	計	
生物学科	25	25	50	125	50	25	300	100	100	400

[注] *1: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。

*2: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。

その他、最新情報は「令和8年度入学者選抜要項」及び各種学生募集要項又はホームページで確認してください。(P120を参照してください。)

2026年度 入学試験一覽

〈募集人員〉

学部	学科等	入学定員	一般選抜		特別選抜					
			前期日程 *1*2*4	後期日程	学校推薦 型選抜	帰国生徒・ 外国学校 出身者 特別選抜*4	私費外国人 留学生 特別選抜	総合型選抜 (新フンボルト 入試)	高大連携 特別選抜 *1	
文教育学部	人文科学科	50	32	8	10	若干名	若干名	文系全体で 12名*2	若干名	
	言語文化学科	73	59	—*3	14	若干名	若干名		若干名	
	人間社会科学科*8	37	22(12)	5(3)	10(10)	若干名	若干名		若干名	
	芸術・表現 行動学科	舞踊教育学専修プログラム	14	12	—*3	2	若干名	若干名	—*5	若干名
		音楽表現専修プログラム	11	5	2	4	若干名	若干名	若干名	
計	185	130	15	40						
理学部	数学科	20	14	3		若干名	若干名	3	若干名	
	物理学科	20	14	3		若干名	若干名	3	若干名	
	化学科	20	15	3	—*6	—*7	若干名	2	若干名	
	生物学科	24	17	3		若干名	若干名	4	若干名	
	情報科学科	36	21	8		若干名	若干名	7	若干名	
計	120	81	20					19		
生活科学部	食物栄養学科	36	31	3	—*6	—*7	若干名	2	若干名	
	人間生活学科	39	32	—*3	7	若干名	若干名	文系全体で 12名*2	若干名	
	心理学科	26	23	—*3	3	若干名	若干名		若干名	
	計	101	86	3	10			2		
共創工学部	人間環境工学科	26	19	5	—*6	—*7	若干名	2	—*9	
	文化情報工学科	20	14	—*3	6	若干名	若干名	文系全体で 12名*2	—*9	
	計	46	33	5	6			2		
合計	452	330	43	56				23		

- [注] *1:「高大連携特別選抜」—本学附属高等学校からの学校推薦型選抜—(共創工学部を除く3学部で定員10名)は、前期日程に含む。
 *2:文系学科(文教育学部人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科及び生活科学部人間生活学科、心理学科及び共創工学部文化情報工学科)における「総合型選抜」の募集人員(12名)は、前期日程に含む。
 *3:文教育学部言語文化学科、芸術・表現行動学科舞踊教育学専修プログラム、生活科学部人間生活学科、心理学科、共創工学部文化情報工学科では、前期日程のみの募集で、後期日程の募集は行わない。
 *4:「帰国生徒・外国学校出身者特別選抜」の合格者(若干名)は、前期日程の合格者に含む。
 *5:文教育学部芸術・表現行動学科では総合型選抜の募集は行わない。
 *6:理系学科(理学部全学科、生活科学部食物栄養学科、共創工学部人間環境工学科)では、学校推薦型選抜の募集は行わない。
 *7:理学部化学科、生活科学部食物栄養学科、共創工学部人間環境工学科では、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜の募集は行わない。
 *8:文教育学部人間社会科学科の各選抜の募集人員()は「教育科学・子ども学コース」の募集人員を内数で示す。小学校又は幼稚園の教員免許取得希望者は、「教育科学・子ども学コース」に出願すること。学校推薦型選抜と帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、「教育科学・子ども学コース」のみの募集となる。
 *9:共創工学部では、高大連携特別選抜の募集は行わない。

〈検定料〉

- 第3年次編入学試験:30,000円 (参考)入学科:282,000円(予定額)
 ○その他入学試験(大学入学共通テストを除く):17,000円 授業料半期分:267,900円(年額535,800円)(予定額)
 *入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

2026年度 入学者選抜日程 (2026年4月入学)

出 出願期間 試 試験日 合 合格発表日 締 入学手続締切日

入試方式	~8月	9月	10月	11月	12月
第3年次編入学 (理学部・共創工学部)	出 6/2(月) 6/25(水) 7/3(木) ~ 6/4(水)				締 12/19(金) ~ 12/25(木)
第3年次編入学 (文教育学部・生活科学部)		出 9/9(火) ~ 9/11(木)	第1次選考日 10/4(土) 第1次合格発表日 10/9(木) 第2次選考日 10/29(水)	第2次合格発表日 11/13(木)	締 12/19(金) ~ 12/25(木)
文系総合型選抜 (新フンボルト入試)	出 *4 9/1(月)~ 9/2(火) (8/29(金)~ 9/2(火))	第1次選考日 (プレゼミナル) 9/27(土)	第1次合格発表日 10/3(金)	第2次選考日 10/18(土) ~ 10/19(日)	第2次合格発表日 11/1(土) 締 12/19(金) ~ 12/25(木)
理系総合型選抜 (新フンボルト入試)			出 *4 10/21(火)~10/23(木) (10/17(金)~10/23(木))	第1次合格発表日 11/14(金) (書類選考)	第2次選考日 12/6(土) 第2次合格発表日 12/18(木) 締 12/19(金) ~ 12/25(木)
学校推薦型選抜				出 *4 11/4(火)~ 11/5(水) (10/31(金)~ 11/5(水))	第1次合格発表日 11/14(金) (書類選考) 第2次選考日 12/6(土)~ 12/7(日)*3 第2次合格発表日 12/18(木) 締 12/19(金) ~ 12/25(木)
帰国生徒・外国学校出身者特別選抜			出 *4 10/21(火)~10/23(木) (10/17(金)~10/23(木))	第1次合格発表日 11/14(金) (書類選考)	第2次選考日 12/6(土) ~ 12/7(日)*3 合 12/18(木) 締 12/19(金) ~ 12/25(木)

入試方式	12月	1月	2月	3月
一般選抜 (前期日程)		出 *4 1/26(月)~ 2/4(水) (1/23(金)~ 2/4(水))	試 2/25(水) ~ 2/26(木)*1	合 3/9(月) 締 3/10(火) ~ 3/15(日)
一般選抜 (後期日程)*2		出 *4 1/26(月)~ 2/4(水) (1/23(金)~ 2/4(水))		試 3/12(木) 合 3/20(金・祝) 締 3/21(土) ~ 3/27(金)
私費外国人留学生特別選抜	出 12/9(火) ~ 12/11(木)		試 2/25(水) ~ 2/26(木)	合 3/9(月) 締 3/10(火) ~ 3/15(日)

- [注] *1:一般選抜(前期日程)の2月26日(木)は、「文教育学部芸術・表現行動学科」、「理学部全学科」、「生活科学部食物栄養学科」、「共創工学部人間環境工学科」のみ実施します。
 *2:「文教育学部言語文化学科」、「文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学専修プログラム」、「生活科学部人間生活学科」、「生活科学部心理学科」、「共創工学部文化情報工学科」は、一般選抜(後期日程)を行いません。
 *3:学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜第2次選考の12月7日(日)は、文教育学部及び「共創工学部文化情報工学科」のみ実施します。
 *4:出願期間の括弧内はインターネット出願登録期間です。(私費外国人留学生特別選抜と第3年次編入学試験は、紙願書による出願となります。)

一般選抜

〈試験教科・科目別配点〉

全学部共通事項 大学入学共通テストの外国語「英語」については、リーディング(100点)とリスニング(100点)の合計得点を、1:1の比率を変えず各学科等の配点に圧縮して換算する。(但し、リスニング免除者を除く)

■ 前期日程：文教育学部

試験区分		大学入学共通テスト ^{*1}						本学の試験					合計
学科等	教科・科目等	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	情報	国語 ^{*2}	数学 ^{*2}	外国語	実技	計	
													人文科学科
言語文化学科				400				200	—	200	—	400	800
人間社会科学科				400				(200)	(200)	200	—	400	800
芸術・表現行動学科	舞踊			400				(100)	(100)	100	200	400	800
	音楽			400				(200)	(200)	200	*3	400	800

【注】*1: 大学入学共通テストは、国語200点、地理歴史・公民200点(地理歴史から1、公民から1の計2科目又は、地理歴史から2科目のいずれかの組み合わせ)、数学200点(2科目の合計点)、理科100点、外国語200点、情報50点の合計点950点を400点満点に換算する。
*2: 人文科学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科は、本学の試験「国語、数学」から1教科選択。
*3: 芸術・表現行動学科音楽表現専修プログラムの実技は、実技検査全科目(各科目100点満点)の平均点が60点未満もしくは50点未満の科目がある場合、不合格となる。

■ 前期日程：理学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験							合計		
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	計	数学 ^{*3}			理科 ^{*3}					外国語	計
									数学共通	数学専門	数学	物理	化学	生物				
									数学科		50	25	50	50	50	25		
物理学科		25	25	50	50	100	25	275	100	—	100	200	—	—	50	450	725	
化学科		100	50	100	100	100	50	500	100	—	—	(100)	250	(100)	100	550	1050	
生物学科		50	25	100	100	100	25	400	100	—	—	(100)	(100)	200	100	500	900	
情報科学科		100	50	100	100	100	50	500	200	—	(100)	(100)	(100)	(100)	100	500	1000	

【注】*1: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
*2: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
*3: 数学科、化学科、生物学科は本学の試験「理科」のうち配点に()をつけたものから1科目選択、情報科学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に()をつけたものから2科目選択。

■ 前期日程：生活科学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験					合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*3}	外国語	情報	計	国語 ^{*4}	数学 ^{*4}	理科	外国語	計	
														食物栄養学科
人間生活学科		100	100	100	50	100	50	500	(250)	(250)	—	250	500	1000
心理学科		100	50	100	100	100	50	500	(250)	(250)	—	250	500	1000

【注】*1: 食物栄養学科、心理学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。人間生活学科は地理歴史から1、公民から1の計2科目、又は地理歴史から2科目選択。
*2: 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。
*3: 食物栄養学科の大学入学共通テスト「理科」は2科目の合計点とする。
*4: 人間生活学科、心理学科は本学の試験「国語、数学」から1教科選択。

■ 前期日程：共創工学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験							合計			
学科	教科・科目等	国語	地歴公民	数学 ^{*1}	理科	外国語	情報	計	国語 ^{*6}	数学 ^{*5}			理科 ^{*5}				外国語	計	
										数学	数学	物理	化学	生物					
										人間環境工学科		100	50 ^{*2}	100	100 ^{*3}	100			50
文化情報工学科		100	(150) ^{*4}	100	(150) ^{*4}	100	50	500	(200)	(200)	—	—	—	—	200	400	900		

【注】*1: 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。
*2: 人間環境工学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
*3: 人間環境工学科は大学入学共通テスト「理科」は2科目の合計点とする。
*4: 文化情報工学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民、理科」から3科目選択。各科目50点として合計150点とする。
*5: 人間環境工学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に()をつけたものから2科目選択。
*6: 文化情報工学科は本学の試験「国語、数学」から1科目選択。

■ 後期日程：文教育学部

試験区分		大学入学共通テスト						本学の試験			合計	
学科等	教科・科目等	国語	地歴公民	数学 ^{*4}	理科	外国語	情報	計	小論文	実技		計
											人文科学科 ^{*1}	
人間社会科学科 ^{*2}		100	100	100	50	100	50	500	100	—	100	600
芸術・表現行動学科	音楽	100	—	100	—	200	—	400	—	*3	—	400

【注】*1: 人文科学科は大学入学共通テスト「国語」、「地理歴史・公民、理科から1」、「数学」、「外国語」、「情報」から3教科・科目を選択。本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典(電子式を除く)の持ち込みを認める。
*2: 人間社会科学科の大学入学共通テスト「地理歴史・公民」は、地理歴史から1、公民から1の計2科目又は地理歴史から2科目を選択。
*3: 芸術・表現行動学科音楽表現専修プログラムの実技は、実技検査全科目(各科目100点満点)の平均点が60点未満若しくは50点未満の科目がある場合、不合格となる。
*4: 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。

■ 後期日程：理学部

試験区分		大学入学共通テスト						本学の試験			合計	
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	計	論述試験	面接		計
											数学科	
物理学科		50	50	200	200	100	50	650	—	—	—	650
化学科		100	50	100	200	100	50	600	150	—	150	750
生物学科		25	25	50	125	50	25	300	—	100	100	400
情報科学科		100	50	400	200	200	50	1000	200	—	200	1200

【注】*1: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
*2: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。

■ 後期日程：生活科学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験		合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	合計	面接		
										食物栄養学科	

【注】*1: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
*2: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
*3: 本学の試験「面接」は、ABC評価による合格判定の資料とする。

■ 後期日程：共創工学部

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験		合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	情報	合計	面接		
										人間環境工学科	

【注】*1: 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。
*2: 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
*3: 本学の試験「面接」は、ABC評価による合格判定の資料とする。

〈実技検査〉

学部	学科	専修プログラム	摘要
文教育学部	芸術・表現行動学科	舞踊教育学	内容については、「令和8年度入学者選抜要項」(7月上旬発行)及び「令和8年度学生募集要項」(10月上旬公開)で確認すること。本学のホームページにも掲載する。 https://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html
		音楽表現	

2025年度 入学試験実施状況

〈一般選抜（志願者・合格者等）〉

学部学科等	種別	前期日程						後期日程					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率 ^(*)	入学者数	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率 ^(*)	入学者数
文教教育学部	人文学科	32	69	68	33	2.06	29	8	166	75	9	8.33	9
	言語文化学科	59	187	184	68	2.71	61	-	-	-	-	-	-
	人間社会学科	22	54	53	21	2.52	18	5	73	26	9	2.89	8
	教育科学・子ども学(内数)	(12)	(27)	(26)	(12)	2.17	(10)	(3)	(23)	(10)	(4)	2.50	(4)
	芸術・表現 行動学科	12	33	32	12	2.67	12	-	-	-	-	-	-
	計	130	353	347	139	2.50	125	15	256	112	20	5.60	19
理学部	数学科	14	53	51	17	3.00	16	3	43	43	3	14.33	1
	物理学科	14	42	41	19	2.16	19	3	16	16	3	5.33	2
	化学科	15	26	25	16	1.56	14	3	19	6	3	2.00	3
	生物学科	17	53	50	18	2.78	18	3	29	15	3	5.00	2
	情報科学科	21	63	57	24	2.38	23	8	48	13	8	1.63	7
	計	81	237	224	94	2.38	90	20	155	93	20	4.65	15
生活科学部	食物栄養学科	31	98	95	30	3.17	29	3	39	19	4	4.75	4
	人間生活学科	32	61	61	34	1.79	33	-	-	-	-	-	-
	心理学科	23	96	95	23	4.13	23	-	-	-	-	-	-
計	86	255	251	87	2.89	85	3	39	19	4	4.75	4	
共創工学部	人間環境工学科	19	36	33	20	1.65	20	5	22	5	5	1.00	4
	文化情報工学科	14	40	39	14	2.79	11	-	-	-	-	-	-
	計	33	76	72	34	2.12	31	5	22	5	5	1.00	4
総計		330	921	894	354	2.53	331	43	472	229	49	4.67	42

※ 倍率は、受験者÷合格者。小数点以下第三位を四捨五入。
 ※ 追加合格を実施した場合、合格者数には追加合格も含める。

〈特別選抜（志願者・合格者等）〉

学部学科等	種別	学校推薦型				帰国生徒等				私費外国人留学生				
		募集人員	志願者数	合格者数	志願倍率	入学者数	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
文教教育学部	人文学科	10	32	11	3.20	11	若干名	2	1	1	若干名	1	1	1
	言語文化学科	14	24	13	1.71	13	若干名	2	1	1	若干名	3	0	0
	人間社会学科	10	42	11	4.20	11	若干名	4	0	0	若干名	4	0	0
	教育科学・子ども学(内数)						若干名				若干名	(0)	(0)	(0)
	芸術・表現 行動学科	2	28	2	14.00	2	若干名	1	1	1	若干名	1	0	0
	計	40	142	41	3.55	41		9	3	3		9	1	1
理学部	数学科	-	-	-	-	-	若干名	0	0	0	若干名	1	1	1
	物理学科	-	-	-	-	-	若干名	1	1	0	若干名	0	0	0
	化学科	-	-	-	-	-	若干名	-	-	-	若干名	1	0	0
	生物学科	-	-	-	-	-	若干名	0	0	0	若干名	1	0	0
	情報科学科	-	-	-	-	-	若干名	0	0	0	若干名	0	0	0
計	-	-	-	-	-		1	1	0		3	1	1	
生活科学部	食物栄養学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	若干名	1	0	0
	人間生活学科	7	29	7	4.14	7	若干名	1	0	0	若干名	1	0	0
	心理学科	3	14	3	4.67	3	若干名	3	1	1	若干名	1	0	0
計	10	43	10	4.30	10		4	1	1		3	0	0	
共創工学部	人間環境工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	若干名	1	0	0
	文化情報工学科	6	28	7	4.67	7	若干名	0	0	0	若干名	0	0	0
計	6	28	7	4.67	7		0	0	0		1	0	0	
総計		56	213	58	3.80	58		14	5	4		16	2	2

※ 志願倍率は、小数点以下第三位を四捨五入。

学部学科等	種別	総合型			
		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
文教教育学部	人文学科	文系全体 12名	文系全体 117	4	文系全体 13
	言語文化学科			3	
	人間社会学科			3	
	教育科学・子ども学コース(内数)			(2)	
	芸術・表現 行動学科	-	-	-	-
計			10		
理学部	数学科	3	10	4	4
	物理学科	3	4	1	1
	化学科	2	7	2	2
	生物学科	4	7	4	4
	情報科学科	7	16	8	8
計	19	44	19	19	
生活科学部	食物栄養学科	2	14	2	2
	人間生活学科	文系全体	文系全体	0	文系全体 13
	心理学科	12名	117	1	
計	2	14	3	2	
共創工学部	人間環境工学科	2	14	2	2
	文化情報工学科	文系全体 12名	文系全体 117	2	文系全体 13
	計	2	14	4	2
総計		23	189	36	36

種別	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
高大連携特別選抜	若干名(10名程度)	9	9	9

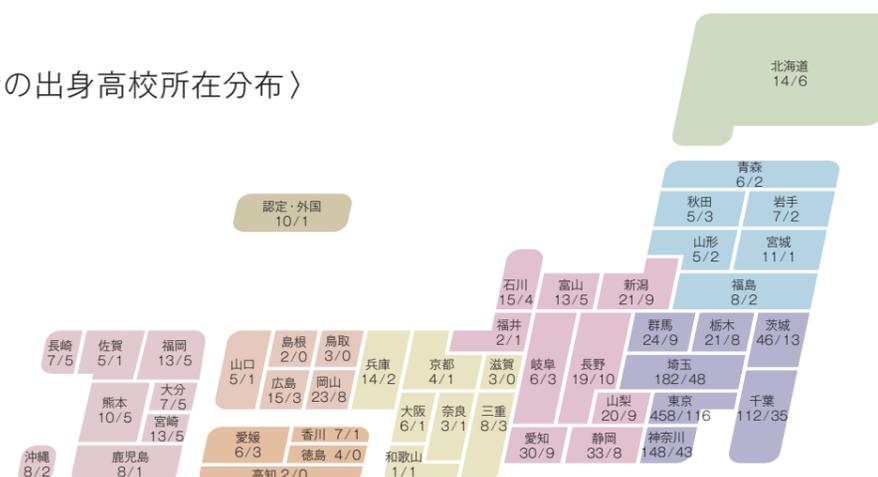
〈一般選抜の合格者数・最高点・最低点・平均点〉

学部学科等	種別	前期日程				後期日程					
		配点	合格者数	最高点	最低点	平均点	配点	合格者数	最高点	最低点	平均点
文教教育学部	人文学科	800	33	662	566	601	250	9	※1	※1	※1
	言語文化学科	800	68	675	565	593	-	-	-	-	-
	人間社会学科	800	9	※1	※1	※1	600	5	※1	※1	※1
	教育科学・子ども学コース	800	12	685	575	608	600	4	※1	※1	※1
	芸術・表現 行動学科	800	12	594	503	533	-	-	-	-	-
	音楽表現	800	5	※2	※2	※2	400	2	※2	※2	※2
理学部	数学科	750	17	556	430	459	500	3	※3	※3	※3
	物理学科	725	19	599	443	505	650	3	※3	※3	※3
	化学科	1050	16	836	711	766	750	3	※1	※1	※1
	生物学科	900	18	668	604	633	600	3	※1	※1	※1
	情報科学科	1000	24	795	683	724	1200	8	※1	※1	※1
生活科学部	食物栄養学科	1000	30	858	727	765	700	4	※4	※4	※4
	人間生活学科	1000	34	810	667	721	-	-	-	-	-
	心理学科	1000	23	810	723	746	-	-	-	-	-
共創工学部	人間環境工学科	1000	20	838	699	762	800	5	※4	※4	※4
	文化情報工学科	900	14	791	657	707	-	-	-	-	-

[注] ※1 各学科ごとの合格者が10名以下の場合、当該学科の合格者の最高点、最低点、平均点は開示しません。
 ※2 文教教育学部芸術・表現行動学科音楽表現専修プログラムは、実技検査が総合判定の資料となっているため開示しません。
 ※3 後期日程 理学部数学科、物理学科は、大学入学共通テストのみのため開示しません。
 ※4 後期日程 生活科学部及び共創工学部は、面接が総合判定の資料となっているため開示しません。

〈志願者・合格者の出身高校所在分布〉

志願者/合格者（一般選抜）



入試関連情報の入手方法等

〈学生募集要項の公表時期〉

募集要項等の種別	公表予定時期
一般選抜(前期日程・後期日程)	10月上旬
総合型選抜学生募集要項	7月上旬
学校推薦型選抜学生募集要項	7月上旬
帰国生徒等学生募集要項	7月上旬
私費外国人留学生学生募集要項	9月上旬
文教育学部、生活科学部 第3年次編入学学生募集要項	7月下旬

※ 学生募集要項は表に記載の時期になりましたら入試課ホームページにPDF版を掲載します。
<https://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>

〈資料請求〉

1 インターネットで請求する場合

- 1 テレメールにアクセスしてください。

<https://telemail.jp>
 資料請求はこちら(資料請求番号の入力不要)



- 2 お茶の水女子大学資料請求番号(6桁)を入力してください。

資料名	資料請求番号
大学案内	562370
入学者選抜要項	582370
一般選抜募集要項	582350

※ 学生募集要項のうち、一般選抜のみテレメールで冊子の募集要項を請求できます。
 ※ 資料は通常、発送日のおおむね3～5日後にお届けできます。ただし、土曜・日曜・祝日の配達はありません。お届け先地域や郵便事情によってお届けに1週間ほど要する場合があります。16時までの受付は当日発送、16時以降の受付は翌日発送となります。ただし、発送開始前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日に一斉に発送します。なお、発送開始日は変更になる場合があります。
 ※ 料金のお支払い方法は「コンビニ支払い」「auPAY 請求書支払い」「携帯キャリア払い」「PayPay」「クレジットカード払い」がご利用になります。なお、支払い時に手数料として、コンビニ支払いとauPAY 請求書支払いは118円、携帯キャリア払い、PayPayとクレジットカード払いは30円が別途必要です。1回分の手数料で、複数資料の料金を同時に支払うこともできます。

- 3 操作方法については、ガイダンスに従ってください。

テレメールでの資料請求に関するお問い合わせ先
 テレメールカスタマーセンターIP電話050-8601-0102(受付時間9:30～18:00)

2 大学のホームページから請求する場合

大学のホームページからでもテレメールにアクセスできます。入試課宛に直接請求もできます。(切手を貼付した返信用封筒が必要です)
 詳しくは、入試課ホームページをご覧ください。 <https://www.ao.ocha.ac.jp/application/howto/index.html>

〈スマートフォンアプリのプッシュ通知による情報提供〉

本学受験を検討されている方を対象に、スマートフォンの通知機能を用いた情報提供サービスを開始しました。登録は無料です。
 受験者を対象とするイベントのお知らせ、入試に係わる日程、出願受付の開始等、タイムリーに配信いたします。

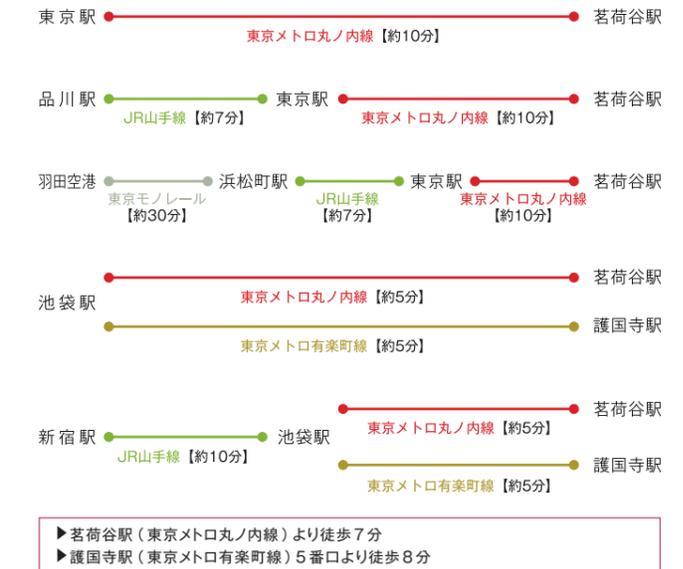


<https://ocha-nyushi.pushappuniv.com/>

〈ホームページ〉

<https://www.ao.ocha.ac.jp> 入試最新情報は「お茶の水女子大学ホームページ」をご覧ください。

ACCESS MAP



AREA MAP



CAMPUS MAP

施設一覧

- 1 大学本館
- 2 大学講堂(徽音堂)
- 3 総合研究棟
- 4 生活科学部本館2
- 5 お茶大アカデミック・プロダクション研究棟
- 6 屋外エレベーター棟
- 7 ラジオアイソトープ実験センター
- 8 理学部1号館
- 9 理学部2号館
- 10 理学部3号館
- 11 情報基盤センター棟
- 12 附属図書館
- 13 学生センター棟
- 14 文教育学部1号館
- 15 共通講義棟1号館
- 16 共通講義棟2号館
- 17 共通講義棟3号館
- 18 大学食堂(NSSOL Kitchen)
- 19 保健管理センター
- 20 お茶の水女子大学音羽館
- 21 弓道場
- 22 文教育学部2号館
- 23 Student Commons
- 24 課外活動団体談話室
- 25 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟
- 26 茶室(芳香庵)
- 27 大学体育館
- 28 附属幼稚園
- 29 附属小学校
- 30 附属中学校
- 31 附属高等学校
- 32 国際交流留学生プラザ
- 33 いずみナーサリー
- 34 大塚宿舎
- 35 こども園

